

令和7年度 北見医師会看護専門学校
看護学科 3年課程

授業計画書（シラバス）

授業科目とその概要

分野	(頁)	授業科目	履修年	単位	時間数	実務経験のある教員等	概要	講師
基礎分野	科学的思考の基盤	1 論 理 学	1	1	15	-	論理的な思考について学び、他者の考えを理解し、自分の考えを他者に伝える意思疎通の能力や、複数の人間が集まって共同で問題を検討する集団思考の能力を身につける。	長谷川 英樹
		2 教 育 学	3	1	15	-	学習と教育について、学習の原理について学び、看護の対象への指導・教育技術の基礎を養う	植松 人美
		3 文 章 表 現 法	1	1	30	-	看護において、論理的に考え、客観的事実や自分の考えを正確に伝えることは、対象の安全を守り、医療チームの任務遂行の上で基本的かつ重要なことである。日本語の文章表現法を学び、適切な文章表現方法を身につけ、レポートや看護記録における文章表現能力向上と実践の場での伝達能力を養う。	長谷川 英樹
		4 情 報 科 学 I	1	1	15	-	コンピューターの基礎的知識と基本操作を身につけ、医療現場で普及している電子化に対応するための能力を身につける。高度情報社会における情報管理方法や倫理について理解を深める	太田 敏彰 有田 健一
		5 情 報 科 学 II	3	1	30	-	医療・看護における統計の意義やその手技、看護研究に必要な統計的手法を理解する	中垣 淳
		6 看 護 物 理 学	1	1	15	-	看護技術の基礎となる物理学の原理・原則を知り、根拠を持った看護技術を実践するための基礎的知識を学ぶ。	後藤 重孝
	人間と人間生活の理解	7 生 活 の な り た ち	1	1	15	-	衣食住・経済・冠婚葬祭など暮らしの中の基本的な知識と現代社会の多様な生き方、家族のあり方について考え生活体験の少ない若者の視野を広げる。自らのいるライフステージを想定し、ライフプランを考える。看護者として患者の多様な生き方を受容できる知識を得る。	夏井 留美子 北見市ミント宅 配便〔行政編〕 ウィメンズ北見
		8 心 理 学	1	1	15	-	看護の対象である人間のこころと行動を理解するための基本となる心理学の基礎について学び、人間の行動を規定するところについての理解と関心、自己洞察を深め、人間に対する幅広い視点を育て養う。	中野 武房
		9 英 語	3	1	15	-	国際社会に伴い医療現場においても英語によるコミュニケーション能力が必要である。医療現場における英語および会話などの英会話の基礎を学び、さらには外国人のコミュニケーション演習も内容に含め、生涯学習に向けての意欲と能力を養う。	伊藤 悠紀子
		10 パステルアート	3	1	15	-	美術表現や鑑賞、アートなどを通して自分や相手の気持ちに気づいたり、共感性や想像力を豊かにすることで、思いやり（優しさ）の心を育てる	市川 郁恵
		11 宗 教 文 化 学	2	1	15	-	患者理解のためには、その背景にある文化を知ることが必要である。日本の宗教文化についての基本的知識を身につけ、グローバルな視点での宗教文化に関する基本的な知識を養い、様々な習慣や考え、価値観があることを理解する。	笠見 旅人 白崎 隆徳 長谷川 英樹
		12 保 健 体 育 I	1	1	15	-	スポーツ・レクリエーションの理論と実践を通して、生涯にわたる自己の健康・体力の維持増進を図る。また、スポーツを通して学生間の交流を深め、集団としての協調性を養う。	PHYSIT (株)
		13 保 健 体 育 II	3	1	15	-	スポーツやレクリエーションが健康・体力の維持増進につながっていることを身を持って理解し、無理なく実践を行う。	PHYSIT (株)
		14 ホスピタリティ論	1	1	15	-	ホスピタリティは「思いやり」「心からのおもてなし」と訳される。良好な人間関係の構築と維持、相手の立場に立って心から相手のことを考えて行動することを目指す。その基本精神である「ホスピタリティ・マインド」について学び、実践できる基礎能力を養う。	夏井 留美子
人体の構造と機能		15 解 剖 生 理 学 I	1	1	30	-	人体の正常な形態や構造、機能について系統的に学び、各器官がどのような機能を持ち生命を維持しているのか理解する。ここでは内在する法則性や器官の形態過程についても学習し、安全で質の高い看護実践を行うために必要な基礎的知識を習得する。	村林 宏 橋詰 良一
		16 解 剖 生 理 学 II	1	1	30	-		村林 宏 橋詰 良一
		17 解 剖 生 理 学 III	1	1	30	-		鈴木 望
		18 解 剖 生 理 学 IV	1	1	15	-		村林 宏 橋詰 良一
		19 生 化 学	1	1	30	-	人間の体がどのような物質から成り立っているのか、それらの物質がどのように作られ、分解され、調節されて生命を維持しているかを学ぶ	花田 政宏 安藤 寿典
		20 栄 養 学	2	1	15	-	人間に必要な栄養素の種類や働き、食物の吸収・代謝、栄養のマネジメント、栄養評価やライフステージ別に必要な栄養などの基礎的知識と各種疾患患者に必要な栄養管理・食事療法について学ぶ。	井田 亜希子

分野		(頁) 授業科目	履修年	単位	時間数	実務経験 のある 教員等	概要	講師
専門基礎分野	疾病の成り立ちと回復の促進	21 病 態 治 療 学 I	1	1	30	-	病理学 ：病気の原因、病気の発症・進展の過程、患者に対する影響を知り、それぞれの病気について本質を理解する。 血液・造血管疾患 の病態、主要症状・検査・治療を学ぶことで健康・疾病や障害に対する観察点や判断・対処が理解でき、看護援助に結び付けられるようにする。	藤木 佑斗 伊藤 善也
		22 病 態 治 療 学 II	1	1	30	-	呼吸器疾患、循環器疾患、眼科、乳腺疾患 の病態、主要症状・検査・治療を学ぶことで、健康・疾病や障害に対する観察点や判断・対処が理解でき、看護援助に結び付けられるように理解する。	小笠 壽之 斉藤 高彦 瀧澤 嘉孝 松永 明宏
		23 病 態 治 療 学 III	1	1	30	-	消化器疾患、内分泌・代謝疾患、女性生殖器 の病態、主要症状・検査・治療等を学ぶことで、健康・疾病や障害に対する観察点や判断・対処が理解でき、看護援助に結び付けられるように理解する。	上林 実 西谷 篤史 根岸 秀明
		24 病 態 治 療 学 IV	1	1	30	-	脳神経疾患、免疫疾患・感染症、皮膚疾患 の病態、主要症状・検査・治療等を学ぶことで、健康・疾病や障害に対する観察点や判断・対処が理解でき、看護援助に結び付けられるように理解する。	高杉 和雄 森本 一郎 菊地 憲孝 小林 孝弘
	疾病の成り立ちと回復の促進	25 病 態 治 療 学 V	1	1	30	-	腎泌尿器疾患、運動器疾患、歯・口腔疾患、耳鼻咽喉科疾患 の病態、主要症状・検査・治療等を学ぶことで、健康・疾病や障害に対する観察点や判断・対処が理解でき、看護援助に結び付けられるようにする。	坂井 薫 原 誠之助 鈴木 豊典 村田 保博
		26 病 態 治 療 学 VI	1	1	30	-	外科的療法：外科的治療を受ける患者に共通する麻酔法、手術手技、疼痛管理、手術体位などの基礎的な知識を理解する リハビリテーション療法：各器官の疾患に伴う障害とリハビリテーションを理解し、日常生活行動の再獲得のための支援を学ぶ	荒川 穰二 伊林 恵美 阿部 智充 赤間 大太 中山 由臣 庄司 寛 小野 直和
		27 病 態 治 療 VII	3	1	30	-	放射線医学 ：医療は日々発展をとげており、治療内容についても変化し続けている。ここでは、放射線療法について系統的に学び、患者の状態を正しく把握する基礎的知識を養う。 東洋医学 ：和漢診療学という和漢の医方に現代西洋学の視点を組み合わせた診療について学び、患者を診る視点を広げ、日常生活援助の中で活用できる基本的知識を養う。 医療機器 ：医療機器を安全に使用するための環境や管理、原則や実際を知る。	長島 正直 伊藤 卓也 松岡 慶太 好井 透
		28 薬 理 学	1	1	30	-	種々の薬物が生体に及ぼす影響を理解し、薬理学の基礎的知識と薬物療法、薬理作用・副作用について、また看護上の注意点についても学ぶ。	横堀 友記 佐藤 友昭 千葉 真人
		29 微 生 物 学	1	1	30	-	病因となる微生物の特徴と生体に及ぼす影響について学ぶ。感染や発症に対する生体防衛機構について理解する。感染予防と対処方法など、感染対策としての看護の基本的知識を養う。	増田 悦郎
		30 臨 床 検 査	2	1	15	-	各診療科で行われる主な検査と目的、流れと看護師の役割などの概要を学ぶ。ここでは、なぜこのような反応・数値が出るのか等も学び、病態と解剖生理の理解にもつなげる。	畑中 宗博
	健康支援と社会保障制度	31 総 合 医 療 論	1	1	15	-	社会と共に医療のあり方が大きく変貌している。ここでは医の原点と変遷および現代の医療問題を理解し、「いのち」と「健康」の視点から医療のあり方や生命倫理および医療の中の看護の役割について、考察する能力を養う。	荒川 穰二
		32 公 衆 衛 生	1	1	30	-	看護の対象である個人および集団の生活と健康について、健康を取り巻く環境と関連付けて考え、生涯を通じて健康の維持・増進するための個人・集団・地域への働きかけとしての保健活動について、基礎的知識を学ぶ。	一色 学 高田 健志 北山 明子 玉置 真一
		33 臨 床 心 理 学	2	1	30	-	心理学で学習した基礎知識をふまえ、人間の心理的発達を知り、人間の行動とこころの関連を理解する。演習や事例を通じて、面接やカウンセリングの基本的技法を習得し、自己理解や他者理解を深め、自己の成長や人格形成を図る。また実践において対象の心理を理解した援助・教育ができる能力を養う。	白川 純子
		34 社 会 福 祉 学	2	1	30	-	現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向をふまえ、医療保障、介護保障、公的扶助など社会保障制度の全体像を把握しつつ、医療・看護領域と社会福祉の連携について理解を深める。	武田 学 金田 さくら 山田 宗治 久永 聖人
		35 地 域 保 健 論	3	1	15	-	地域の生活環境について考察する。北見市の現状と課題、災害対策やボランティア、地域の保健の現状等を理解する。	北見市 ミント宅急便 〔行政編〕
		36 看 護 関 係 法 令	3	1	15	-	法の基礎知識と保健医療福祉に関する諸制度の概要と規定する諸法令を理解する。ここでは、保健師助産師看護師法を基礎として、医療者として業務責任についても自覚する機会とする。	武田 富美子

分野		(頁) 授業科目	履修年	単位	時間数	実務経験 のある 教員等	概要	講師
専 門 分 野	基礎看護学	37 概 論	1	1	30	○	看護学全般の概念をとらえ、看護の概念と機能を理解する。ここでは保健医療福祉の中での看護の位置づけや倫理について基本的なことを学ぶ。	島山 克子
		38 看 護 倫 理	2	1	15	○	倫理学の基本的な考えを学び、生命倫理、医療倫理、看護倫理の基礎、倫理的問題への実践的なアプローチ、事例分析など自分の問題として考えられるよう取り組む。	秋山 聡美
		39 人間関係形成技術	1	1	30	-	看護の対象となる人々の健康上のニーズを的確に把握し看護実践につなげるための、コミュニケーション技術、健康支援技術、および看護記録の基礎について演習を通して習得する。看護職者としての人間関係形成のための基本的態度・技術を学ぶ。	南 里江子 小山田 理恵
		40 フ ィ ジ カ ル ア セ ス メ ン ト	1	1	30	-	アセスメントの根拠となる対象の身体状況全体を客観的かつ系統的に把握する方法を学習し、看護実践できる基礎的能力を養う。	八重樫 明子 山口 佳子
		41 看 護 過 程	1	1	30	○	看護の目的を達成するための基礎的理論（ヘンダーソンの理論）を学び、対象を見る視点を養う。また、人に正しく状況を伝えるための表現や記載について学ぶ。ここでは事例を通して看護実践のための思考過程を学習し、具体的な援助を考える一連の過程を学ぶ。	秋山 聡美
		42 清潔衣生活援助技術	1	1	30	○	看護実践活動の基本となる看護技術の概念を理解し、健康の維持・回復のために日常生活援助の清潔・衣生活を整える必要性について看護の役割を学び、生活援助技術の方法を身につける。	合佐毘 綾子
		43 活動休息・環境・食 事 援 助 技 術	1	1	30	○	看護実践活動の基本となる看護技術の概念を理解し、健康の維持・回復のために生活環境・療養環境・日常生活援助の食事・活動と休息を整える必要性について看護の役割を学び、生活援助技術の方法を身につける。	島山 克子 合佐毘 綾子 白澤 季枝
		44 感染防止・排泄援助 技 術	1	1	30	-	健康の維持・回復のために感染防止と排泄を整える看護の役割を学び、生活援助技術の方法を身につける。。	南 里江子 松野 絢
		45 生 体 維 持 援 助 技 術	2	1	30	-	健康の維持・回復のために必要な呼吸・循環を整える技術について学び、演習での援助の実際を通して目的と方法を理解する。また、創傷管理技術を学び、治癒過程における環境の重要性を理解する。さらに、救命救急処置の基礎知識と技術を学び、急変時の対応と看護の役割について理解する。	加藤 あずさ 白澤 季枝 増田 さおり 坂野 遼
		46 診察検査援助技術Ⅰ	3	1	15	○	症状・生体機能管理技術の基礎を学ぶとともに医療現場にあふれている多くの医療機器を安全に使用できるよう、機器の基本的なしくみ、使用方法について学ぶ	小山田 理恵
		47 診察検査援助技術Ⅱ	3	1	15	-	治療・処置を受ける患者の不安や苦痛への援助の必要性ならびに安全安楽に介助技術を実践するために必要な知識と技術を学ぶ。	小山田 理恵 名達 寿穂 古谷 ゆかり 森 真由美
		48 与 薬 援 助 技 術	2	1	30	○	健康の回復のために必要な与薬の援助が安全・安楽・正確に実践できる知識と技術を学ぶ。ここでは、安全の確保についても学び、医療事故を起こさないための知識を身につける。	小山田 理恵 白澤 季枝
	地域・在宅看護論	49 地域・在宅看護論 概 論 Ⅰ	1	1	15	○	看護の対象について日々暮らしを営んでいる生活者として理解し、暮らしと健康の関係について学ぶ。人々の暮らしを多角的・学問的に理解し、そのうえで地域・在宅看護の意味、地域在宅看護が重視される社会的背景、地域在宅看護とはどんなことか、役割を理解する。	秋山 聡美
		50 地域・在宅看護論 概 論 Ⅱ	2	1	15	○	地域在宅看護が提供する「暮らしを支える看護」を具体的にイメージし、暮らしにおける環境の重要性や意味、様々な地域在宅看護実践の場があること、多職種連携の必要性について理解し、看護過程の展開方法についての概要を理解する。	秋山 聡美
		51 地域・在宅看護論 概 論 Ⅲ	2	1	30	-	地域包括ケアシステムの意義と概念、基盤となる法・制度・施策とともに、制度や法律が社会的背景の変化に伴い、改正されていることを理解する。地域在宅看護が提供する「暮らしを支える看護」を具体的にイメージし、暮らしにおける環境の重要性や意味、様々な地域在宅看護実践の場があること、多職種連携の必要性について理解し、看護過程の展開方法についての概要を理解する。	小滝 由香 武田 富美子 阿部 久美子
		52 地域・在宅看護論 援 助 論 Ⅰ	2	1	30	-	「暮らしの場」で看護を行う前に押さえておくべき心構え、対象者やその家族との対話・コミュニケーションから始まり、対象者の希望する暮らしを支えるさまざまな地域・在宅看護に必要な看護技術、安全対策、事故防止の知識などを学ぶ。	名達 文浩 佐藤 真由美
		53 地域・在宅看護論 援 助 論 Ⅱ	2	1	30	-	外来受診、入院、退院、在宅療養、終末期までのさまざまな時期の地域・在宅看護を学ぶ。	小山田 理恵 鹿又 亜由紀 小川 希美 澁谷 順子

分野		(頁) 授業科目	履修年	単位	時間数	実務経験 のある 教員等	概要	講師
専門分野		54 地域・在宅看護論 援助論Ⅲ	3	1	15	-	地域・在宅看護実践において、どのような多職種連携・協働があるのか、その中で看護師が果たす役割、多職種で関わる意義、地域・在宅看護マネジメントとは何かを学ぶ。また地域で新たな看護活動を創造する意義や方法を理解する。	小山田 理恵 今野 夏子 オホーツク総合振興局 環境保健部 北見地域保健室 関 建久 平林 美奈子 小坂 亜樹
		55 地域・在宅看護論 援助論Ⅳ	3	1	15	○	在宅看護過程の考え方・対象の捉え方・すすめ方を学び、事例を通して在宅看護の特徴をふまえた看護過程を進める。	小山田 理恵
	成人看護学	56 概 論	1	1	30	○	成人期の成長発達の特徴や健康問題について理解する。対象の援助に必要な概念・理論について学習し、成人期にある人々を統合的に理解できる基礎的能力を養う。	加藤 あずさ
		57 が ん 看 護 ・ 緩 和 ケ ア	2	1	30	-	がん看護と緩和ケアに関する基礎的知識を身につける。また、慢性期にあるがん患者と家族、終末期にある対象と家族を理解し、看護展開を学ぶ。	吉田 千治 國井 みすず 須藤 祐子 加藤 あずさ
		58 急 性 期 看 護	2	1	30	-	大腸がんの患者の特徴とその監護について学び、看護過程を展開できる基礎的能力を養う。また、救急看護、周手術期看護について学ぶ。	轟 竜也 目黒 舞子 向井 宏美 合佐毘 綾子
		59 疾 患 別 看 護 Ⅰ	1	1	30	-	心身機能・構造になんらかの障害を有し、日々の生活や社会生活に支障をきたした人とその家族が、障害を抱えながらもその人らしい生活を再構築していく過程を支援する看護や脳神経機能障害・感覚機能障害の疾患看護を学習する。	秋山 聡美 合佐毘 綾子 村上 毅 窪之内 麻未 三島 愛
		60 疾 患 別 看 護 Ⅱ	2	1	30	-	消化機能、血液・造血器、内分泌代謝、アレルギー・膠原病・感染症の疾患看護を学習する。	安達 恵美 赤川 舞子 長野 彩香 佐渡 絵梨香
		61 疾 患 別 看 護 Ⅲ	2	1	30	-	循環機能障害・呼吸機能障害・腎機能障害、性・生殖器の疾患看護を学習する。	金津 奈央 宮田 理香 安藤 ひとみ 安藤 恵美
		62 概 論	1	1	30	○	高齢者の身体的、精神的、社会的特徴や健康問題について理解する。高齢者をとりまく文化・社会背景を学び、保健医療福祉の現状と課題について理解する。	狩野 智子
	老年看護学	63 援 助 論 Ⅰ	1	1	30	-	高齢者の基本的活動、食生活、排泄、清潔、生活リズム、コミュニケーション等の特徴を学び、必要な看護について理解する。	渋谷 順子 脇本 奈緒子 狩野 智子
		64 援 助 論 Ⅱ	2	1	30	-	高齢者に特徴的な症状と看護、特徴的な疾患と看護について理解する。	秋元 知世 井上 幸美 小野寺 和江 狩野 智子
		65 援 助 論 Ⅲ	2	1	15	○	事例を通して、高齢者の特徴をふまえた看護過程を展開する能力を養う。	狩野 智子
		66 概 論	2	1	30	○	新生児期から思春期までの身体的、精神的、社会的発達を段階的に学習し、小児期の成長発達の特徴を理解する。また、小児が影響をうける環境を理解し、小児看護の課題や問題について学ぶ。	松野 絢
	小児看護学	67 援 助 論 Ⅰ	2	1	15	-	小児特有の疾患の病態生理、疾患や症状に対する診断・検査・治療について学ぶ。	伊藤 善也 加藤 晶 安藤 明子 菅沼 隆
		68 援 助 論 Ⅱ	2	1	30	-	小児の健康が小児及び家族に及ぼす影響をとらえ、様々な状況にある小児と家族の看護を症状・疾患別に分けて学習する。	佐々木 秀代 鹿又 亜由紀 小林 さつき 寺下 尚子 米田 朗子
		69 援 助 論 Ⅲ	2	1	30	○	小児看護において必要な基本的看護技術を習得する。また、事例を通して、小児の特徴をふまえ、看護過程を展開する能力を養う。	松野 絢
		70 概 論	2	1	30	-	母性看護学の対象は妊娠褥婦を中心に胎児期から老年期まで幅広い年代の女性とその家族である。ここでは対象の理解と母性看護学の基盤となる概念を理解し、母性看護の課題や問題について学ぶ。また、女性生殖系の疾患をもつ患者の看護についても学ぶ。	八重樫 明子 廣田 のぞみ 田邑 泰子 安藤 恵美

分野		(頁)	授業科目	履修年	単位	時間数	実務経験のある教員等	概要	講師
専門分野	母性看護学	71	援助論Ⅰ	2	1	30	-	母性看護学概論の学習内容を基盤に、最も母性を発揮し援助を多く必要とする妊娠・分娩期の看護援助について学習する。正常な経過と異常の徴候を並列して学び理解を深める。周産期にある対象が日常生活における基本的なセルフケアを維持・促進するための看護について学び、技術も実際に行う。また、近年増加している遺伝相談・不妊治療に関する看護を学ぶ。	齊藤 貴木 山崎 菜摘 八重樫 とめ 鈴木 優美
		72	援助論Ⅱ	2	1	30	-	母性看護学概論・母性看護学援助論Ⅰの学習内容を基盤に、最も母性を発揮し援助を多く必要とする産褥期・新生児期の看護援助について学習する。正常な経過と異常の徴候を並列して学び理解を深める。周産期にある対象が日常生活における基本的なセルフケアを維持・促進するための看護について学び、技術も実際に行う。	田村 有希 堀 ゆかり 鹿又 亜由紀 西村 さつき
		73	援助論Ⅲ	2	1	15	○	紙上事例により、1人の女性の妊娠期・分娩期・産褥期の情報を段階的に提供し、各時期の状態を分析・解釈し、看護過程を学習する。また、その事例の新生児の情報から状態を分析・解釈し、必要な看護を考える。身体的側面だけでなく、新生児の誕生と母子相互作用、家族の発達について考える。	八重樫 明子
	精神看護学	74	概論	2	1	30	-	ライフサイクルにおけるこころの発達と健康について学び、精神障害の基本的な考え方と理解を深め、精神看護や保健活動についての基礎的知識の基盤をつくる。	南 里江子 佐々木 諭
		75	援助論Ⅰ	2	1	30	-	精神障害の病態生理、疾患や症状に対する診断・検査・治療について学ぶ。	嶋田 進一郎 姜 徹求 加藤 紘幹 石川 友香
		76	援助論Ⅱ	2	1	30	-	精神障害をもつ対象に主要症状、疾患、治療処置別の看護の方法および地域における看護について学ぶ。	武田 美恵子 朝岡 真奈美 新村 はるか 金山 幾代 保科 幸広 吉田 小百合 武藤 健大
		77	援助論Ⅲ	2	1	15	-	人間関係形成技術を基盤とし、精神的支援が必要な対象者に必要な看護援助技術を学ぶ。看護師のメンタルヘルスの維持について学ぶ。事例を通して看護過程を展開する能力を養う。	南 里江子
	看護の統合と実践	78	看護研究	2	1	30	○	看護研究の基礎的知識と看護専門職者として研究的視点を学び、看護研究の意義を理解し、生涯にわたり学習する姿勢を身につける。2年次の臨地実習体験をケースレポートとしてまとめる。	八重樫 明子
		79	医療安全	3	1	15	-	安全で質の高い看護を実践するため、医療事故防止・回避に必要な知識・技術・態度を習得する。	吉田 千亜紀
		80	看護マネジメント	3	1	15	-	看護の機能と役割の拡大に伴うチーム医療および他職種との連携・協働を円滑に行えるよう、看護管理の目的と機能について学ぶ。組織の一員としてリーダーシップ・メンバーシップを発揮できる基礎的能力を養う。ここでは組織運営の視点を含めたマネジメント方法及び管理的思考についても学習する。	古田 英子
		81	統合演習Ⅰ	3	1	15	○	基礎分野、専門基礎分野、専門分野で学習した知識・技術・態度を統合させ、複数の疾患事例に対する、対象の状態に応じた看護の必要性を理解し、安全・安楽・自立を考慮した看護援助を計画立案できる。また、臨床実践において看護師が行う複数の受け持ち患者に対する看護の優先度と時間管理について学ぶ。	加藤 あずさ
		82	統合演習Ⅱ	3	1	15	○	計画立案した複数患者の看護援助を、安全・安楽に配慮し実施できる。また、複数事例患者の状態に応じた看護援助の変更と割り込み事象を考慮した多重課題状況下での優先度の判断について理解する。さらに、複数事例に対する看護援助を実施する上での看護師の時間管理について学ぶ。	加藤 あずさ
		83	災害・国際看護	3	1	15	-	現在、災害が日本だけでなく世界各国で頻発しており、災害看護の需要が高まっている。災害に対する備えや発災後の対応、心のケアなどの基礎的知識を学ぶ。また、人種や国籍をこえた普遍性のもつ看護の役割について国際看護の視点を学ぶ。	尾山 とし子

分野		(頁)	授業科目	履修年	単位	時間数	実務経験 のある 教員等	概要	講師
専門分野	臨地実習	91	成人・老年看護学実習Ⅱ	3	2	90	○	成人・老年看護学実習Ⅰでは、対象の身体的・心理的・社会的特徴を理解し、病気を持つ対象を統合的に捉え、病期にあった看護を考え根拠に基づく援助が行える実習を行った。 成人・老年看護学実習Ⅱでは、対象を統合的に捉え明確になった問題の優先度を考え、看護計画を立案し看護援助を行う。また、看護援助の結果から対象の変化を通して目標の達成度を評価し、計画修正の必要性を判断し看護過程の展開ができるようにしたい。さらに、看護師になる上での自己の課題を具体的に、解決策を考える機会とする。	狩野 智子
		92	成人・老年看護学実習Ⅲ	3	2	90	○	成人・老年看護学実習Ⅲでは、急性期にある患者の特徴を理解し、身体の危機的状況から生活機能の回復に至るまでの、状況に応じた看護を学ぶ。成人・老年看護学実習Ⅱまでに学んだ、慢性期、回復期、終末期看護をふまえ、急性期にある対象に起きている変化・反応をもとに、根拠をもって安全・安楽に配慮した看護援助を考えることができる実習とする。また対象が受けている援助の必要性や、自分自身の行った看護援助の妥当性についても考えられることを目指す。 さらに急性期にある対象と看護の特徴をふまえ、チームの一員としての看護師の役割を学ぶ実習とする。	加藤 あずさ
		93	小児看護学Ⅰ	2	1	45	○	2年次の小児看護学概論が終了した後に位置付けた。小児看護学概論では成長発達の基本的知識や小児各期の成長発達、健康、家族、看護、小児と家族を取り巻く環境について学んでいる。本実習では、小児看護学概論で学んだ知識をもとに、幼稚園において健康な小児との交流を通し、小児の成長発達や基本的生活習慣の獲得を促す関わりを学ぶ。また、出生率の低下や核家族化により、小児と接する機会が少なくなっている背景があることから、小児との接し方についても学ぶ。	松野 絢
		94	小児看護学Ⅱ	3	1	45	○	小児看護学実習Ⅰで学んだことをもとに、病棟・外来で小児とその家族の状態を理解し、その小児らしい生活や成長発達ができるよう、病気に伴う苦痛の緩和、健康の回復・維持・増進を図るための看護の実践を学ぶ。また、核家族化により、小児への接し方、健康問題が生じた際の対処の仕方などに不安を持つ家族が増えている。その一方で在院日数の短縮化により、家庭での治療・処置を継続するケースも多く、家族を支援していくこと、病棟、外来、多職種との連携が重要となっている。このことから、病棟実習では病気や入院が小児・家族に及ぼす影響について考え、苦痛の緩和、健康回復・維持に向けて小児とその家族に必要な支援を学ぶ。外来実習では、乳幼児健診の見学や、受診した小児・家族の映像事例を通して外来受診の流れを知り、看護師の関わりの実践を見て、小児・家族に必要な支援を学ぶ。	松野 絢
		95	母性看護学実習	3	2	90	○	母性看護学では、女性の一生を通じた健康の維持増進と疾病予防、妊娠・出産および新生児への看護活動、次世代の健全育成について学習を深めてきた。近年の学生は少子・核家族化の社会に生まれ育ち、周産期にある看護の対象に接する機会が少ない。そのような中で臨地実習において、妊娠期にある女性とその家族、分娩を経て産褥期にある女性と新生児およびその家族との関わりを通し、統合体としての母性や、親となる家族を理解する機会とした。また、対象の生命と安全・安楽を守る観察の視点と看護技術およびセルフケアを促す看護支援の実践を体験するものとした。実習を通して、次世代が健康に生まれ育つことが人類の普遍的な願いであることを実感し、母性看護の対象への看護支援の重要性を理解するとともに、学生自身の母性・父性を育む機会を期待する。産褥・早期新生児期は対象の変化が著しいため、学生は対象の変化を捉え、指導者とともに安全・安楽な看護実践を体験できる実習とした。	八重樫 明子
		96	精神看護学実習	3	2	90	○	現代社会では社会の変化に伴う様々な要因により心身に変調をきたしやすく、誰しもが心の病となり得る。精神障害は五大疾病のなかで患者数が最も多く、現代社会における精神看護のニーズは高まっている。精神看護の対象は精神障害により生きにくさを抱えた当事者だけでなく、その家族、コミュニティをも含む。臨地で当事者との関りを通して対象を理解し、精神障害による生きにくさ、対人関係への影響、精神障害をもちながらもその人らしく生きるためにどのような看護が必要かを考える。看護の対象および実習に関連する人々とのコミュニケーションを通して、人間関係形成能力を高め、相手も自分も尊重する態度を培いたい。さらに自己の傾向を省察し自分の強みと課題の理解を深める実習とした。 地域実習では地域で福祉施設を利用しながら生活する精神障害者との関りから学びを深める。病棟実習では入院している精神障害のある患者を受け持ち、対象理解を深め必要な看護を考え、看護観を養いたい。	秋山 聡美
		97	統合実習	3	2	90	○	統合実習は既習の知識や技術を統合し、卒業前に直面するリアリティシミュレーションを緩和できることをねらいとする。今までの実習では一人の対象と向き合う実習を行ってきたため、実際に病棟での看護業務の詳細を知る機会は少なく、就業して初めて看護業務の複雑さや多様さを実感する。そこで、看護師が行う複数受け持ち患者に発生する事象への対処の実践を通して、看護師の観察、気づき、解釈、判断を理解するとともに、看護の優先度や時間管理を学ぶ。また、医療チームにおける看護の実践から、医療安全や多職種との協働を学び、看護師のリーダーシップおよびメンバーシップ、看護管理について考える機会とする。 さらに学生が実習を通してチーム医療や医療安全を意識し、その中で看護の役割と責務を改めて認識し、自分の看護師像を明確にできる実習とする。	加藤 あずさ

基礎分野


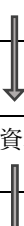


北見医師会看護専門学校

分 野	基礎分野			
科目名	1.論理学			
時期・単位	学年（開講時期）	1 学年（前期）	単位（時間数）	1（15）
講師名	長谷川 英樹			
授業概要	論理的な思考について学び、他者の考えを理解し、自分の考えを他者に伝える意思疎通の能力や、複数の人間が集まって共同で問題を検討する集団思考の能力を身につける。			
到達目標	1.日本語の接続表現が伝達場面にどう影響するか理解し、適切な組み立てができる。 2.論証の構造を理解し、演繹と推測について理解できる。			
授業計画	時間	学習内容		形態
	1.2	1.論理・論証とは何か / 論理学の概要が理解できる 2.演繹法 / 演繹について理解できる		講義+演習
	3.4	3.接続表現 / 文と文との関係をについて理解できる 4.論理的に考える / 帰納的論証について理解できる		講義+演習
	5.6	5.論証を図で示す / 論証のタイプを理解できる 論証間について理解できる		講義+演習
	7.8	論証図を書くことができる 6.論理的に書く / 一文一義について理解できる		講義+演習
	9.10	7.パラグラフ パラグラフ構造を理解できる パラグラフ間の論理的関係性を理解できる		講義+演習
	11.12	8.論理的に読む / 論理的に読むことができる		講義+演習
	13.14	9.実際に書く / 論理的に表現することができる 文章を見直すことができる		講義+演習
	15	課題レポート作成		講義+演習
	試 験			
評価方法	課題レポート 100 点			
テキスト	看護学生が身につけたい論理的に書く・読むスキル（福澤一吉） ／ 医学書院			

北見医師会看護専門学校

分 野	基礎分野			
科目名	2.教育学			
時期・単位	学年（開講時期）	3 学年（期）	単位（時間数）	1（15）
講師名	植松 人美			
授業概要	学習と教育について、学習の原理について学び、看護の対象への指導・教育技術の基礎を養う。			
到達目標	1.教育学を学ぶ意義が理解できる。 2.指導するために必要な内容が理解できる。			
授業計画	時間	学習内容		形態
	1.2	Ⅰ. 人の発達と学習 1.学ぶことと教えること 2.人の発達を理解する		講義
	3.4	3.学習の原理を理解する/学習の原理について理解できる		講義
	5.6	Ⅱ. 指導の基本 1.指導者の役割と姿勢を理解する 2.指導を設計する		講義
	7.8	3.効果的に指導する / 効果的な指導の型と流れが理解できる		講義
	9.10	4.学習を評価する / 評価の目的、構成要素、評価方法などが理解できる		講義
	11.12	Ⅲ. さまざまな指導の工夫 1.学習意欲を高める技法 2.コミュニケーションの技法		講義
	13.14	3.ディスカッションの技法 / ディスカッションの準備、活性化等について理解できる		講義
試 験	15	筆記試験		
評価方法	レポート 20 点 試験 80 点			
テキスト	看護のための教育学 / 医学書院			

北見医師会看護専門学校

分 野	基礎分野				
科目名	3.文章表現法				
時期・単位	学年（開講時期）	1 学年（後期）	単位（時間数）	1（30）	
講師名	長谷川 英樹				
授業概要	看護において、論理的に考え、客観的事実や自分の考えを正確に伝えることは、対象の安全を守り、医療チームの任務遂行の上で基本的かつ重要なことである。日本語の文章表現法を学び、適切な文章表現方法を身につけ、レポートや看護記録における文章表現能力向上と実践の場での伝達能力を養う。				
到達目標	1.日本語表現の基本的知識を理解し、表記ルールに則った文章表現能力を身につける。 2.不適切な表記によるコミュニケーションエラー予防の必要性が理解できる。				
授業計画	時間	学習内容		形態	
	1.2	1. 日本語表記の基本的知識 / 日本語における基本的な文章表現方法が理解できる		講義/演習	
	3.4				
	5.6				
	7.8				
	9.10	2.論文の構成 / 論文がどのように構成されているかわかり 論理的思考について理解できる		講義/演習	
	11.12				
	13.14			3.論文の資料 / 論文の考えの根拠となる資料の必要性和 利用について理解できる	
	15.16				
	17.18				
	19.20			4.小論文作成 / 自分の思考や行動を認識し、 文章で表現することを通して、	
	21.22			事実や意思を他者に伝える重要性が理解でき、 実践できる	
	23.24				
	25.26				
	27.28				
	29				
試 験	30	筆記試験			
評価方法	筆記試験 50 点 レポート課題 50 点				
テキスト	看護学生のためのレポート・論文の書き方（高谷修著） / 金芳堂				

北見医師会看護専門学校

分 野	基礎分野			
科目名	4.情報科学 I			
時期・単位	学年（開講時期）	1 年（前期）	単位（時間数）	1（15）
講師名	有田 健一 ・ 太田 敏彰			
授業概要	コンピューターの基礎的知識と基本操作を身につけ、医療現場で普及している電子化に対応するための能力を身につける。高度情報社会における情報管理方法や倫理について理解を深める			
到達目標	1. 情報についての基本的知識を身につける。 2. コンピューターによる基本操作を知り情報処理方法を理解する。			
授業計画	時間	学習内容		形態
	1.2	1. 情報とは何か / 情報の特性、認知について理解できる		講義
	3.4	2.コンピュータリテラシーと情報活用能力 /コンピューターを使用するための地域と技術を学び、情報活用能力を養うことができる		講義/演習
	5.6	▼		
	7.8			
	9.10	3.情報倫理と法 / 高度情報化社会における情報へのモラル、情報活用能力を養うことができる		講義
	11.12	▼		演習
	13.14			
試 験	15	筆記試験		
評価方法	実技試験 100 点			
テキスト				

北見医師会看護専門学校

分 野	基礎分野			
科目名	5.情報科学Ⅱ			
時期・単位	学年（開講時期）	3 年	単位（時間数）	1（30）
講師名	中垣 淳			
授業概要	医療・看護における統計の意義やその手法、看護研究に必要な統計的手法を理解する。			
到達目標	1. 統計についての基本的知識を身につける。 2. 情報処理方法と基本的な統計知識を学び、看護研究に必要な統計的手法を理解する。			
授業計画	時間	学習内容		形態
	1.2	統計学とは？ ①統計解析の目的，②記述統計と推測統計		講義
	3.4	記述統計(1) データの取り扱い ①データの種類と尺度水準，②データの整理とグラフ表示		講義
	5.6	記述統計(2) データの特徴を数値で表す ①分布の中心の指標，②分布の散らばりの指標		講義
	7.8	記述統計(3) 二変量の関係を数値で表す ①回帰直線，②共分散と相関係数		講義
	9.10	確率(1) 確率の基礎 ①確率の性質，②条件付き確率と事象の独立性		講義
	11.12	確率(2) 離散型確率変数 ①確率分布，②期待値と分散，③二項分布		講義
	13.14	確率(3) 連続型確率変数 ①確率密度関数，②正規分布，正規分布表の見方		講義
	15.16	推測統計(1) 標本と母集団 ①無作為抽出，②統計量，③正規分布に関連した分布		講義
	17.18	推測統計(2) 統計的推定 ①不偏性，②点推定と区間推定		講義
	19.20	推測統計(3) 統計的仮説検定 ①検定の考え方と手順，②帰無仮説と対立仮説，③有意水準		講義
	21.22	ソフトウェアを使った統計解析(1) ①統計ソフトの使い方，②記述統計		講義
	23.24	ソフトウェアを使った統計解析(2) ①平均値の差の検定		講義
	25.26	ソフトウェアを使った統計解析(4) ①分散分析		講義
	27.28	ソフトウェアを使った統計解析(3) ①回帰分析，①分割表を使った独立性の検定		講義
29.30	課題 ① 統計解析，②レポート作成		講義	
試 験				
評価方法	レポート課題 100 点			
テキスト	〔図解〕大学 4 年間の統計学が 10 時間でざっと学べる 倉田博史 著，株式会社 KADOKAWA			

北見医師会看護専門学校

分 野	基礎分野			
科目名	6.看護物理学			
時期・単位	学年（開講時期）	1 年（前期）	単位（時間数）	1（15）
講師名	後藤 重孝			
授業概要	看護技術の基礎となる物理学の原理・原則を知り、根拠を持った看護技術を実践するための基礎的知識を学ぶ。			
到達目標	1. 身体・身体ケアに関する基礎的な物理学の知識を身につけ、根拠に基づいたケアができる。 2. 検査・治療・処置に関する基礎的な物理学の知識を身につけ、根拠に基づいたケアができる。			
授業計画	時間	学習内容		形態
	1.2	1.身体・身体ケアに関する物理学/ （1）移動動作に必要な力の加減 （2）体位変換に役立つトルクの知識 （3）体位変換の際に思い出したい重心の話		講義/ 演習
	3.4	（4）看護にかかわる作用・反作用の法則 （5）力学を人体に適用する （6）人肌程度の温度のあいまいさ （7）胃洗浄とサイホン		
	5.6	2.検査・治療・処置に関する物理学/ （1）圧力の基礎知識 （2）動圧と側圧の関係性		
	7.8	（3）血圧に関する知識		
	9.10	（4）低圧持続吸引装置の原理		
	11.12	（5）酸素ボンベ真空管採血の原理 （6）酸・アルカリと Ph の関係		
	13.14	（7）濃度の出し方と物質の溶け方 （8）浸透圧の知識		
試 験	15	筆記試験		
評価方法	筆記試験 100 点			
テキスト	完全版 ベッドサイドを科学する / 学研			

北見医師会看護専門学校

分 野	基礎分野			
科目名	7.生活のなりたち			
時期・単位	学年（開講時期）	1 年	単位（時間数）	1（15）
講師名	夏井 留美子 ・ 北見市ミント宅配便〔行政編〕派遣講師 ・ ウィメンズ北見			
授業概要	衣食住・経済・冠婚葬祭など暮らしの中の基本的な知識と現代社会の多様な生き方、家族のあり方について考え生活体験の少ない若者の視野を広げる。自らのいろいろなライフステージを想定し、ライフプランを考える。看護者として患者の多様な生き方を受容できる知識を得る。			
到達目標	自身を取り巻く社会の仕組みを知り、社会人としての必要最低限のルールを学び、心豊かに健康で自分らしい生き方ができるようにする。看護者として患者にどのように寄り添うかを考えることができるようにする。			
授業計画	時間	学習内容		形態
	1.2	Ⅰ．暮らしを取りまく環境／衣生活・被服・食生活 Ⅱ．暮らしを支える経済／収入・支出その他について考える Ⅲ．基本のき・暮らしの知恵と知識／決まりごとやマナーを知る Ⅳ．お付き合いの基本・マナー／冠婚葬祭の心得		講義
	3.4	Ⅴ．賢い消費者となるために／消費者トラブルの被害にあわないように		講話
	5.6	Ⅵ．SDGS とジェンダー／ジェンダーとは何か、女性のエンパワーと SDGS Ⅶ．ライフサイクルと家族/家族の構築、変化していく家族・家庭		講義
	7.8	Ⅷ ワークライフバランス/ワークライフバランスとは		講義
	9	Ⅸ 多様化する社会／ダイバーシティとは、人生の最後の迎え方		講義
	10	Ⅹ．デート DV（出前講座）		講話
	11.12 13	Ⅹ 映画鑑賞／家族・親子・人生最後の迎え方などを考える		鑑賞
	14	感想文		
	試 験	15	筆記試験	
評価方法	筆記試験 70 点 感想文 30 点			
テキスト	なし			

北見医師会看護専門学校

分 野	基礎分野			
科目名	8.心理学			
時期・単位	学年（開講時期）	1 年（前期）	単位（時間数）	1（15）
講師名	中野 武房			
授業概要	看護の対象である人間のこころと行動を理解するための基本となる心理学の基礎について学び、人間の行動を規定するところについての理解と関心、自己洞察を深め、人間に対する幅広い視点を育て養う。			
到達目標	人間の多様な心理や行動を理解するための基本的知識や方法を理解する。			
授業計画	時間	学習内容		形態
	1.2	1.心理学とは/ 心理学とは何か概要が理解し、心理学を学ぶ意義がわかる		講義/ 演習
	3.4	2.感覚・知覚の心理/ 視覚や聴覚、形や運動の知覚などの基礎的知識が理解できる		
	5.6	3.記憶の心理/ 記憶のしくみについて理解できる		
	7.8	4.感情と動機の心理/ 感情と動機について理解できる		
	9.10	5.性格・知能の心理/ 性格・知能について理解できる		
	11.12	↓		
	13.14	6.社会・集団の心理/ 社会・集団について理解できる		
試 験	15	筆記試験		
評価方法	筆記試験 50 点 レポート 50 点			
テキスト	看護学生のための心理学 / 医学書院			

北見医師会看護専門学校

分 野	基礎分野			
科目名	9.英語			
時期・単位	学年（開講時期）	3 年（期）	単位（時間数）	1（15）
講師名	伊藤 悠紀子			
授業概要	国際社会に伴い医療現場においても英語によるコミュニケーション能力が必要である。医療現場における英語および英会話（グーグル翻訳機使用）の基礎を学び、さらには外国人とのコミュニケーション演習も内容に含め、生涯学習に向けての意欲と能力を養う。			
到達目標	英語の「聴く」「話す」というコミュニケーション能力を養う。			
授業計画	時間	学習内容		形態
	1.2	1. 日本語と英語（多言語）の歴史と現状 グーグル翻訳機の使い方・利用方法		講義+演習
	3.4	2. 医療場面における英語 / 医療現場における基礎的な英語習得の必要性		講義+演習
	5.6	3. 各専門分野における英単語の表現法の学び方		講義+演習
	7.8	4. 各専門分野における単語の成り立ちとその使用法		講義+演習
	9.10	5. 言語の差による違い、 各専門分野における患者への対応と注意①		講義+演習
	11.12	6. 各専門分野における患者への対応と注意②		講義+演習
	13.14	7. 国際社会の理解 / 国際人として諸外国文化の理解・コミュニケーションの 取り方、世界言語としての英語の現状		講義+演習
	試 験	15	筆記試験	
評価方法	筆記試験 100 点			
テキスト	トシ、1 週間であなたの医療英単語を 100 倍に下さい。できなければ解雇よ/SCICUS 出版 ※スマートフォン持参のこと（google 翻訳機使用）			

北見医師会看護専門学校

分 野	基礎分野			
科目名	10.パステルアート			
時期・単位	学年（開講時期）	3 年	単位（時間数）	1（15）
講師名	市川 郁恵			
授業概要	美術表現や鑑賞、アートなどを通して自分や相手の気持ちに気づいたり、共感力や想像力を豊かにすることで、思いやり（優しさ）の心を育てる。			
到達目標	色の性質や可能性を知ることで、共感力や思いやり、伝え方、コミュニケーション能力を養い、将来現場で患者や利用者が心地よく過ごせるように配慮できる人材を育てる。			
授業計画	時間	学習内容		形態
	1.2	1-1 色とは何か 色の基礎知識 1-2 色と心の関係		講義 演習
	3.4	2-1 美術史と色 ゴッホとひまわりなど 2-2 ぬりえを読み解く		講義 演習
	5.6	3-1 臨床美術 臨床美術の紹介 3-2 臨床美術体験 コラージュ作り		講義 演習
	7.8	4-1 パステルアート 「自分」を表現する 4-2 パステルアート 「病室に飾る」アート作成		演習
	9.10	5-1 「音楽」と感性 聴覚を刺激する 5-2 パステルアート発表		演習
	11.12	6-1 「香り」と感性 嗅覚を刺激する 6-2 心の成長（変化）を感じる		演習
	13.14	7-1 他者のぬりえの読み解き 7-2 相手が「自信」を持つことを応援するパステルアート作成		演習
	15	8-1 まとめ		演習
試 験				
評価方法	提出物 100 点（1・3 講義時/15 点、2・4・5・6・7 講義時/10 点、8 講義時/20 点）※毎回授業終了時に提出			
テキスト	自分でできるカラーセラピーワークブック / BABJAPAN 出版			

北見医師会看護専門学校

分 野	基礎分野			
科目名	11.宗教文化学			
時期・単位	学年（開講時期）	2 年（前期）	単位（時間数）	1（15）
講師名	笠見 旅人 ・ 白崎 隆徳 ・ 長谷川 英樹			
授業概要	患者理解のためには、その背景にある文化を知ることが必要である。日本の宗教文化についての基本的知識を身につけ、グローバルな視点での宗教文化に関する基本的な知識を養い、様々な習慣や考え方、価値観があることを理解する。			
到達目標	1.日本の宗教文化についての基本的知識を身につける。 2.様々な宗教の考え方、習慣があることが理解できる。			
授業計画	時間	学習内容		形態
	1.2	1.宗教とは何か/・宗教とは何か、人間とは・人間の権利について理解し、宗教文化についての基本的な知識がわかる・世界の宗教の起源と分類の概要が理解できる		講義
	3.4	2.キリスト教/キリスト教の概要、特徴が理解できる キリスト教の誕生		講義
	5.6	キリスト教の特徴		講義
	7.8	3.神道/神道の概要、特徴が理解できる 神道の誕生		講義
	9.10	神道の特徴、神仏習合		講義
	11.12	4.仏教/仏教の概要、特徴が理解できる 仏教の誕生		講義
	13.14	仏教の分類、仏教の特徴		講義
試 験	15	筆記試験		
評価方法	筆記試験 100 点（宗教とは何か 10 点、キリスト教 30 点、神道 30 点、仏教 30 点）			
テキスト				

北見医師会看護専門学校

分 野	基礎分野			
科目名	12.保健体育 I			
時期・単位	学年（開講時期）	1 年(期)	単位（時間数）	1（15）
講師名	PHYSIT（株）			
授業概要	スポーツ・レクリエーションの理論と実践を通して、生涯にわたる自己の健康・体力の維持増進を図る。 また、スポーツを通して学生間の交流を深め、集団としての協調性を養う。			
到達目標	1.自己の心身活動と休息のバランスをはかり、運動習慣を身につけ自己の健康管理の必要性を理解する。 2.学生間のコミュニケーションをとり、交流を深める。			
授業計画	時間	学習内容		形態
	1.2	1. 運動・スポーツの持つ価値について		講義 / 実技
	3.4	2. 運動・スポーツを行う意義について		
	5.6	3. 健康とは		
	7.8	4. 運動・スポーツと健康との関連について		
	9.10	5. 健康に向けた取り組みについて（ストレッチ）		
	11.12	6. 健康に向けた取り組みについて（トレーニング）		
	13.14	7. まとめ		
試 験	15	筆記試験		
評価方法	筆記試験 65 点 出席点 35 点（出席 1 回で 5 点*7 回）			
テキスト	資料随時配布			

北見医師会看護専門学校


分 野	基礎分野			
科目名	13.保健体育Ⅱ			
時期・単位	学年（開講時期）	3 年	単位（時間数）	1（15）
講師名	PHYSIT（株）			
授業概要	スポーツやレクリエーションが健康・体力の維持増進につながっていることを、身を持って理解し、無理なく実践を行う。			
到達目標	1.自己の心身活動と休息のバランスを図るための様々な運動について認識できる。 2.人間にとって運動習慣を身につけることの重要性が理解でき、自己の健康管理につなげることができる。			
授業計画	時間	学習内容		形態
	1.2	1.スポーツと健康/スポーツの精神と社会倫理が理解できる		講義+実技
	3.4	2.メディカルフィットネス/健康の保持増進、疾病予防、メディカルフィットネスについて理解できる		講義+実技
	5.6	3.ライフスタイルとスポーツ/セルフケアについて理解できる		講義+実技
	7.8	健康とレクリエーションについて理解できる		講義+実技
	9.10	運動強度の理解と実践について理解できる		講義+実技
	11.12	トレーニングの意義と実践について理解できる		講義+実技
	13.14	4.生涯スポーツ/発達発育における運動学習と応用について理解できる		講義+実技
	試 験	15	筆記試験	
評価方法	筆記試験 65 点 出席点 35 点（出席 1 回で 5 点）			
テキスト	資料随時配布			

北見医師会看護専門学校

分 野	基礎分野			
科目名	14.ホスピタリティ論			
時期・単位	学年（開講時期）	1 年（前期）	単位（時間数）	1（15）
講師名	夏井 留美子			
授業概要	ホスピタリティは「思いやり」「心からのおもてなし」と訳される。良好な人間関係の構築と維持、相手の立場に立って心から相手のことを考えて行動することを目指す。その基本精神である「ホスピタリティ・マインド」について学び、実践できる基礎能力を養う。			
到達目標	1.ホスピタリティの基本が理解でき、看護サービスに活かせる素地を養う。 2.自分の傾向を分析し、良好な人間関係を構築できるコミュニケーション能力を養う。			
授業計画	時間	学習内容		形態
	1.2	1.ホスピタリティの基本/ホスピタリティの基本的な考え方が理解できる		講義 / 演習
	3.4	2.自分を知る「EQ」と「TA」/自分のことを様々な視点から分析できる		
	5.6	3.ホスピタリティ・マナー／人を不快にさせないだけでなく人間関係をよりよい方向に導くホスピタリティを活かしたマナーが理解できる		
	7.8	↓		
	9.10	4.コミュニケーション/相手の立場に配慮し、伝え方の工夫が必要だということが理解できる		
	11.12	↓		
	13.14	5.看護サービスとホスピタリティ/ホスピタリティを看護サービスにどのように活かしていくべきか理解できる		
試 験	15	筆記試験		
評価方法	筆記テスト 100 点			
テキスト	実践！ホスピタリティ基本コース ／ 一般社団法人ホスピタリティ機構			


專門基礎分野

北見医師会看護専門学校

分 野	専門基礎分野			
科目名	15.解剖生理学 I			
時期・単位	学年（開講時期）	1 年（前期）	単位（時間数）	1（30）
講師名	村林 宏 ・ 橋詰 良一			
授業概要	人体の正常な形態や構造、機能について系統的に学び、各器官がどのような機能を持ち生命を維持しているのか理解する。内在する法則性や器官の形態過程についても学習し、安全で質の高い看護実践を行うために必要な基礎的知識を習得する。			
到達目標	1.細胞の一般的な構造や器官を構成する各組織の特徴について理解できる。 2.骨格系、筋肉系、循環器系の系統別の構造、名称、位置、作用について理解できる。			
授業計画	時 間	学習内容		形態
	1.2	1.総論 / 細胞の一般的な構造や器官を構成する各組織の特徴について理解できる		講義
	3.4			講義
	5			講義
	6～9			2.骨格系 / 骨の構造と機能、成長について、各骨の形態と連結について理解できる
	10～13	3.筋肉系 / 主な筋の構造と各筋肉の名称と位置、作用について理解できる		講義
	14～17	4.演習 / 演習を通し、各臓器の構造と機能を具体的に理解し、説明できる		演習
	18～21	5.循環器系Ⅰ / 心臓の構造、心臓に分布する血管、全身に分布する動・静脈、リンパ管について理解できる		講義
	22～25	6.循環器系Ⅱ / 心臓の拍出機能、血液の循環の調節について理解できる		講義
	26～29	7.演習 / 演習を通し、各臓器の構造と機能を具体的に理解し、説明できる		演習
試 験	30	筆記試験		
評価方法	筆記試験 100 点（橋詰 15 点 村林 85 点）			
テキスト	系統看護学講座専門基礎 人体の構造と機能（1）解剖生理学 / 医学書院 看護師国家試験 解剖生理学クリアブック / 医学書院			

※実務経験のある教員等による授業科目

北見医師会看護専門学校

分 野	専門基礎分野			
科目名	16.解剖生理学Ⅱ			
時期・単位	学年（開講時期）	1 年(前期)	単位（時間数）	1（30）
講師名	村林 宏 ・ 橋詰 良一			
授業概要	人体の正常な形態や構造、機能について系統的に学び、各器官がどのような機能を持ち生命を維持しているのか理解する。内在する法則性や器官の形態過程についても学習し、安全で質の高い看護実践を行うために必要な基礎的知識を習得する。			
到達目標	1.皮膚・生体の防御機構、消化器系、呼吸器系の系統別の構造、名称、位置、機能、作用、メカニズムについて理解できる。 2.体温とその調節のメカニズムについて理解できる。			
授業計画	時間	学習内容		形態
	1.2	1.血液、皮膚・防御 / 血液、間質液、リンパ液などの性状と作用、皮膚の構造と機能、生体防御機構について理解できる		講義
	3.4			講義
	5.6 7.8	2.呼吸器系 / 肺、気管、気管支、喉頭などの呼吸器の構造と機能について理解できる 呼吸の生理（呼吸の調節、呼吸の運動、ガス交換、血液ガス、血液の酸塩基平衡）について理解できる		講義
	9.10 11.12	3. 演習 / 演習を通し、各臓器の構造と機能を具体的に理解し、説明できる		演習
	13.14. 15.16	4.消化器系Ⅰ / 口腔から肛門までの消化管、肝臓・膵臓の構造について理解できる		講義
	17.18. 19.20	5.消化器系Ⅱ / 口腔から肛門までの消化管、肝臓・膵臓の機能について理解できる		講義
	21.22 23.24	6.栄養と代謝、体温とその調節/栄養素の消化・吸収、代謝過程が理解できる		講義
	25.26	体熱産生のメカニズムが理解できる 体温調節について理解できる		講義
	27.28 29	7. 演習 / 演習を通し、各臓器の構造と機能を具体的に理解し、説明できる		演習
試 験	30	筆記試験		
評価方法	筆記試験 100 点（橋詰 15 点 村林 85 点）			
テキスト	系統看護学講座専門基礎 人体の構造と機能（1）解剖生理学 / 医学書院 看護師国家試験 解剖生理学クリアブック / 医学書院			

※実務経験のある教員等による授業科目

北見医師会看護専門学校

分 野	専門基礎分野			
科目名	17.解剖生理学Ⅲ			
時期・単位	学年（開講時期）	1 年	単位（時間数）	1（30）
講師名	鈴木 望			
授業概要	人体の正常な形態や構造、機能について系統的に学び、各器官がどのような機能を持ち生命を維持しているのか理解する。内在する法則性や器官の形態過程についても学習し、安全で質の高い看護実践を行うために必要な基礎的知識を習得する。			
到達目標	1.腎・泌尿器、生殖器系、内分泌系、脳および脊髄の構造、名称、位置、機能、作用、メカニズムについて理解できる。 2.人体の発生、成長と老化について理解できる。			
授業計画	時間	学習内容		形態
	1.2	1.腎臓と尿路・体液と電解質 / 腎臓における尿の生成と排尿について理解できる 体液中の性状と電解質のバランスについて理解できる		講義
	3.4	↓		
	5.6	2.生殖器系 /男性生殖器の構造と機能について理解できる 女性生殖器の構造と機能について理解できる		講義
	7.8	↓		
	9.10	3. 演習 /演習を通し、各臓器の構造と機能を具体的に理解し、説明できる		演習
	11.12	↓		
	13.14	4.人体の発生・成長と老化 /生殖細胞の発生、受精から着床、胎児形成、分娩までの過程について理解できる		講義
	15.16	↓		
	17.18	5.内分泌系 / 各内分泌腺の構造、ホルモンの産生とその機能について理解できる 各内分泌腺の相互関係、ホルモンの分泌構造について理解できる		講義
	19.20	↓		
	21.22	6.神経系Ⅰ / 脳と脊髄の構成について理解できる 中枢神経の各部位の働きについて理解できる		講義
	23.24	↓		
	25.26	7. 演習 / 演習を通し、各臓器の構造と機能を具体的に理解し、説明できる		演習
	27.28	8. 演習 / 演習を通し、各臓器の構造と機能を具体的に理解し、説明できる		演習
	29	↓		
試 験	30	筆記試験		
評価方法	筆記試験 100 点			
テキスト	系統看護学講座専門基礎 人体の構造と機能（1）解剖生理学 / 医学書院 看護師国家試験 解剖生理学クリアブック / 医学書院			

※実務経験のある教員等による授業科目

北見医師会看護専門学校

分 野	専門基礎分野			
科目名	18.解剖生理学Ⅳ			
時期・単位	学年（開講時期）	1 年（後期）	単位（時間数）	1（15）
講師名	村林 宏 ・ 橋詰 良一			
授業概要	人体の正常な形態や構造、機能について系統的に学び、各器官がどのような機能を持ち生命を維持しているのか理解する。内在する法則性や器官の形態過程についても学習し、安全で質の高い看護実践を行うために必要な基礎的知識を習得する。			
到達目標	1.末梢神経系、感覚器系の系統別の構造、名称、位置、機能、作用、メカニズムについて理解できる 2.人体模型での総合演習を通し人体の立体構成がわかる			
授業計画	時間	学習内容		形態
	1.2 3.4	1.神経系Ⅱ / 脳神経、脊髄神経、自律神経の構造と機能が理解できる		講義
	5.6	2.感覚器系 / 一般知覚、視覚、聴覚・平衡覚、味覚、嗅覚の構造と機能について理解できる		講義
	7.8	↓		講義
	9.10	3.演習 / 神経系、感覚器の構造と機能の理解と説明ができる		演習
	11.12 13.14	4.総合演習 / 演習を通し、各器管の働きと構造、人間の身体について理解を深める		演習
試 験	15	筆記試験		
評価方法	筆記試験 100 点（橋詰 25 点 村林 75 点）			
テキスト	系統看護学講座専門基礎 人体の構造と機能（1）解剖生理学 / 医学書院 看護師国家試験 解剖生理学クリアブック / 医学書院			

※実務経験のある教員等による授業科目

北見医師会看護専門学校




分 野	専門基礎分野			
科目名	19.生化学			
時期・単位	学年（開講時期）	1 年（前期）	単位（時間数）	1（30）
講師名	花田 政宏・安藤 寿典			
授業概要	人間の体がどのような物質から成り立っているか、それらの物質がどのように作られ、分解され、調節されて生命を維持しているかを学ぶ。			
到達目標	1.生体の生命活動や健康との関連性を化学的側面から理解する。 2.生体の恒常性維持システムの崩壊が疾病であることを理解する。			
授業計画	時間	学習内容		形態
	1.2	1.代謝総論 / 生命活動に必要な代謝について理解できる 2.生命維持に必要な栄養素の構造と性質 /		講義
	3.4	生命活動の場である細胞の基本的な構造と機能を理解し、細胞小器官について理解できる 栄養素としての糖質、脂質、タンパク質、核酸、ビタミンの性質や、生命活動を支える物質について理解できる		講義
	5.6			講義
	7.8			講義
	9.10			講義
	11.12			講義
	13.14	3.酵素 / 代謝の流れをつくる酵素の働きが理解できる		講義
	15.16	4.さまざまな代謝 / 各物質の種類と基本構造、役割、消化・吸収の過程、代謝について理解できる 糖質代謝 脂質代謝 タンパク質・アミノ酸の代謝 拡散・ヌクレオチドの代謝		講義
	17.18			講義
	19.20			講義
	21.22			講義
	23.24	5.エネルギー代謝の統合と制御 / 生体で、糖質・脂質・タンパク質の代謝がどう関連しているのか理解できる		講義
	25.26	6.遺伝情報/遺伝情報について概要が理解できる		講義
	27.28 29	7.先天性代謝異常/遺伝子の障害により代謝の異常が起こることが理解できる		講義
試 験	30	筆記試験		
評価方法	筆記試験 100 点（花田：50 点 安藤：50 点）			
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[2]生化学／医学書院			

※実務経験のある教員等による授業科目

北見医師会看護専門学校

分 野	専門基礎分野			
科目名	20.栄養学			
時期・単位	学年（開講時期）	2 年（前期）	単位（時間数）	1（15）
講師名	井田 亜希子			
授業概要	人間に必要な栄養素の種類や働き、食物の吸収・代謝、栄養のマネジメント、栄養評価やライフステージ別に必要な栄養などの基礎的知識と各種疾患患者に必要な栄養管理・食事療法について学ぶ。			
到達目標	1.栄養素の種類と働き、食物の消化吸収代謝のしくみが理解できる。 2.栄養状態の評価、臨床栄養の概要が理解できる。			
授業計画	時間	学習内容		形態
	1	1.人間栄養学と看護/人間の栄養状態をみることと看護の役割が理解できる		講義
	2	2.栄養素の種類と働き/栄養素の種類と主な働きが理解できる		講義
	3	3.食物の消化と栄養素の吸収・代謝/人体の消化・吸収・代謝のしくみが理解できる		講義
	4	4.エネルギー代謝/エネルギー摂取量、エネルギー消費量、エネルギー代謝について概要が理解できる		講義
	5	5.食事と食品/日本人の食事摂取基準、食品群とその分類、調理法の特徴について理解できる		講義
	6	6.栄養ケア・マネジメント/栄養ケア・マネジメントとサポートチーム（NST）の働きについて理解できる		講義
	7	7.栄養状態の評価・判定/人の身体から栄養状態を直接かつ総合的に評価・判定する方法を理解できる		講義
	8	8.ライフステージと栄養/ライフステージごとに必要な栄養と適切な食生活について理解できる		講義
	9.10	9.臨床栄養/臨床栄養の基本となる栄養管理の概要と各種疾患患者の食事療法の実際について理解できる		講義
	11.12	10.健康づくりと食生活/食生活改善について食生活指針、健康日本 21 などを基に理解できる		講義
	13.14	11.調理実習/実際に事例にあった食事メニューを考え、作成することによって、実際を理解する		講義
	試 験	15	筆記試験	
評価方法	筆記試験 100 点			
テキスト	系統看護学講座 栄養学 ／ 医学書院 七訂 食品 80 キロカロリーガイドブック ／ 女子栄養大学出版部			

北見医師会看護専門学校

分 野	専門基礎分野				
科目名	21.病態治療学Ⅰ				
時期・単位	学年（開講時期）	1 年（期）	単位（時間数）	1（30）	
講師名	藤木 佑斗 ・ 伊藤 善也				
授業概要	病理学 ：病気の原因、病気の発症・進展の過程、患者に対する影響を知り、それぞれの病気について本質を理解する。 血液・造血器系 ：血液・造血器系疾患の病態、主要症状・検査・治療を学ぶことで、健康・疾病や障害に対する観察点や判断・対処が理解でき、看護援助に結びつけられるようにする。				
到達目標	1.病気の原因、身体内での病的変化等を理解できる。 2.血液・造血器疾患の病態、主要症状・検査・治療、代表的な疾患の病変と患者の生活習慣の関連、疾病の回復の促進について理解できる。				
授業計画	時間	学習内容		形態	
	1.2	病 理 学	1.病理学で学ぶこと/病気とは病理学がどんな学問なのか 2.細胞・組織の障害と修復/細胞損傷の原因機序、修復過程	講義	
	3.4		3.循環障害/様々な循環による障害について理解できる	講義	
	5.6			講義	
	7.8			講義	
	9.10			4.炎症と免疫、移植と再生医療/生体の防御反応としての炎症と免疫について理解できる	講義
	11.12			5.感染症/感染症の一般的な特徴についてと代表的な病原体が理解できる	講義
	13.14		6.代謝障害/代謝障害によって生じる疾患について理解できる	講義	
	15.16		7.老化と死/ヒトの老化と死について学び、終末期医療についても考える	講義	
	17.18		8.先天異常と遺伝子異常/先天異常・遺伝子異常の原因、診断、治療について理解できる	講義	
	19.20		9.腫瘍/腫瘍とは何か、腫瘍の種類について等理解できる	講義	
	21.22			講義	
	23.24 25			1.血液の生理と造血のしくみ/ 2.検査・診断と症候・病態生理/検査・診断症候等が理解できる	講義
	26.27			3.疾患と治療の理解/主要な疾患が理解できる	講義
	28.29				講義
試験	30	筆記試験			
評価方法	筆記試験（病理学 70 点 、血液・造血器 30 点）				
テキスト	系統看護学講座専門基礎 疾病のなりたちと回復の促進（1）病理学 ／ 医学書院 系統看護学講座専門 専門分野 成人看護学 4 血液・造血器 ／ 医学書院				

北見医師会看護専門学校

分 野	専門基礎分野			
科目名	22.病態治療学Ⅱ			
時期・単位	学年（開講時期）	1 年（期）	単位（時間数）	1（30）
講師名	小笠 壽之 ・ 斉藤 高彦 ・ 瀧澤 嘉孝 ・ 松永 明宏			
授業概要	呼吸器疾患、循環器疾患、血液・造血管器疾患の病態、主要症状・検査・治療を学ぶことで、健康・疾病や障害に対する観察点や判断・対処が理解でき、看護援助に結び付けられるようにする。			
到達目標	1.呼吸器疾患、循環器疾患、眼科疾患、乳腺疾患の病態、主要症状・検査・治療を理解できる。 2.呼吸器疾患、循環器疾患、眼科疾患、乳腺疾患の代表的な疾患の臓器の病変と患者の生活習慣の関連、疾病の回復の促進について理解できる。			
授業計画	時間		学習内容	形態
	1.2	呼 吸 器 疾 患	1.呼吸器の構造と機能/呼吸器の構造と機能が理解できる 2.症状とその病態生理/症状とその病態生理が理解できる	講義
	3.4		3.検査と治療・処置/検査・治療が理解できる 4.疾患の理解/主要な疾患が理解できる	講義
	5.6			講義
	7.8			講義
	9.10			講義
	11			講義
	12.13	循 環 器 疾 患	1.循環器の構造と機能/循環器の構造と機能が理解できる 2.症状とその病態生理/症状とその病態生理が理解できる	講義
	14.15		3.検査と治療/検査・治療が理解できる	講義
	16.17		4.疾患の理解/主要な疾患が理解できる	講義
	18.19			講義
	20.21			講義
	22.23			講義
	24			講義
	25.26 27	眼科	1.眼の構造と機能/ 2.症状とその病態生理/ 3.検査と治療/ 4.疾患の理解/	講義
	28.29	乳 腺	1.乳腺の構造と機能/2. 症状とその病態生理 3.検査と治療/4. 疾患の理解	講義
試 験	30	筆記試験		
評価方法	筆記試験（呼吸器疾患 30 点、循環器疾患 40 点、眼科 15 点、乳腺 15 点）			
テキスト	系統看護学講座専門 専門分野 成人看護学 2 呼吸器 / 医学書院 系統看護学講座専門 専門分野 成人看護学 3 循環器 / 医学書院 系統看護学講座専門 専門分野 成人看護学 13 眼科 / 医学書院 系統看護学講座専門 専門分野 成人看護学 9 女性生殖器 / 医学書院			

北見医師会看護専門学校

分 野	専門基礎分野			
科目名	23.病態治療学Ⅲ			
時期・単位	学年（開講時期）	1 年（後期）	単位（時間数）	1（30）
講師名	上林 実 ・ 西谷 篤史 ・ 根岸 秀明			
授業概要	消化器疾患、内分泌・代謝疾患、女性生殖器の病態、主要症状・検査・治療等を学ぶことで、健康・疾病や障害に対する観察点や判断・対処が理解でき、看護援助に結び付けられるようにする。			
到達目標	1.消化器疾患、内分泌・代謝疾患、女性生殖器の病態、主要症状・検査・治療を理解できる。 2.消化器疾患、内分泌・代謝疾患、女性生殖器の代表的な疾患の臓器の病変と患者の生活習慣の関連、疾病の回復の促進について理解できる。			
授業計画	時間		学習内容	形態
	1.2	消化器	1.消化器の構造と機能/消化器の構造と機能が理解できる 2.症状とその病態生理/症状とその病態生理が理解できる	講義
	3.4		3.検査と治療/検査と治療が理解できる	講義
	5.6		4.疾患の理解/主要な疾患が理解できる	講義
	7.8			講義
	9.10			講義
	11.12			講義
	13.14	内 分 泌 ・ 代 謝 疾 患	1.内分泌・代謝器官の構造と機能/内分泌・代謝器官の構造と機能が理解できる	講義
	15.16		2.症状とその病態生理/症状とその病態生理が理解できる	講義
	17.18		3.検査/検査について理解できる	講義
	19.20		4.疾患の理解/主要な疾患が理解できる	講義
	21.22			講義
	23			講義
	24.25	女 性 生 殖 器	1.女性生殖器の構造と機能/ 2.症状とその病態生理/症状とその病態生理が理解できる	講義
	26.27		3.診察・検査と治療・処置/診察・検査等について理解できる	講義
	28.29		4.疾患の理解/主要な疾患が理解できる	講義
試 験	30	筆記試験		
評価方法	筆記試験（消化器疾患 40 点、内分泌・代謝疾患 40 点、女性生殖器 20 点）			
テキスト	系統看護学講座専門 専門分野 成人看護学 5 消化器 ／ 医学書院 系統看護学講座専門 専門分野 成人看護学 6 内分泌代謝 ／ 医学書院 系統看護学講座専門 専門分野 成人看護学 9 女性生殖器 ／ 医学書院			

北見医師会看護専門学校

分 野	専門基礎分野			
科目名	24.病態治療学Ⅳ			
時期・単位	学年（開講時期）	1 年（後期）	単位（時間数）	1（30）
講師名	高杉 和雄 ・ 森本 一郎 ・ 菊地 憲孝 ・ 小林 孝弘			
授業概要	脳神経疾患、免疫・アレルギー・感染症疾患、皮膚疾患の病態、主要症状・検査・治療等を学ぶことで、健康・疾病や障害に対する観察点や判断・対処が理解でき、看護援助に結び付けられるようにする。			
到達目標	1.脳神経疾患、免疫・アレルギー・感染症疾患、皮膚疾患の病態、主要症状・検査・治療を理解できる。 2.脳神経疾患、免疫・アレルギー・感染症疾患、皮膚疾患の代表的な疾患の臓器の病変と患者の生活習慣の関連、疾病の回復の促進について理解できる。			
授業計画	時間	学習内容		形態
	1.2	脳 神 経	1.脳神経系の構造と機能	講義
	3.4		2.症状とその病態生理	講義
	5.6		3.検査・診断と治療・処置/	講義
	7.8		4.疾患の理解/	講義
	9.10			講義
	11.12			講義
	13.14			講義
	15.16	免 疫 疾 患	1.免疫のしくみとアレルギー 2.検査と治療/ 3.症状と疾患の理解	講義
	17.18		4.自己免疫疾患とその機序/ 5.症状とその病態生理/ 6.検査と治療/	講義
	19.20		6.検査と治療/ 7.疾患の理解/	講義
	21.22	感 染 症	8.感染症とは/ 9.感染症の検査・診断	講義
	23.24		10.感染症の治療/ 11.疾患の理解/	講義
	25			講義
	26.27	皮 膚	1.皮膚の構造と機能/ 2.症状とその病態生理/	講義
	28.29		3.検査と治療・処置/ 4.疾患の理解/	講義
試 験	30		筆記試験	
評価方法	筆記試験 脳神経系 45 点、免疫 20 点（レポート 5 点+筆記 15 点）、感染症 20 点、皮膚 15 点			
テキスト	系統看護学講座専門 系統看護学講座専門 系統看護学講座専門	専門分野 専門分野 専門分野	成人看護学 7 脳神経 成人看護学 11 アレルギー膠原病 成人看護学 12 皮膚	／ 医学書院 ／ 医学書院 ／ 医学書院

北見医師会看護専門学校

分 野	専門基礎分野			
科目名	25.病態治療学Ⅴ			
時期・単位	学年（開講時期）	1 年（後期）	単位（時間数）	1（30）
講師名	坂井 薫 ・ 原 誠之助 ・ 鈴木 豊典 ・ 村田 保博			
授業概要	腎泌尿器疾患、運動器疾患、歯・口腔疾患、耳鼻咽喉科疾患の病態、主要症状・検査・治療等を学ぶことで、健康・疾病や障害に対する観察点や判断・対処が理解でき、看護援助に結び付けられるようにする。			
到達目標	1.腎泌尿器疾患、運動器疾患、歯・口腔疾患、耳鼻咽喉科疾患の病態、主要症状・検査・治療を理解できる。 2.腎泌尿器疾患、運動器疾患、歯・口腔疾患、耳鼻咽喉科疾患の代表的な疾患の臓器の病変と患者の生活習慣の関連、疾病の回復の促進について理解できる。			
授業計画	時間	学習内容		形態
	1.2	腎泌尿器疾患	1.腎泌尿器の構造と機能/腎泌尿器の構造と機能が理解できる	講義
	3.4		2.腎臓病①病態と分類、検査が理解できる	講義
	5.6		3.腎臓病②原因と治療について理解できる。	講義
	7.8		4.腎代替療法 透析について理解できる。	講義
	9.10		5.泌尿器疾患 病態と治療について理解できる。	講義
	11		↓	講義
	12.13	運動器疾患	1.運動器の構造と機能/	講義
	14.15		2.症状とその病態/運動器の構造と機能、症状について理解できる	講義
	16.17		3.診断・検査と治療・処置/診断・検査、治療・処置について理解できる	講義
	18.19		4.疾患の理解/主要な疾患について理解できる	講義
	20.21		↓	講義
	22		↓	講義
	23.24 25	歯口腔疾患	1.歯・口腔の構造と機能/歯・口腔の構造について理解できる 2.症状とその病態生理/ 3.検査と治療・処置/ 4.疾患の理解/症状と病態生理、検査・治療、主要な疾患の理解	講義
	26.27 28.29	耳鼻咽喉頭疾患	1.耳鼻咽喉・頸部の構造と機能/ 2.症状とその病態生理/ 3.検査と治療/ 4.疾患の理解/	講義
試 験	30	筆記試験		
評価方法	筆記試験（腎泌尿器 40 点、運動器 35 点、歯・口腔 10 点、耳鼻科 15 点）			
テキスト	系統看護学講座専門 系統看護学講座専門 系統看護学講座専門 系統看護学講座専門	専門分野 専門分野 専門分野 専門分野	成人看護学 8 腎泌尿器 成人看護学 10 運動器 成人看護学 14 耳鼻咽喉科 成人看護学 15 歯・口腔	／ 医学書院 ／ 医学書院 ／ 医学書院 ／ 医学書院

北見医師会看護専門学校

分 野	専門基礎分野					
科目名	26.病態治療学VI					
時期・単位	学年（開講時期）	1 年（後期）		単位（時間数）	1（30）	
講師名	荒川稯二・伊林恵美・阿部智充・赤間大太・中山由臣・庄司寛・小野直和					
授業概要	外科的療法：外科的治療を受ける患者に共通する麻酔法、手術手技、疼痛管理、手術体位などの基礎的な知識を理解する。 リハビリテーション療法：各器官の疾患に伴う障害とリハビリテーションを理解し、日常生活行動の再獲得のための支援を学ぶ。					
到達目標	1.麻酔や手術による生体反応について理解できる。 2.各器官の疾患に伴う障害とリハビリテーションについて理解できる。					
授業計画	時間	学習内容			形態	
	1.2	外科的療法	今日の外科看護の特徴と課題、外科医療の基礎、外科治療を要する疾患・症状			講義
	3.4		外科治療を支える分野① ～麻酔法、呼吸管理、体液管理、栄養管理～			講義
	5.6		外科治療を支える分野② ～輸血療法、緩和医療～			講義
	7.8		外科治療の実際			講義
	9.10		救急看護の基礎			講義
	11.12	高次機能障害・運動機能障害	生活者としての対象を支えるリハビリテーション ・動くという生活行動、運動機能障害の原因と特徴（意識・神経障害、骨・関節）			講義
	13.14		・評価尺度・アセスメントの視点 ・運動機能障害をもつ人への支援			講義
	15.16.17		・高次脳機能障害の原因と特徴 ・評価尺度・高次脳機能障害を持つ人への支援			講義 演習
	18.19	言語障害・摂食嚥下	・食えるという生活行動・摂食嚥下障害の原因と特徴 ・評価尺度・摂食嚥下障害を持つ人への支援			講義
	20.21		・言語障害の原因と特徴・評価尺度 ・言語障害を持つ人への支援			講義
	22.23	聴覚障害	・聴覚障害の原因と特徴 ・評価尺度・聴覚障害を持つ人への支援			講義
	24.25	循環機能障害・呼吸機能	・呼吸機能障害の原因と特徴 ・評価尺度・呼吸機能障害を持つ人への支援			講義
	26.27		・循環機能障害とリハビリテーション			講義
	28.29	視覚障害	・視覚障害の原因と特徴 ・評価尺度・視覚障害を持つ人への支援			講義
試 験	30	筆記試験				
評価方法	筆記試験（外科的療法 40 点、リハビリテーション 60 点）					
テキスト	系統看護学講座 系統看護学講座	別巻 別巻	臨床外科看護総論 リハビリテーション看護	／ ／	医学書院 医学書院	

北見医師会看護専門学校

分 野	専門基礎分野			
科目名	27.病態治療学Ⅶ			
時期・単位	学年（開講時期）	3 年（期）	単位（時間数）	1（30）
講師名	長島 正直・伊藤 卓也・松岡 慶太・好井 透			
授業概要	放射線医学：医療は日々発展をとげており、治療内容についても変化し続けている。ここでは、放射線療法について系統的に学び、患者の状態を正しく把握する基礎的知識を養う。 東洋医学：和漢診療学という和漢の医方に現代西洋医学の視点を組み合わせた診療について学び、患者を診る視点を広げ、日常生活援助の中で活用できる基本的知識を養う。 医療機器：医療機器を安全に使用するための環境や管理、原理や実際を知る。			
到達目標	1.放射線医学：放射線医療に関する基礎的概念と必要な知識が理解できる。 2.東洋医学：和漢診療学の基本的な概要を学び東洋医学と西洋医学を併用することの意義が理解できる。 3.医療機器：医療機器の管理や原則について理解できる。			
授業計画	時間		学習内容	形態
	1.2	放射線医学	1. 画像診断/各検査の特徴となりたち、診断についての概要理解 (1) 画像診断、(2) X 線診断、(3) CT、(4) MRI	講義
	3.4		(5) 超音波検査、(6) 核医学検査、(7) IVR・血管造影	講義
	5.6		2. 放射線治療 (1) 放射線治療総論 ①治療の原理、②治療の基礎、③正常組織の有害反応と耐容線量、④治療可能比、⑤治療と目的	講義
	7.8		(2) 放射線治療と看護 ①看護師の役割、②治療中にみられる急性有害反応	講義
	9.10		(3) 放射線治療各論 ①脳腫瘍、②頭頸部癌、③肺癌、④食道癌、⑤乳癌、⑥直腸癌、⑦子宮頸癌、⑧前立腺癌	講義
	11		(4) 放射線防護 ①放射線障害、②放射線防護	講義
	12.13	東洋医学	1. 和漢診療学とは 2. 病態の把握と治療方針	講義
	14.15		3. 診察の実際/和漢診療の診察の実際について知る	講義
	16.17		4. 生薬と方剤の知識/生薬と方剤の種類や効果等を知る	講義
	18.19		5. チャート式方剤の選び方/症状、疾患による方剤の選び方がわかる	講義
	20.21		6. 鍼灸・手技療法の手引き/鍼灸・手技療法を知ることができる	講義
	22.23	医療機器	1. 医療機器の原理、安全管理と基本/ (1) 医療機器を安全に使うために	講義
	24.25		(2) 測定用医療機器の原理と実際 ①心電図モニター、②パルスオキシメーター	講義
	26.27		(3) 治療用医療機器の原理と実際 ①人工呼吸器、②吸引装置、③吸引療法機器	講義
	28.29		④輸液ポンプ、⑤除細動器	講義
試 験	30	筆記試験		
評価方法	筆記試験（放射線医学：長島 15 点、伊藤 20 点、東洋医学 35 点、医療機器の原理と実際 30 点）			
テキスト	系統看護学講座 臨床放射線医学 / 医学書院 JJN ブックス 絵でみる和漢診療学 / 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[4]臨床看護総論 / 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ / 医学書院			

北見医師会看護専門学校

分 野	専門基礎分野			
科目名	28.薬理学			
時期・単位	学年（開講時期）	1 年（期）	単位（時間数）	1（30）
講師名	横堀 友記 ・ 佐藤 友昭 ・ 千葉 真人			
授業概要	種々の薬物が生体に及ぼす影響を理解し、薬理学の基礎的知識と薬物療法、薬理作用・副作用について、また看護上の注意点についても学ぶ。			
到達目標	1. 薬物と生体の相互作用の結果起こる現象、そのメカニズムが理解できる。 2. 薬物の特徴、副作用、注意点、薬物の管理について理解できる。			
授業計画	時間	学習内容		形態
	1.2	1.薬理学総論/薬理作用の基本と有害作用の機序について理解できる		講義
	3.4	2.免疫治療薬/免疫反応のしくみと薬の種類について理解できる		講義
	5.6	3.末梢での神経活動に作用する薬物/末梢神経による情報伝達のしくみと薬物の種類、作用が理解できる		講義
	7.8	4.皮膚科用薬・眼科用薬/皮膚科薬・眼科用薬の作用と特徴が理解できる		講義
	9.10	5.中枢神経系に作用する薬物/中枢神経系のはたらきと薬物の種類、作用が理解できる		講義
	11.12	↓		講義
	13.14	6.呼吸器・消化器・生殖器に作用する薬物/呼吸器・消化器・生殖に作用する薬物の種類と作用について理解できる		講義
	15.16	7.抗感染症薬/抗感染症薬の種類、作用、問題点について理解できる		講義
	17.18	8.消毒薬/消毒薬の特徴が理解できる		講義
	19.20	9.抗がん薬/抗がん作用の種類,しくみ,薬剤耐性について理解できる		講義
	21.22	10.抗アレルギー薬・抗炎症薬/抗アレルギー薬・抗炎症薬の作用と種類について理解できる		講義
	23.24	11.物質代謝に作用する薬物/糖尿病治療薬等物質代謝の薬物の作用について理解できる		講義
	25.26	12.心臓・血管系に作用する薬物/心臓・血管系に作用する薬物の種類と作用について理解できる		講義
	27.28	13.救急の際に使用される薬物/救急時に使用する薬物の作用について理解できる 14.漢方薬/漢方薬の特徴が理解できる		講義
29	15.輸液剤・輸血剤/輸液・輸血の概要と種類が理解できる		講義	
試 験	30	筆記試験		
評価方法	筆記試験（横堀 28 点・千葉 36 点・佐藤 36 点）			
テキスト	系統看護学講座専門基礎 疾病のなりたちと回復の促進（3）薬理学 / 医学書院			¥2,530

北見医師会看護専門学校

分 野	専門基礎分野			
科目名	29.微生物学			
時期・単位	学年（開講時期）	1 年（期）	単位（時間数）	1（30）
講師名	増田 悦郎			
授業概要	病因となる微生物の特徴と生体に及ぼす影響について学ぶ。感染や発症に対する生体防衛機構について理解する。感染予防と対処方法など、感染対策としての看護の基本的知識を養う。			
到達目標	1.微生物の性質と生体に及ぼす影響について理解できる。 2.感染と免疫機序、感染予防について理解できる。			
授業計画	時間	学習内容		形態
	1.2	1.微生物と微生物学/微生物の性質、微生物学について概要が理解できる 2.細菌の性質/細菌の特徴について理解できる		講義
	3.4	3.ウィルスの性質/ウィルスの特徴について理解できる		講義
	5.6	4.真菌の性質/真菌の特徴について理解できる		講義
	7.8	5.感染と感染症/様々な感染の機構について理解できる		講義
	9.10	6.感染に対する生体防御機構/免疫のしくみ、感染徴候について理解できる		講義
	11.12	↓		講義
	13.14	7.滅菌と消毒 バイオハザードとバイオセーフティ		講義
	15.16	8.感染症の検査と診断/感染症の検査と診断について理解できる		講義
	17.18	9.感染症の治療/感染症の治療について理解できる		講義
	19.20	10.感染症の現状と対策/感染症の変遷、現状と問題点が理解できる		講義
	21.22	11.病原細菌と細菌感染症/病原細菌の種類と特徴が理解できる		講義
	23.24	↓		講義
	25.26	12.病原ウィルスとウィルス感染症 おもなウィルスの種類と特徴が理解できる		講義
	27.28	13.病原真菌と真菌感染症/真菌感染症の種類と特徴が理解できる		講義
	29	14.寄生虫と衛生動物 寄生虫と衛生動物の種類と特徴がわかる		講義
試 験	30	筆記試験		
評価方法	筆記試験 100 点			
テキスト	系統看護学講座専門基礎 疾病のなりたちと回復の促進（４）微生物学 ／ 医学書院			

北見医師会看護専門学校

分 野	専門基礎分野			
科目名	30.臨床検査			
時期・単位	学年（開講時期）	2 年（期）	単位（時間数）	1（15）
講師名	畑中 宗博			
授業概要	各診療科で行われる主な検査と目的、流れと看護師の役割などの概要を学ぶ。ここでは、なぜこのような反応・数値が出るのか等も学び、病態と解剖生理の理解にもつなげる。			
到達目標	1.臨床検査の種類と意義、注意点が理解できる。 2.看護師の役割が理解できる。			
授業計画	時間	学習内容		形態
	1.2	1.臨床検査とその役割/臨床検査の種類や役割などが理解できる 2.臨床検査の流れと看護師の役割/臨床検査の流れと看護師の役割について理解できる		
	3.4	3.一般検査/一般検査の種類、意義、注意点、解釈等が理解できる		
	5.6	4.血液学的検査/血液学的検査の種類と意義、注意点、解釈等理解できる		
	7.8	5.化学検査/化学検査の種類と意義、注意点が理解できる		
	9.10	6.免疫・血清学検査/免疫・血清学検査の方法、意義、注意点、解釈等が理解できる		
	11.12	7.内分泌学的検査/ホルモンの検査の種類と意義、注意点が理解できる 8.微生物学検査/微生物学検査と他の検査の違い、注意点が理解できる		
	13.14	9.病理検査/病理検査の種類、意義、注意点が理解できる 10.生体検査/生体検査の種類と意義、注意点、解釈等が理解できる		
試 験	15	筆記試験		
評価方法	筆記試験 100 点			
テキスト	系統看護学講座 別巻 臨床検査 / 医学書院			

※実務経験のある教員等による授業科目

北見医師会看護専門学校

分 野	専門基礎分野			
科目名	31.総合医療論			
時期・単位	学年（開講時期）	1 年（前期）	単位（時間数）	1（15）
講師名	荒川 穰二			
授業概要	社会と共に医療のあり方が大きく変貌している。ここでは医の原点と変遷および現代の医療問題を理解し、「いのち」と「健康」の視点から医療のあり方や生命倫理および医療の中の看護の役割について、考察する能力を養う。			
到達目標	1. 医学の本質を総論的・多面的にとらえ、現代医療の特性、医の倫理、生命の意義を理解する。 2. 医学がどのような社会的期待を担っているのか理解する。			
授業計画	時間	学習内容		形態
	1.2	1.医療と看護の原点―病と癒し/医療と看護の原点である命、健康、病、癒しについて考えることができる		講義
	3.4	2.医療の歩みと医療観の変遷/医療、医療観の変遷について理解できる		講義
	5.6	3.私たちの生活と健康/健康をとりまく生活環境について理解できる		講義
	7.8	4.科学技術の進歩と現代医療の最前線 先端医療の現状について理解できる		講義
	9.10	5.現代医療の新たな課題/現代医療の課題について理解できる		講義演習
	11.12	6.医療を見つめなおす新しい視点/臨床疫学、安全の考え方、システム、情報化と管理などの新しい考え方について理解できる		講義
	13.14	7.保健・医療・福祉の潮流/現代の保健医療福祉の潮流について概要が理解できる		講義
試 験	15	筆記試験		
評価方法	筆記試験 100 点			
テキスト	系統看護学講座 別巻 総合医療論 ／ 医学書院			

北見医師会看護専門学校

分 野	専門基礎分野			
科目名	32.公衆衛生			
時期・単位	学年（開講時期）	1 年（後期）	単位（時間数）	1（30）
講師名	一色 学・高田 健志・北山 明子・玉置 真一			
授業概要	看護の対象である個人および集団の生活と健康について、健康を取り巻く環境と関連付けて考え、生涯を通じて健康の維持・増進するための個人・集団・地域への働きかけとしての保健活動について、基礎的知識を学ぶ。			
到達目標	1.公衆衛生に関連する統計について理解する。 2.公衆衛生に関連する組織的な保健活動について理解する。 3.オホーツク圏地域の特性について理解する。			
授業計画	時間	学習内容		形態
	1.2	1.公衆衛生を学ぶにあたって/看護学生が公衆衛生を学ぶ意義 2. 公衆衛生とは/		講義
	3.4	3. 健康と環境、疫学的方法/環境と健康について学び、集団検診と疫学の基本と技法を学ぶ		講義
	5.6	4.健康の指標/集団の健康水準を測定する尺度について学び、我が国の健康水準について理解する		講義
	7.8	5.感染症とその予防/地域における感染症対策について理解する		講義
	9.10	6. 食品保健と栄養/我が国の食品衛生の制度を理解し、課題や栄養問題について国民的立場から理解する		講義
	11.12	7. 生活環境の保全/環境と衛生、生活のつながりと環境保全の大切さを学ぶ		講義
	13.14	8. 医療・介護の保障制度/住民の健康を守る目的、法律、政策・事業・計画などの枠組み、わが国の医療保障制度の特色とその仕組、公衆衛生の仕組みについて理解する		講義
	15.16	9.地域保健活動（ヘルスサービスの構造）/ヘルスサービスの構造、看護職の公的責任と役割、看護職の活動、災害保健について		講義
	17.18	10.母子保健/我が国の母子保健の現状と課題について学ぶ		講義
	19.20	11.健康教育とヘルスプロモーション/健康教育とヘルスプロモーションの概念その取り組みを学ぶ		講義
	21.22	12.生活習慣病/生活習慣病が日本人の最大の死因であること生活習慣病対策と課題を知る		講義
	23.24	13.精神保健福祉/精神保健福祉の施策やメンタルヘルス精神保健福祉の施策やメンタルヘルス		講義
	25.26	14.産業保健/働く人々に生じる健康問題と職場における健康管理のしくみが理解できる		講義
27.28	15.学校保健/学校保健の目的としくみが理解できる		講義	
	29	16.難病対策/ 難病の定義、難病対策を学び、難病法成立による新たな課題を知る		講義
試 験	30	筆記試験		
評価方法	筆記試験 100 点（三浦 30 点・北山 45 点・玉置 15 点・浅利 10 点）			
テキスト	わかりやすい公衆衛生 / スーヴェルヒロカワ 公衆衛生がみえる 2022/2023 / メディックメディア			

北見医師会看護専門学校

分 野	専門基礎分野			
科目名	33.臨床心理学			
時期・単位	学年（開講時期）	2 年（期）	単位（時間数）	1（30）
講師名	白川 純子			
授業概要	心理学で学習した基礎知識をふまえ、人間の心理的発達を知り、人間の行動とこころの関連を理解する。演習や事例を通じて、面接やカウンセリングの基本的技法を習得し、自己理解や他者理解を深め、自己の成長や人格形成を図る。また実践において対象の心理を理解した援助・教育ができる能力を養う。			
到達目標	1.人間の心理や行動を理解し、自己理解・他者理解を深め、よりよい人間関係を作る能力を養う。			
授業計画	時間	学習内容		形態
	1.2	1.発達/各発達段階の特徴と心理的発達課題・問題が理解できる		講義
	3.4	↓		講義
	5.6	2.患者の理解/人間の行動と心理に関する理論が理解できる		講義
	7.8	↓		講義
	9.10	↓		講義
	11.12	3.人間関係論/人間関係構築のために必要な知識が理解できる		講義
	13.14	4.看護職者の心理/看護職者の心理が理解できる		講義
	15.16	5.面接の技法/面接の技法の基礎知識を理解できる		講義
	17.18	↓		講義
	19.20	6.心理療法/医療における事例を通して患者の心理について理解できる		講義
	21.22	↓		講義
	23.24	↓		講義
	25.26	↓		講義
	27.28	7.行動科学/人間の行動変容に関連する基礎的理論が理解できる		講義
	29	↓		講義
試 験	30	筆記試験		
評価方法	筆記試験 70 点 講義レポート 30 点			
テキスト	看護学生のための心理学 / 医学書院			

北見医師会看護専門学校

分 野	専門基礎分野			
科目名	34.社会福祉学			
時期・単位	学年（開講時期）	2 年（期）	単位（時間数）	1（30）
講師名	武田 学 ・ 金田 さくら ・ 山田 宗治 ・ 久永 聖人			
授業概要	現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向をふまえ、医療保障、介護保障、所得保障、公的扶助など社会保障制度の全体像を把握しつつ、医療・看護領域と社会福祉の連携について理解を深める。			
到達目標	1. 社会福祉と医療・社会保障制度の関連、社会資源の活用法を理解する。 2. 社会福祉が生活問題に対応するための社会的施策であることを理解する。			
授業計画	時間	学習内容		形態
	1.2	1.社会保障制度と社会福祉/社会保障の概念や目的、しくみの概要が理解できる		講義
	3.4	2.現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向/現代社会の変化とそれに伴う社会保障の動向が理解できる		
	5.6	3.医療保障/医療保障制度の構造と体系が理解できる健康保険と高齢者医療制度、保険医療の仕組みが理解できる		
	7.8	↓		
	9.10	6.公的扶助/貧困・低所得問題、生活保護制度の仕組みが理解できる		
	11.12	↓		
	13.14	4.介護保障/介護保険制度の概要と課題について理解できる		
	15.16	↓		
	17.18	5.所得保障/所得保障制度のしくみと種類、特徴が理解できる		
	19	↓		
	20.21	7.社会福祉の分野とサービス/社会福祉の種類と施策について理解できる		
	22.23	8.社会福祉実践と医療・看護/社会福祉援助と援助技術、連携の重要性について理解できる		
	24.25	↓		
	26.27	9.社会福祉の歴史/社会福祉の歴史について理解できる		
	28.29	↓		
試 験	30	筆記試験		
評価方法	筆記試験 100 点（武田 60 点・山崎 40 点）			
テキスト	系統看護学講座専門基礎 健康支援と社会保障制度（3）社会保障・社会福祉 /医学書院			

※実務経験のある教員等による授業科目

北見医師会看護専門学校

分 野	専門基礎分野			
科目名	35.地域保健論			
時期・単位	学年（開講時期）	3 年（後期）	単位（時間数）	1（15）
講師名	北見市ミント宅配便〔行政編〕			
授業概要	地域の生活環境について考察する。北見市の現状と課題、災害対策やボランティア、地域の保健の現状等を理解する。			
到達目標	地域で健康に暮らしていくための課題と問題解決を考える力を養う。 ・北見市の政策、税金と財政状況等の現状が理解できる。 ・北見市の環境を知り、個人が努力すべきことや、北見市の課題が理解できる。 ・高齢者の心身の健康を保持するための生涯学習の必要性について理解できる。 ・防災意識を高める必要性が理解できる。			
授業計画	時間	学習内容		形態
	1	1. 北見市の現状を知る/北見市のまちづくり：企画政策課		講義
	2	わかりやすい都市計画：都市計画課		講義
	3	常呂川の水環境：環境課		講義
	4	選挙のあれこれ：選挙管理委員会		講義
	5	暮らしと市税：市民税課		講義
	6	2. 快適な市民生活を送るために/ 北見市の公園と緑地、緑のもつ大切さについて：公園緑地課		講義
	7	北見市の上下水道：浄水場		講義
	8	みんなを守る地球を守る下水道：下水道課		講義
	9	北見市の公共交通について：地域振興課		講義
	10	ごみの分別と排出方法：廃棄物対策課		講義
	11	生涯学習の必要性：生涯学習課		講義
	12	3. 安心できる市民生活を送るために/自主防災意識を高めるために：防災管理課		講義
	13			講義
	14			講義
15			講義	
試 験				
評価方法	課題レポート 100 点			
テキスト	随時資料配布			

北見医師会看護専門学校

分 野	専門基礎分野			
科目名	36.看護関係法令			
時期・単位	学年（開講時期）	3 年（期）	単位（時間数）	1（15）
講師名	武田 富美子			
授業概要	法の基礎知識と保健医療福祉に関する諸制度の概要と規定する諸法令を理解する。ここでは、保健師助産師看護師法を基礎として、医療者として業務責任についても自覚する機会とする。			
到達目標	1.看護職に必要な法令を学び、その解釈と活用に関する知識を得るとともに、保健医療制度の中での看護職の役割と責務を理解する。			
授業計画	時間	学習内容		形態
	1.2	1. 法の概念と医療法① 医療法とは、医療提供施設の機能		講義
	3.4	2. 法の概念と医療法② 医療計画、救急医療		講義
	5.6	3. 医療や社会福祉の関連職に関する法① 医療関係資格、保健福祉に関する資格		講義
	7.8	4. 看護職に関する法① 保健師助産師看護師法		講義
	9.10	5. 看護職に関する法② 人材確保の促進に関する法律		講義
	11.12	6. 医療や社会福祉の関連職に関する法② 移植医療、人の死に関する法令、緊急時の看護・医療		講義
	13.14	7. 薬務法 医薬品と医療機器に関する取扱い、人などの組織を用いた医療関連、薬剤被害救済、麻薬・毒薬などの規制		講義
試 験	15	筆記試験		
評価方法	筆記試験 100 点			
テキスト	系統看護学講座専門基礎 健康支援と社会保障制度（4）看護関係法令 / 医学書院			

専門分野

北見医師会看護専門学校

分 野	専門分野			
科目名	37.基礎看護学概論			
時期・単位	学年（開講時期）	1 年（前期）	単位（時間数）	1（30）
講師名	畠山 克子			
授業概要	看護学全般の概念をとらえ、看護の概念と機能を理解する。ここでは保健医療福祉の中での看護の位置づけや倫理について等、基本的なことを学ぶ。			
到達目標	1.看護の機能とその重要性を認識し、対象である人間を全体的統合体として理解する。 2.看護全般の概念をとらえ、看護の位置づけと役割の重要性を理解する。			
授業計画	時間	学習内容		形態
	1・2	看護とは		講義 GW
	3・4	看護の本質 看護の変遷 看護の定義 看護の役割と機能		講義
	5・6	看護実践とその質保証に必要な要件		講義
	7・8	看護の対象の理解 人間のこころとからだ		講義
	9・10	生涯発達し続ける存在としての人間の理解 人間の暮らし 看護の対象としての家族		講義
	11・12	国民の健康状態と生活 健康の捉え方		講義
	13・14	国民の健康状態		講義
	15・16	看護の提供者 職業としての看護 看護職の資格 養成制度 就業状況		講義
	17・18	看護職者の継続教育とキャリア開発		講義
	19・20	看護の提供のしくみ 看護サービス提供の場 継続看護		講義
	21・22	看護をめぐる制度と政策		講義
	23・24	看護サービスの管理 医療安全		講義
	25・26	看護における倫理 職業倫理 看護倫理		講義
	27・28	看護実践における倫理問題への取り組み		講義 GW
	2 9	GW 発表		GW
試 験	3 0	筆記試験		
評価方法	筆記試験 100 点			
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学【1】看護学概論 / 医学書院 公衆衛生がみえる 2022/2023 / メディックメディア			

※実務経験のある教員等による授業科目

北見医師会看護専門学校

分 野	専門分野			
科目名	38.看護倫理			
時期・単位	学年（開講時期）	2 年（後期）	単位（時間数）	1（15）
講師名	秋山 聡美			
授業概要	倫理学の基本的な考えを学び、生命倫理、医療倫理、看護倫理の基礎、倫理的問題への実践的なアプローチ、事例分析など自分の問題として考えられるよう取り組む。			
到達目標	1. 倫理に関しての基本的な知識が身につく。 2. 倫理的看護実践ができるための素地を養う。			
授業計画	時間	学習内容		形態
	1.2	1. 倫理学の基本的な考え方 2. 生命倫理 生命倫理の4原則、インフォームドコンセント		講義
	3.4	3. 生殖倫理 優性思想、人工妊娠中絶、出生前診断、生殖補助技術、新生児医療		講義/演習
	5.6	4. 死の生命倫理 死の準備教育、終末期ケア、安楽死・尊厳死、脳死・移植医療		講義/演習
	7.8	5. 先端医療と制度をめぐる生命倫理 遺伝子診断・治療、医療資源の配分		講義/演習
	9.10	6. 看護倫理とは何か 看護倫理の意義・歴史、看護の倫理原則、看護実践上の倫理的概念、看護実践と倫理		講義/演習
	11.12	7. 専門職の倫理 社会から見た看護、専門職に求められる倫理、専門職の倫理綱領、看護業務基準、保助看法		講義/演習
	13.14	8. 倫理的問題へのアプローチ 看護実践における倫理的問題の特徴、倫理的問題の特徴、倫理的問題のアプローチ		講義/演習
試 験	15	筆記試験		
評価方法	筆記試験 70 点+グループワーク記録 30 点			
テキスト	系統看護学講座 別巻 看護倫理 よくわかる看護者の倫理綱領		医学書院 照林社	¥1,980 ¥880

※実務経験のある教員等による授業科目

北見医師会看護専門学校

分 野	専門分野			
科目名	39.人間関係形成技術			
時期・単位	学年（開講時期）	1 年（前期・後期）	単位（時間数）	1（30）
講師名	南 里江子 ・ 小山田 理恵			
授業概要	看護の対象となる人々の健康上のニーズを的確に把握し看護実践につなげるための、コミュニケーション技術、健康支援技術、および看護記録の基礎について演習を通して習得する。看護職者としての人間関係形成のための基本的態度・技術を学ぶ。			
到達目標	1. コミュニケーションの概念と意義を理解し、人間関係成立の基本的技法を習得する。 2. 看護の対象者への学習支援の意義と方法を理解する。 3. 看護における記録と報告の意義を理解し、基礎的知識を習得する。			
授業計画	時間	学習内容		形態
	1・2	1. 看護技術を学ぶにあたって ①技術とは ②看護技術の特徴と範囲 ③実践の要素		講義
	3・4	2. 人間関係を成立・発展させるための技術 (1) コミュニケーションの意義と目的 (2) コミュニケーションの構成要素と成立過程		講義
	5・6	(3) 関係構築のためのコミュニケーションの基本・信頼関係 (4) 効果的なコミュニケーション ①聴くこと		講義
	7・8	②話すこと ③アサーティブネス		講義
	9・10	④受けとめる ⑤プロセスレコード		講義
	11.12	⑥質問の技術、面接技法 基本情報とは		講義
	13.14	基本情報の情報収集ロールプレイ演習準備		演習
	15.16	基本情報の情報収集ロールプレイ演習の実施		演習
	17.18	3. コミュニケーション障害のある対象への対応 4. オンラインコミュニケーション		講義
	19.20	1.看護記録とは 2.記載・管理における留意点 3.看護記録の構成		講義
	21・22	観察による情報収集と SOAP 記載		演習
	23・24	SOAP 記載		演習
	25・26	SOAP 記載		演習
	27・28 29	看護サマリー		講義
試 験	30	筆記試験		
評価方法	南 60 点：筆記試験 50 点+提出課題 10 点 / 小山田 40 点：筆記試験			
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ 仲間とみがく看護のコミュニケーションセンス			

北見医師会看護専門学校

分 野	専門分野			
科目名	40.フィジカルアセスメント			
時期・単位	学年（開講時期）	1 年（期）	単位（時間数）	1（30）
講師名	八重樫 明子・山口 佳子			
授業概要	アセスメントの根拠となる対象の身体状況全体を客観的かつ系統的に把握する方法を学習し、看護実践できる基礎的能力を養う。			
到達目標	1. ヘルスアセスメントの目的を理解し、対象の全体をみるための方法がわかる。 2. フィジカルアセスメントの基本的技術を用いて器官別・系統別アセスメントができる。 3. 解剖生理の知識をふまえ、根拠をもったフィジカルアセスメントがわかる。 4. 対象の安全・安楽・自立性をふまえ、対象を尊重しプライバシーを配慮した援助の方法がわかる。			
授業計画	時間	学習内容		形態
	1・2	ヘルスアセスメントとは ～健康歴とセルフケア能力のアセスメント、フィジカルアセスメントに必要な技術		講義 演習
	3・4	全体の概観 ～フィジカルアセスメントに必要な技術、全身状態・全体印象の把握、計測～		講義 演習
	5・6	全体の概観 ～バイタルサインの観察とアセスメント／体温、脈拍、呼吸、血圧、意識～		講義 演習
	7・8・9	技術試験 バイタルサイン測定（体温・脈拍・血圧・呼吸）		演習
	10・11・12	系統別フィジカルアセスメント ～呼吸器系のフィジカルアセスメント～		講義 演習
	13・14・15	系統別フィジカルアセスメント ～循環器系のフィジカルアセスメント～		講義 演習
	16・17・18	系統別フィジカルアセスメント ～腹部のフィジカルアセスメント～		講義 演習
	19・20・21	系統別フィジカルアセスメント ～筋骨格系のフィジカルアセスメント～		講義 演習
	22・23・24	系統別フィジカルアセスメント ～神経系のフィジカルアセスメント～		講義 演習
	25・26・27	系統別フィジカルアセスメント ～乳房腋窩・リンパ・外皮のフィジカルアセスメント～		講義演習
	28・29	事例患者のフィジカルアセスメント ～大腸がん術後、再入院の患者へのフィジカルアセスメント、計測～		演習
試 験	30	筆記試験		
評価方法	筆記試験 50（ヘルスアセスメント 15 点／系統別フィジカルアセスメント 35 点）／技術試験 50 点			
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学【2】基礎看護技術 ＜新体系看護学全書＞準拠 基礎看護学まとめノート 第2巻 基礎看護技術Ⅰ／メヂカルフレンド社			

北見医師会看護専門学校

分 野	専門分野			
科目名	41.看護過程			
時期・単位	学年（開講時期）	1 年（期）	単位（時間数）	1（30）
講師名	秋山 聡美			
授業概要	看護の目的を達成するための基礎的理論（ヘンダーソンの理論）を学び、対象を視る視点を養う。また、人に正しく状況を伝えるための表現や記載について学ぶ。ここでは事例を通して看護実践のための思考過程を学習し、具体的な援助を考える一連の過程を学ぶ。			
到達目標	1. 看護実践のための思考過程が理解できる。 2. 具体的な援助を考えるためのツールについて理解できる。			
授業計画	時間	学習内容	提出レポート	形態
	1.2	1.看護過程の概念及び定義	問題解決過程レポート：5 点	講義
	3.4	2.思考の訓練 自分自身の日常生活の場面の記載	思考訓練レポ：5 点	講義/演習
	5.6	グループワーク		講義/演習
	7.8	3.ヘンダーソンの看護過程の構成要素		講義/演習
	9.10	ヘンダーソンの 14 項目について	自己の 14 項目：15 点	講義/演習
	11.12	4.紙上事例の展開 (1) 事例紹介 (2) 病理的状態の学習の仕方について	病理的状態 10 点	講義/演習
	13.14	(3) 常在条件の考え方について	全体像：10 点	講義/演習
	15.16	(4) 基本的欲求 14 項目情報の整理	常在条件：5 点	講義/演習
	17.18	(5) 基本的欲求 14 項目の充足未充足の考え方	基本的欲求アセス：14 点	講義/演習
	19.20	(6) 行動計画立案	行動計画：10 点	講義/演習
	21.22	(7) 基本的欲求 14 項目のアセスメント		講義/演習
	23.24	(8) 病理的状態フィードバック		講義/演習
	25.26	(9) リストアップ		講義/演習
	27.28	5.実習での受持ち患者 リストアップ	リストアップ 10 点	講義/演習
	29.30	看護計画	看護計画：10 点 関連図：6 点	講義/演習
試 験				
評価方法	演習レポート 100 点			
テキスト	看護の基本となるもの 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学【2】基礎看護技術 I 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 第4版 ヘンダーソンの基本的看護に関する看護問題リスト 第4版 看護過程に沿った対応看護 病態生理と看護のポイント 日本看護協会出版会 ¥1,200 医学書院 ¥2,970 ヌーヴェルヒロカワ ¥2,200 ヌーヴェルヒロカワ ¥1,100 学研 ¥5,060			

※実務経験のある教員等による授業科目

北見医師会看護専門学校

分 野	専門分野			
科目名	42. 清潔衣生活援助技術			
時期・単位	学年（開講時期）	1 年（後期）	単位（時間数）	1（30）
講師名	合佐毘 綾子			
授業概要	看護実践活動の基本となる看護技術の概念を理解し、健康の維持・回復のために日常生活援助の清潔・整容・衣生活を整える必要性について看護の役割を学び、生活援助技術の方法を身につける。			
到達目標	1. 皮膚・粘膜の構造と機能を理解し清潔援助がもたらす効果と全身への影響を理解することができる 2. 清潔援助の選択方法の視点を理解し、それぞれの清潔援助の実際がわかる 3. 病床での衣生活の基礎知識を理解し援助の実際がわかる			
授業計画	時間	学習内容		形態
	1・2	清潔の援助の基礎知識① ～皮膚粘膜の機能構造と清潔援助の効果、全身への影響、講義演習の進め方～		講義
	3・4	清潔の援助の基礎知識② ～デモンストレーション準備～		GW
	5・6	口腔ケア ～援助の基礎知識／臥床患者への援助の実際／義歯のケア～		講義演習
	7・8	手浴・足浴とフットケア／入浴とシャワー浴 ～援助の基礎知識／臥床患者への援助の実際～		講義演習
	9・10	↓		講義演習
	11・12	洗髪と整容 ～援助の基礎知識／臥床患者への援助の実際～		講義演習
	13・14	↓		講義演習
	15・16	陰部洗浄とオムツ交換 ～援助の基礎知識／臥床患者への援助の実際～		講義演習
	17・18	↓		講義演習
	19・20	病床での衣生活の援助・点滴留置中の患者の寝衣交換 ～援助の基礎知識／臥床患者への援助の実際～		講義演習
	21・22	↓		講義演習
	23・24・25	全身清拭と寝衣交換 ～援助の基礎知識／臥床患者への援助の実際～		講義演習
	26・27・	実技試験演習		演習
	28・29	実技試験		実技試験
試 験	30	筆記試験		
評価方法	筆記 40 点／技術 40 点／援助計画 10 点／課題ワーク 10 点			
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学【3】基礎看護学技術Ⅱ／医学書院 新訂版写真でわかる実習で使える看護技術アドバンス／インターメディカ 基礎看護学まとめノート基礎看護学技術Ⅱ／メジカルフレンド社			

※実務経験のある教員等による授業科目

北見医師会看護専門学校

分 野	専門分野			
科目名	43.活動休息・環境・食事援助技術			
時期・単位	学年（開講時期）	1 年（期）	単位（時間数）	1（30）
講師名	畠山 克子・ 合佐毘 綾子 ・ 白澤 季枝			
授業概要	看護実践活動の基本となる看護技術の概念を理解し、健康の維持・回復のために生活環境・療養環境・日常生活の食事・活動と休息を整える必要性について看護の役割を学び、生活援助技術の方法を身につける。			
到達目標	1.療養生活の環境調整について理解できる 2.人間にとっての「栄養と食事」の意義を理解し、健康の充足・維持増進のために必要な知識・技術を習得する。 3.人間にとっての「活動・休息」の意義を理解し、健康の充足・維持増進のために必要な知識・技術を習得する。			
授業計画	時間	学習内容		形態
	1.2	環境調整技術① ～療養生活の環境、病室のアセスメント～		講義 GW
	3.4	環境調整技術② ～環境整備、ベッドメイキング～		講義 演習
	5.6	環境調整技術③ ～臥床患者のリネン交換と環境整備～		講義 演習
	7.8	環境調整技術④ ～臥床患者のリネン交換と環境整備 実技試験～		実技試験
	9.10	(1)食事の意義（生物学・精神・社会・文化的） (2)栄養と食における看護の役割(3)食事の基礎知識		講義
	11.12	(3)食事介助（援助の基礎知識、援助の実際）		講義
	13.14	(4)演習 セッティング、食事姿勢を整える、補助具や自助具の使用、食事動作、食事介助、食事指導		演習
	15	まとめ		講義
	16.17	活動・休息の援助技術 活動の意義 活動を制限されることで起きる弊害 基本的活動の基礎知識		講義
	18.19	基本体位・特殊体位の特徴 ポデイメカニクス		講義
	20.21	移動 体位変換～援助の基礎知識 目的 援助の実際 ポジショニング		講義 演習
	22.23 24.25	移乗・移送～援助の基礎知識 目的 援助の実際 杖歩行 車椅子 ストレッチャー		講義演習
	26.27	睡眠休息の援助～睡眠の種類 睡眠障害のアセスメント		講義
	28.29	睡眠を促す援助 熱布バックケア		講義 演習
試 験	30	筆記試験		
評価方法	筆記 50 点（視見：点 畠山：点 奥泉：点）／技術 50 点（畠山：点）			
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 【1】 基礎看護学概論 ／ 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 【2】 基礎看護技術Ⅰ ／ 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 【3】 基礎看護技術Ⅱ ／ 医学書院			

※実務経験のある教員等による授業科目

北見医師会看護専門学校

分 野	専門分野			
科目名	44.感染防止・排泄援助技術			
時期・単位	学年（開講時期）	1 年（期）	単位（時間数）	1（30）
講師名	南 里江子 ・ 松野 絢			
授業概要	健康の維持・回復のために感染防止についてと排泄を整える看護の役割を学び、生活援助技術の方法を身につける。			
到達目標	1. 感染防止の援助について理解できる。 2. 人間にとっての「排泄」の意義を理解し、健康の充足・維持増進のために必要な知識・技術を習得する。			
授業計画	時間	学習内容		形態
	1.2	1. 感染防止の技術 (1) 感染防止の基礎知識 (2) 標準予防策（スタンダード・プリコーション）		講義 演習
	3.4	(2) 標準予防策 (3) 感染経路別予防策		講義 演習
	5.6	(4) 洗浄・消毒・滅菌		講義 演習
	7.8	技術試験：手洗い・防護用具装着		試験
	9.10	(5) 感染性廃棄物の取り扱い (6) 針刺し事故防止 (7) 医療施設による感染管理		講義
	11	吐物処理演習		演習
	12.13	(8) 無菌操作		講義 演習
	14.15	1. 自然排尿および自然排便の介助 (1) 基礎知識		講義 演習
	16.17	↓		講義 演習
	18.19	2. 自然排尿および自然排便の介助の実際 (1) トイレにおける排泄介助		講義 演習
	20.21	(2) 床上排泄援助		講義 演習
	22.23	(3) おむつによる排泄援助（おむつ交換）		講義 演習
	24.25	3. 導尿 (1) 一時的導尿 (2) 持続的導尿		講義 演習
	26.27	4. 排便を促す援助 (1) 浣腸 (2) 摘便		講義 演習
	28.29	技術試験		試験
試 験	30	筆記試験		
評価方法	感染 50 点（技術 20 点＋筆記 30 点）、排泄 50 点（技術 20 点＋筆記 30 点）			
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学【2】基礎看護技術Ⅰ ／ 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学【3】基礎看護技術Ⅱ ／ 医学書院 新訂版写真でわかる実習で使える看護技術アドバンス ／ インターメディカ ＜新体系看護学全書＞準拠 基礎看護学まとめノート 第 3 巻 基礎看護技術Ⅱ／ メジカルフレンド社			

北見医師会看護専門学校

分 野	専門分野			
科目名	45.生体維持援助技術			
時期・単位	学年（開講時期）	2 年（前期）	単位（時間数）	1（30）
講師名	加藤 あずさ・白澤季枝・増田 さおり・坂野 遼			
授業概要	健康の維持・回復のために必要な呼吸・循環を整える技術について学び、演習での援助の実際を通して目的と方法を理解する。また、創傷管理技術を学び、治癒過程における環境の重要性を理解する。さらに、救命救急処置の基礎知識と技術を学び、急変時の対応と看護の役割について理解する。			
到達目標	1.呼吸と循環を整える援助の基礎知識をふまえ、援助技術の目的・方法が理解できる。 2.創傷とその治癒のメカニズムをふまえ、創傷管理に必要な環境と援助の方法が理解できる。 3.褥瘡発生の機序とアセスメント方法を学び、褥瘡予防とストーマケアの方法を理解できる。 4.急変時の対応と心肺蘇生法の基礎知識および一時救命処置の実際を学び、救急処置技術を理解できる。			
授業計画	時間	学習内容		形態
	1・2	呼吸・循環を整える技術① ～酸素吸入療法～		講義
	3・4	呼吸・循環を整える技術② ～排痰ケア・一時的吸引・持続吸引の援助～		講義
	5・6	呼吸・循環を整える技術③ ～吸入・人工呼吸療法・体温管理・末梢循環促進ケア～		講義
	7・8・9	呼吸・循環を整える技術④ ～酸素療法演習～		演習
	10・11	呼吸・循環を整える技術⑤ ～排痰を促す援助～		講義
	12・13	呼吸・循環を整える技術⑥ ～排痰を促す援助演習～		演習
	14・15	創傷管理技術① ～創傷管理の基礎知識～		講義
	16・17	創傷管理技術② ～創洗浄、包帯法、ドレーン挿入部の処置～		演習
	18・19・20・21	創傷管理技術③ ～ストマケア～		講義 演習
	22・23	救命救急処置技術① ～救命救急処置の基礎知識～		講義
	24・25	救命救急処置技術② ～トリアージ、急性中毒、熱中症、感染症への対応～		講義演習
	26・27	救命救急処置技術③ ～外傷・熱傷・凍傷・骨折の救急処置（止血法）～		講義演習
	28・29	救命救急処置技術④ ～一次救命処置、緊急時の応援要請～		講義演習
試 験	30	筆記試験		
評価方法	呼吸 50 点（演習記録 10 点・筆記 40 点） 創傷 25 点（創傷 15 点＋ストマ 10 点） 救急 25 点			
テキスト	統看護学講座 専門分野 基礎看護学【3】基礎看護技術Ⅱ ／ 医学書院 新訂版写真でわかる実習で使える看護技術アドバンス ／ インターメディカ			

北見医師会看護専門学校

分 野	専門分野			
科目名	46.診察検査援助技術Ⅰ			
時期・単位	学年（開講時期）	3 年（前期）	単位（時間数）	1（15）
講師名	小山田 理恵			
授業概要	症状・生体機能管理技術の基礎を学ぶとともに医療現場にあふれている多くの医療機器を安全に使用できるよう、機器の基本的なしくみ、使用方法について学ぶ。			
到達目標	検査やモニタリングについて学び、必要な看護援助について理解できる。			
授業計画	時間	学習内容		形態
	1・2	症状・生体機能管理技術の基礎知識 血液検査(静脈血採血、動脈血採血、血糖測定)の援助の基礎知識		講義
	3・4	血液検査の援助の実際 尿検査、便検査、喀痰検査の援助の基礎知識、援助の実際		講義
	5・6	生体情報のモニタリング 心電図モニター、SpO2 モニター 援助の基礎知識と実際		講義
	7・8	血管留置カテーテルモニター 援助の基礎知識と実際		講義
	9・10	血液検査、血糖検査演習		演習
	11・12	尿検査演習		演習
	13・14	12 誘導心電図検査		演習
試 験	15	筆記試験		小山田
評価方法	筆記試験 100 点			
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学【3】基礎看護技術Ⅱ / 医学書院 根拠からわかる！実習で実践できる！基礎看護技術 / 照林社			

※実務経験のある教員等による授業科目

北見医師会看護専門学校

分 野	専門分野			
科目名	47.診察検査援助技術Ⅱ			
時期・単位	学年（開講時期）	3 年（前期）	単位（時間数）	1（15）
講師名	小山田理恵 ・ 名達寿穂 ・ 古谷ゆかり ・ 森真由美			
授業概要	治療・処置を受ける患者の不安や苦痛への援助の必要性ならびに安全安楽に介助技術を実践するために必要な知識と技術を学ぶ。			
到達目標	診察・検査・処置の介助技術を学び、必要な看護援助について理解できる。			
授業計画	時間	学習内容		形態
	1.2	A 診察の介助 B 検査処置の介助 1.X 線検査 上部消化管造影		講義
	3.4	2.コンピュータ断層造影（CT） 3.磁気共鳴造影（MRI）		講義+演習
	5.6	4.内視鏡検査 上部消化管内視鏡検査 5.超音波検査（エコー検査）		講義+演習
	7.8	6.心電図検査 標準 12 誘導心電図（安静時）		講義+演習
	9.10	7.肺機能検査 8.各医学検査		講義+演習
	11.12	9.穿刺 ①胸腔穿刺、②腹腔穿刺、③腰椎穿刺（ルンバール）、④骨髄穿刺		講義+演習
	13.14	援助の基礎知識と援助の実際		演習
試 験	15	筆記試験		
評価方法	筆記試験 50 点 演習 50 点			
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学【3】基礎看護技術Ⅱ / 医学書院 新訂版写真でわかる実習で使える看護技術アドバンス / インターメディカ			

北見医師会看護専門学校

分 野	専門分野			
科目名	48.与薬援助技術			
時期・単位	学年（開講時期）	2 年（期）	単位（時間数）	1（30）
講師名	小山田 理恵 ・ 白澤 季枝			
授業概要	健康の回復のために必要な与薬の援助が安全・安楽・正確に実践できる知識と技術を学ぶ。ここでは、安全の確保についても学び、医療事故を起こさないための知識を身につける。			
到達目標	1. 与薬の援助に必要な知識を理解し、安全・安楽・正確な与薬の技術を習得できる。 2. 与薬における患者の安全確保の知識・技術、看護師の抗がん剤曝露防止の知識が理解できる。			
授業計画	時間	学習内容		形態
	1・2	与薬の基礎知識		講義
	3・4	経口・口腔内・吸入・点眼の援助の基礎知識と実際		講義
	5・6	点鼻・経皮的・直腸内与薬の援助の基礎知識と実際		講義
	7・8	経口・口腔内・点眼の与薬演習		演習
	9・10	経皮的・直腸内の与薬演習		演習
	11・12	注射の基礎知識 皮下注射、筋肉注射の援助の基礎知識と実際		講義
	13・14	静脈内注射、点滴静脈内注射の援助の基礎知識と実際		講義
	15・16	輸血管理		講義
	17・18	薬剤等の管理、曝露予防対策 針刺し事故の防止と事故後の対処 患者誤認 カテーテル関連血流関連		講義
	19	演習オリエンテーション		講義
	20・21	皮下注射、筋肉注射の演習		演習
	22・23	静脈注射 点滴静脈内注射の演習		演習
	24・25	経管栄養法の基礎知識と援助の実際		講義
	26・27	経管栄養法の演習		演習
	28・29	経管栄養法の演習		演習
試 験	30	筆記試験		
評価方法	筆記試験 45 点 演習課題 55 点			
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学【3】基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ / 医学書院 根拠からわかる！実習で実践できる！基礎看護技術 vol.1 vol.2／			

※実務経験のある教員等による授業科目

北見医師会看護専門学校

分 野	専門分野			
科目名	49.地域・在宅看護論概論Ⅰ			
時期・単位	学年（開講時期）	1 年（前期）	単位（時間数）	1（15）
講師名	秋山 聡美			
授業概要	看護の対象について日々暮らしを営んでいる生活者として理解し、暮らしと健康の関係について学ぶ。 人々の暮らしを多角的・学問的に理解し、そのうえで地域・在宅看護の意味、地域在宅看護が重視される社会的背景、地域在宅看護とはどんなことか、役割を理解する。			
到達目標	1. 暮らしと健康の関係について理解できる。 2. 地域の特性について整理し、「地域共生社会」「地域包括ケアシステム」の具体的イメージがもてる。 3. 看護の対象者の各ライフステージの特徴や多様性、さまざまな健康レベルにあることが理解できる。			
授業計画	時間	学習内容		形態
	1	序章：地域の中での暮らしと健康・看護		講義
	2	第1章：人々の暮らしと地域・在宅看護 A 人々の暮らしの理解、B 在宅看護の役割		講義
	3.4	演習）暮らしを理解する		講義
	5.6	第2章：暮らしの基盤としての地域の理解 A 暮らしと地域、B 暮らしと地域を理解するための考え方		講義
	7.8	C 地域包括ケアシステムと地域共生社会 演習）地域を理解するフィールドワーク		演習
	9	グループワーク、まとめ、発表		演習
	10	第3章：地域・在宅看護の対象 A 地域・在宅看護の対象者		講義
	11	B 家族の理解		講義
	12	C 地域に暮らす対象者の理解と看護		講義
	13.14	演習）家族を理解する		演習
	試 験	15	筆記試験	
評価方法	筆記試験 50 点＋演習レポート 50 点			
テキスト	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論〔1〕地域・在宅看護の基盤 / 医学書院			

※実務経験のある教員等による授業科目

北見医師会看護専門学校

分 野	専門分野			
科目名	50.地域・在宅看護論概論Ⅱ			
時期・単位	学年（開講時期）	2 年（前期）	単位（時間数）	1（15）
講師名	秋山 聡美			
授業概要	地域在宅看護が提供する「暮らしを支える看護」を具体的にイメージし、暮らしにおける環境の重要性や意味、様々な地域在宅看護実践の場があること、多職種連携の必要性について理解し、看護過程の展開方法についての概要を理解する。			
到達目標	1. 地域に暮らす人々とその家族の多様な健康ニーズ、各ライフステージにある人々の特徴、ライフステージに応じた看護の役割が理解できる。 2. 暮らしの中のリスク、災害対策について理解できる。			
授業計画	時間	学習内容		形態
	1.2	第 4 章：地域における暮らしを支える看護 A 暮らしを支える地域・在宅看護 B 暮らしの環境を整える看護グループワーク		講義+演習
	3.4	C 広がる看護の対象と提供方法 D 地域における家族への看護グループワーク		講義+演習
	5.6	E 地域におけるライフステージに応じた看護 グループワーク		講義+演習
	7.8	続き E 地域におけるライフステージに応じた看護グループワーク		講義+演習
	9.10	F 地域での暮らしにおけるリスクの理解 グループワーク		講義+演習
	11.12	G 地域での暮らしにおける災害対策、グループワーク		講義+演習
	13.14	地域在宅看護論概論Ⅱでの学びのグループ発表		講義+演習
	試 験	15	筆記試験	
評価方法	グループワーク 50%+筆記試験 50%			
テキスト	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論〔1〕地域・在宅看護の基盤 医学書院 ￥2,200			

※実務経験のある教員等による授業科目

北見医師会看護専門学校

分 野	専門分野			
科目名	51.地域・在宅看護論概論Ⅲ			
時期・単位	学年（開講時期）	2 年（期）	単位（時間数）	1（30）
講師名	小滝 由香・武田 富美子・阿部 久美子			
授業概要	地域包括ケアシステムの意義と概念、基盤となる法・制度・施策とともに、制度や法律が社会的背景の変化に伴い、改正されていることを理解する。地域在宅看護が提供する「暮らしを支える看護」を具体的にイメージし、暮らしにおける環境の重要性や意味、様々な地域在宅看護実践の場があること、多職種連携の必要性について理解し、看護過程の展開方法についての概要を理解する。			
到達目標	1. 地域に暮らす人々とその家族の多様な健康ニーズ、各ライフステージにある人々の特徴、ライフステージに応じた看護の役割が理解できる。 2. 暮らしの中のリスク、災害対策、地域在宅看護の実践の場と連携について理解できる。 3. 地域・在宅看護過程の特徴、各段階におけるポイントが理解できる。			
授業計画	時間	学習内容		形態
	1.2	地域在宅看護の基盤；第5章：地域在宅看護実践の場と連携 A 様々な場、様々な職種で支える地域での暮らし B おもな地域在宅看護実践の場		講義
	3.4	1 住まいで提供される看護、2 通所サービス、3 短期入所サービス 4 通所・短期入所・訪問看護の組み合わせ、5.施設サービス		講義
	5.6	6. 医療機関で提供される看護①外来患者の看護、②入院患者、③療養の場の移行期、7.地域の中で提供される看護		講義
	7.8	C 地域・在宅看護における多職種連携 グループワーク：多職種との連携・協働を考える		講義
	9.10	第6章：地域在宅看護にかかわる制度とその活用 A 介護保険・医療保険制度、B 地域・在宅看護の医療提供体制		講義
	11.12	C 訪問看護の制度、D 地域保健にかかわる法制度 E 高齢者に関する法制度		講義
	13-14	F 障害者・難病に関する法制度 G 公費負担医療に関する法制度 H 権利保障に関連する制度 国家試験対策		講義
	15	↓		講義
	16.17	地域・在宅看護の実践 序章 A 療養者と家族の想いから始まる看護 B 様々な人たちが力を合わせる C 長期的なかかわりが必要になる		講義
	18.19	グループワーク		講義
	20.21	第1章：地域・在宅看護の展開 A 地域・在宅看護における看護過程 1 看護過程とその意義、2 地域在宅看護における看護過程の基本		講義
	22.23	3 地域・在宅看護における看護過程の展開		講義
	24.25	B 地域・在宅看護過程の展開方法 1 地域・在宅看護過程の特徴 2 情報収集とアセスメント		講義
	26.27	3 地域・在宅看護過程における看護目標の設定・計画、4 実施と評価、5 看護を発展させる視点、6 地域在宅の標準化にむけた取り組み		講義
	28.29	まとめ		講義
試 験	30	筆記試験		
評価方法	筆記試験			
テキスト	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論〔1〕 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学【2】	基礎看護技術Ⅰ / 医学書院		

北見医師会看護専門学校						
分 野	専門分野					
科目名	52.地域・在宅看護論援助論Ⅰ					
時期・単位	学年（開講時期）	2 年（後期）		単位（時間数）	1（30）	
講師名	名達 丈浩 ・ 佐藤 真由美					
授業概要	「暮らしの場」で看護を行う前に押さえておくべき心構え、対象者やその家族との対話・コミュニケーションから始まり、対象者の希望する暮らしを支えるさまざまな地域・在宅看護に必要な看護技術、安全対策、事故防止の知識などを学ぶ。					
到達目標	1. 「暮らしの場」で看護を行う前に押さえておくべき心構え、対象者やその家族との対話・コミュニケーションについて理解できる。 2. 「暮らしの場」で看護を行うために必要な安全対策・事故防止・看護技術について理解できる。					
授業計画	時間	学習内容				形態
	1.2	地域・在宅看護の実践 第2章暮らしを支える看護技術 A 暮らしの場で看護をするための心構え				講義
	3.4	B セルフケアを支える対話・コミュニケーション C 地域・在宅看護における家族を支える看護				講義
	5.6.7	D 地域・在宅看護における安全を守る看護 1 暮らしを取り巻くリスクと安全対策、2 リスクマネジメント、3 看護師への暴力ハラスメント				講義
	8.9	E 地域における暮らしを支える看護実践 1 療養環境調整				講義
	10.11	2 活動・休息				講義
	12.13	3 食生活・嚥下 経口摂取				講義
	14.15	経管栄養・在宅中心静脈栄養法（HPN）				講義
	16.17	4 排泄				講義
	18.19					講義
	20.21	5 清潔・衣生活				講義
	22.23	6 苦痛緩和・安楽確保 7 呼吸・循環				講義
	24.25	呼吸・循環における医療管理レベルの高い療養者への援助				講義
	26.27	8 創傷管理				講義
	28.29	9 与薬				講義
						講義
						講義
試 験	30	筆記試験				
評価方法	筆記試験					
テキスト	系統看護学講座 系統看護学講座	専門分野 専門分野	地域・在宅看護論〔1〕 地域・在宅看護論〔2〕	地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護の実践	／ ／	医学書院 医学書院

北見医師会看護専門学校

分 野	専門分野			
科目名	53.地域・在宅看護論援助論Ⅱ			
時期・単位	学年（開講時期）	2 年（期）	単位（時間数）	1（30）
講師名	小山田 理恵・鹿又亜由紀・小川希美・澁谷 順子			
授業概要	外来受診、入院、退院、在宅療養、終末期までのさまざまな時期の地域・在宅看護を学ぶ。			
到達目標	1. 外来受診、入院、退院、在宅療養、終末期までの様々な時期の地域・在宅看護について理解できる。 2. 地域・在宅看護がロングタームケアであることを理解できる。 3. グループワークで事例展開をすることにより、具体的にポイントが理解できる。			
授業計画	時間	学習内容		形態
	1・2	基礎看護学技術Ⅰ 第6章：学習支援 A 看護における学習支援 B 健康に生きることを支える学習支援 C 健康状態の変化に伴う学習支援		講義
	3.4	D 学習支援の実際 受持ち患者の学習支援についてのプレゼン①		演習
	5.6	受持ち患者の学習支援についてのプレゼン② 個人・家族・集団への学習支援について		演習
	7.8	地域在宅看護の実践 第3章：地域・在宅における時期別の看護 A 健康な時期の看護、B 外来受診期における看護、C 入院時の看護		講義
	9.10	D 在宅療養準備期（退院前）の看護、E 在宅療養移行期の看護 F 在宅療養安定期、G 急性増悪期、H 終末期、I 在宅療養終了期		講義
	11.12	第4章：地域・在宅看護の事例展開 A 事例を学ぶにあたって		講義
	13.14	B 医療的ケア児		講義 演習
	15.16	C 脳卒中療養者		講義 演習
	17.18	D 慢性閉塞性肺疾患		講義 演習
	19.20	E 筋委縮性側索硬化症		講義 演習
	21.22	F パーキンソン病		講義 演習
	23.24	G 統合失調症		講義 演習
	25.26	H 認知症		講義 演習
	27.28	I がん終末期		講義 演習
	29	まとめ		講義 演習
試 験	30	筆記試験		
評価方法	小山田 20 点（レポート 10 点＋筆記 10 点）＋澁谷 65 点＋田中 15 点			
テキスト	系統看護学講座 系統看護学講座 系統看護学講座	専門分野 専門分野 専門分野	基礎看護学〔2〕 地域・在宅看護論〔1〕 地域・在宅看護論〔2〕	基礎看護技術Ⅰ 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護の実践 医学書院 ￥2,700 医学書院 ￥2,200 医学書院 ￥2,750

北見医師会看護専門学校

分 野	専門分野			
科目名	54.地域・在宅看護論援助論Ⅲ			
時期・単位	学年（開講時期）	3 年（期）	単位（時間数）	1（15）
講師名	小山田理恵・今野夏子・オホーツク総合振興局 環境保健部北見地域保健室・関建久・平林美奈子・小坂亜樹			
授業概要	地域・在宅看護実践において、どのような多職種連携・協働があるのか、その中で看護師が果たす役割、多職種で関わる意義、地域・在宅看護マネジメントとは何かを学ぶ。また地域で新たな看護活動を創造する意義や方法を理解する。			
到達目標	1. 地域・在宅看護実践において、どのような多職種連携・協働があるのかが理解できる。 2. 地域・在宅看護実践における多職種連携・協働で看護師が果たす役割、多職種で関わる意義が理解できる。 3. 地域・在宅看護マネジメントとはどのようなものが理解できる。 4. 地域で新たな看護活動を創造する意義や方法が理解できる。			
授業計画	時間	学習内容		形態
	1	第5章：地域共生社会における多職種連携・多職種チームでの協働 A 地域・在宅看護における多職種連携・多職種チームでの協働		講義
	2	保健所の機能と役割、北見市の特徴		講義
	3	保健センターの機能と役割、北見市の特徴		講義
	4	地域包括支援センターの機能と役割、北見市の特徴		講義
	5	居宅介護支援事業所の機能と役割、北見市の特徴		講義
	6	社会福祉協議会の役割と機能、北見市の特徴		講義
	7	B 医療・福祉・介護関係者との連携・協働		講義
	8	C 医療・福祉・介護関係者以外との連携・協働 D 地域共生社会を実現するために		講義
	9	第6章：地域・在宅看護マネジメント A 地域・在宅看護マネジメントとは		講義
	10	B 多様な場における地域・在宅看護マネジメント 1 病棟で行う地域・在宅看護マネジメントー退院支援		講義
	11	2 外来における地域・在宅看護マネジメント		講義
	12	3 介護保険制度上の地域・在宅看護マネジメント 4 地域住民とともに行う地域・在宅看護マネジメント		講義
	13.14	第7章：地域・在宅看護活動の創造と展開例 北見市の事例		講義
試 験	15	筆記試験		
評価方法	筆記試験 100 点			
テキスト	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論〔2〕地域・在宅看護の実践 / 医学書院			

北見医師会看護専門学校

分 野	専門分野			
科目名	55.地域・在宅看護論援助論Ⅳ			
時期・単位	学年（開講時期）	3 年（前期）	単位（時間数）	1（15）
講師名	小山田 理恵			
授業概要	在宅看護過程の考え方・対象の捉え方・すすめ方を学び、事例を通して在宅看護の特徴をふまえた看護過程を進める。			
到達目標	1. 在宅看護過程を活用し、療養者・家族の思いや望みを達成するための看護について理解できる。			
授業計画	時間	学習内容		形態
	1	在宅看護過程の考え方		講義
	2	在宅看護の対象のとりえ方		講義
	3	在宅看護過程の進め方		講義
	4	事例展開		講義
	5.6	病理的状态の考え方		演習
	7.8	常在条件の考え方		演習
	9.10	基本的欲求のアセスメント		演習
	11.12	全体像		演習
	13.14	看護上の問題の明確化、看護計画立案		演習
	15	グループ学習発表・振り返り・まとめ		演習
評価方法	提出物 100 点			
テキスト	系統看護学講座 系統看護学講座	専門分野 専門分野	地域・在宅看護論〔1〕 地域・在宅看護論〔2〕	地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護の実践 ／ ／ 医学書院 医学書院

※実務経験のある教員等による授業科目

北見医師会看護専門学校

分 野	専門分野			
科目名	56.成人看護学概論			
時期・単位	学年（開講時期）	1 年（期）	単位（時間数）	1（30）
講師名	加藤 あずさ			
授業概要	成人期の成長発達の特徴や健康問題について理解する。対象の援助に必要な概念・理論について学習し、成人期にある人々を統合的に理解できる基礎的能力を養う。			
到達目標	1. 成人看護の概念とその対象について統合的に理解できる。 2. 成人期にある対象を取り巻く環境と保健医療福祉政策について理解できる。 3. 成人期にある対象の健康と健康課題を学び、さまざまな健康状態に応じた看護の役割を理解する。 4. 経過別看護の概要が理解できる。			
授業計画	時間	学習内容		形態
	1.2	1.成人と生活 1)対象の理解:生涯発達、各発達段階の特徴 2)対象の生活		講義
	3.4	2.生活と健康 1)成人を取り巻く環境 2)生活と健康をまもりはぐくむシステム		講義
	5.6	2-3)成人の生活と健康についてグループワーク ※青年期・壮年期・向老期の特徴・発達課題・生活・健康		GW
	7.8	3 成人への看護アプローチの基本 1)生活のなかで健康行動を生み,はぐくむ援助 2)症状マネジメント 3)健康問題をもつ大人と看護師の人間関係 4)集団における調和や変化を促す看護アプローチ		講義
	9.10	3-5)チームアプローチ 6)看護におけるマネジメント 7)看護実践における倫理的判断 8)意思決定支援 9)家族支援		講義
	11.12	4.ヘルスプロモーションと看護 5.健康をおびやかす要因と看護 6.経過別看護：健康状態の経過に基づく看護 1)健康状態と看護 2)健康の維持・増進を目指す時期の看護		講義
	13.14	7.経過別看護/各期の特徴と看護について演習 1)グループワーク 1 回目		GW
	15.16	2)グループワーク 2 回目		GW
	17.18	3)発表 1 回目		GW
	19.20	4)発表 2 回目		GW
	21.22	8.健康生活の急激な破綻とその回復を支援する看護 ―急性期― 1)健康の急激な破綻 2)急性期にある人への看護		講義
	23.24	9.慢性病とともに生きる人を支える看護 ―慢性期― 1)慢性病とともに生きる人を理解する 2)慢性期にある人への看護		講義
	25.26	10.障害がある人の生活とリハビリテーション ―リハビリテーション期― 1)リハビリテーション期にある人への看護		講義
	27.28	11.人生の最期のときを支える看護 ―終末期― 1)人生の最期のときにおける医療の現状 2)終末期にある人への看護		講義
	29	12.さまざまな健康レベルにある人の継続的な移行支援 13.新たな治療法・先端医療と看護		講義
試 験	30	筆記試験		
評価方法	筆記試験 90 点 グループワーク（経過別看護）10 点			
テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔1〕 成人看護学総論 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔4〕 臨床看護総論	医学書院 医学書院	¥2,530 ¥2,750	

※実務経験のある教員等による授業科目

北見医師会看護専門学校

分 野	専門分野			
科目名	57.がん看護・緩和ケア			
時期・単位	学年（開講時期）	2 年（期）	単位（時間数）	1（30）
講師名	吉田 千治・國井 みすず・須藤 祐子・加藤 あずさ			
授業概要	がん看護と緩和ケアに関する基礎的知識を身につける。また、慢性期にあるがん患者と家族、終末期にある対象と家族を理解し、看護展開を学ぶ。			
到達目標	1. がんに関する基本的知識と必要な看護援助について理解できる。 2. 慢性期にあるがん患者と家族について理解し、看護を展開できる。 3. 終末期にある対象と家族を理解し、必要な看護援助を考えることができる。 4. 緩和ケアに関する基礎的知識と緩和ケアを受ける対象を理解できる。 5. 看取りの援助を実施し、看護の役割を理解できる。			
授業計画	時間	学習内容		形態
	1.2	1.がん看護 1)がん医療の現状と看護 2)がんの病態と診断		講義
	3.4	3)がんの治療		講義
	5	4)がん患者の看護		講義
	6.7	5)がん治療に対する看護		講義
	8	2.慢性期における看護 1)慢性期の特徴 2)慢性期の患者のニーズ 3)慢性期の看護援助		講義
	9.10	4)がん患者の苦痛のマネジメント (1)事例による苦痛マネジメントの実際①		講義 GW
	11.12	(2)事例による苦痛マネジメントの実際②		GW
	13.14	3.終末期における看護 1)終末期 2)終末期の患者のニーズ 3)終末期の看護援助		講義
	15.16	4.緩和ケア 1) 緩和ケアの現状と展望 2) チームアプローチ 3)コミュニケーション 4)緩和ケアにおける倫理的課題		講義
	17.18	5)全人的ケアの実際 (1)身体的ケア (2)心理的ケア		講義
	19.20	(3)社会的ケア (4)スピリチュアルケア		演習
	21.22	6)緩和ケアの広がり		講義
	23.24	7)臨死期のケア (1)概念と目標 (2)苦痛の緩和 (3)死亡前後のケア (4)エンゼルケアとエンゼルメイクの方法		講義
	25.26	7)-(5)看取りのケア演習 ①エンゼルケアの実際 ②エンゼルメイクの実施		演習
	27.28	8)家族のケア		講義
	29	9)医療スタッフのケア 10)緩和ケアに関する教育		講義
試 験	30	筆記試験		
評価方法	筆記：80 点（がん看護 20 点、慢性期 20 点、緩和ケア 30 点、死の看取り 20 点）演習：加藤 10 点			
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔4〕臨床看護総論／医学書院 系統看護学講座 別巻 がん看護学／医学書院 系統看護学講座 別巻 緩和ケア／医学書院			

北見医師会看護専門学校

分 野	専門分野			
科目名	58.急性期看護			
時期・単位	学年（開講時期）	2 年（期）	単位（時間数）	1（30）
講師名	轟 竜也・目黒 舞子・向井 宏美・合佐毘 綾子			
授業概要	大腸がんの患者の特徴とその看護について学び、看護過程を展開できる基礎的能力を養う。また、救急看護、周手術期の看護について学ぶ。			
到達目標	1. 救急看護、周手術期看護の特徴を理解することができる。 2. 大腸がんの患者の特徴と看護を理解することができる。 3. 大腸がんの術後患者の看護過程を展開することができる。 4. ストーマケアの基本的な技術を習得することができる。			
授業計画	時間	学習内容		形態
	1・2	急性期にある患者と家族の特徴：身体的・心理的・社会的特徴		講義
	3・4	急性期における看護の基本：危機的状態への支援、治療の緊急度と優先度、治療選択・意思決定への支援		講義
	5・6	緊急度と重症度のアセスメント：意識レベル、神経学的所見、全身状態、バイタルサイン 救急看護・クリティカルケアの基本		講義
	7・8	術前の看護：手術療法の理解を促す援助、手術の意思決定への支援、術後合併症のリスクアセスメントと援助		講義
	9・10	術前の看護：術前オリエンテーション、不安のアセスメントと援助、ボディイメージの変容への援助		講義
	11・12	術中の看護：手術方法による影響と援助、手術体位による影響と援助、		講義
	13・14	術中の看護：麻酔による影響と援助、安全管理		講義
	15・16	術後の看護：侵襲に対する生体反応、術後の鎮痛・鎮静管理、創傷管理・処置、ドレーン管理・処置、		講義
	17・18	術後合併症と予防：術後出血、深部静脈血栓症、肺血栓塞栓症、呼吸器合併症、感染症、廃用症候群、消化器合併症		講義
	19・20	術後の機能障害や生活制限への看護：ボディイメージの受容への支援、退院調整、機能訓練、セルフケア能力の獲得		講義
	21・22	周手術期の看護過程の展開 壮年期の人工肛門造設術を受ける患者 ①病理的状態の理解について		講義
	23・24	周手術期の看護過程の展開 壮年期の人工肛門造設術を受ける患者 ②アセスメント		講義
	25・26	周手術期の看護過程の展開 壮年期の人工肛門造設術を受ける患者 ③リストアップ		講義
27・28	周手術期の看護過程の展開 壮年期の人工肛門造設術を受ける患者 ④看護計画立案		講義	
29	周手術期の看護過程の展開 壮年期の人工肛門造設術を受ける患者 ⑤まとめ		講義	
試 験	30	筆記試験		
評価方法	救急 20 点 周手術期 20 点 急性期 20 点(疾患 10・ストマ 10) 看護過程 40 点			
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ基礎看護学【4】臨床看護総論／医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論／医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科各論／医学書院 系統看護学講座 別巻 救急看護学／医学書院 系統看護学講座 別巻 クリティカルケア看護／医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学総論／医学書院			

北見医師会看護専門学校

分 野	専門分野			
科目名	59.疾患別看護Ⅰ			
時期・単位	学年（開講時期）	1 年（後期）	単位（時間数）	1（30）
講師名	秋山 聡美・合佐毘 綾子・村上 毅・窪之内 麻未・三島 愛			
授業概要	心身機能・構造になんらかの障害を有し、日々の生活や社会生活に支障をきたした人とその家族が、障害を抱えながらもその人らしい生活を再構築していく過程を支援する看護や脳神経機能障害・感覚機能障害の疾患看護を学習する			
到達目標	1.リハビリテーション看護の基本的な知識が理解できる 2.脳神経機能障害・感覚機能障害をもつ患者の特徴と生活への影響を理解する 3. 脳神経機能障害・感覚機能障害をもつ患者の看護を理解する			
授業計画	時間	学習内容		形態
	1.2	リハビリテーション看護	1.リハビリテーションの定義と理念 疾病・障害・生活機能の分類	講義 演習
	3.4		2.リハビリテーション看護の定義と専門化 リハビリテーション看護の対象・方法	講義 演習
	5.6		3.多職種との連携	講義 演習
	7.8		1.事例から疾患の学習の仕方を学ぶ、事例から病期を分け、病期によって看護内容の違いがあることを理解する	講義 演習
	9.10		2. 全体像の記載	講義 演習
	11.12		3.. 関連図の記載	講義 演習
	13.14		4.グループワーク	講義 演習
	15.16	脳神経系	脳神経機能障害のある患者の特徴と生活への影響 症状と看護	講義
	17.18		検査を受ける患者の看護	講義
	19.20		治療とその看護	講義
	21.22		その他	講義
	23.24	視覚	中途視覚障害のある患者の看護 症状と看護、治療と看護	講義
	25.26	耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科疾患を持つ患者の看護 症状と看護	講義
	27.28		検査、治療と看護	講義
	29		歯・口腔疾患を持つ患者の看護	講義
試 験	30	筆記試験		
評価方法	秋山：30 点 合佐毘：15 点 村上：30 点 窪之内：10 点 三島：15 点			
テキスト	系統看護学講座専門 系統看護学講座専門 系統看護学講座専門 系統看護学講座専門	専門分野 専門分野 専門分野 専門分野	成人看護学【7】 成人看護学【13】 成人看護学【14】 成人看護学【15】	脳神経／ 眼科／ 耳鼻咽喉／ 歯・口腔／ 医学書院 医学書院 医学書院 医学書院

北見医師会看護専門学校

分 野	専門分野			
科目名	60.疾患別看護Ⅱ			
時期・単位	学年（開講時期）	2 年（期）	単位（時間数）	1（30）
講師名	安達 恵美・赤川 舞子・長野 彩香・佐渡 絵梨香			
授業概要	消化機能、血液・造血器、内分泌代謝、アレルギー・膠原病・感染症の疾患看護を学習する。			
到達目標	1. 消化機能、血液・造血器、内分泌・代謝障害、アレルギー・膠原病・感染症をもつ患者の特徴と生活への影響を理解する。 2. 消化器、血液・造血器、内分泌・代謝障害、アレルギー・膠原病・感染症をもつ患者の看護を理解する。			
授業計画	時間	学習内容		形態
	1・2	1.消化・吸収機能障害のある患者の特徴と生活への影響 1)原因と障害の程度のアセスメントと看護 (1)消化管機能障害 (3)生命・生活への影響		講義
	3・4	2.消化・吸収機能障害のある患者への看護 1)胃・十二指腸潰瘍患者の看護 (1)症状とその看護 (2)検査・処置・治療を受ける患者の看護 ①消化管内視鏡検査 ②中心静脈栄養法 ③食生活の再調整への援助		講義
	5・6	2)肝炎・肝硬変・肝がん患者の看護 (1)症状とその看護 ①胆汁分泌障害 ②肝性脳症 ③食道静脈瘤 ④浮腫・腹水 ⑤倦怠感 ⑥黄疸 ⑦出血傾向		講義
	7・8	(2)検査・治療を受ける患者の看護 ①肝生検 ②肝庇護療法 ③インターフェロン ④食道静脈硬化療法 ⑤肝動脈塞栓術 ⑥胆道・胆嚢ドレナージ ⑦肝切除術		講義
	9・10	3)膵炎患者の看護 (1)症状とその看護 ①膵液分泌障害 (2)検査・治療を受ける患者の看護 ①内視鏡的逆行性胆管膵管造影 3.その他：潰瘍性大腸炎・クローン病患者の生活指導		講義
	11・12	4.血液疾患のある患者の看護 1)患者の特徴と看護の役割 (1)貧血患者 (2)造血器腫瘍患者 (3)家族への支援		講義
	12・14	2)血液疾患患者の看護 1)経過別看護 3)症状看護 (1)貧血 (2)出血 (3)白血球減少 4)検査時の看護		講義
	15・16	5)造血器腫瘍患者の看護 (1)悪性リンパ腫 (2)白血病 6)血友病患者の看護		講義
	17・18	5.内分泌機能障害のある患者の看護 1)内分泌・代謝・血糖調節機能障害のある患者の特徴と生活への影響		講義
	19・20	2)1 型・2 型糖尿病のある患者の看護 (1)身体・心理・社会的特徴 (2)検査：①血糖自己測定（SMBG）②糖負荷試験（OGTT） (3)治療：①インスリン補充療法 ②糖尿病経口薬 ③食事・運動療法		講義
	21・22	3)甲状腺機能障害のある患者の看護 (1)甲状腺疾患と症状 (2)検査：①ホルモンの血中・尿中濃度測定 ②ホルモン負荷試験 (3)治療：①甲状腺ホルモン療法 ②甲状腺切除術		講義
	23・24	4)副腎機能障害のある患者の看護 (1)症状と検査・治療 5)下垂体機能障害のある患者の看護 (1)症状と検査・治療		講義
	25・26	6.免疫機能障害のある患者の看護 1)アレルギー疾患の経過と看護 ①症状 ②検査：皮膚テスト ③治療：アレルギー免疫療法		講義
	27・28	2)膠原病をもつ患者の経過と看護 ①症状に対する看護 ②薬物療法		講義
	29	③治療時の看護 ①免疫抑制剤 ②副腎皮質ステロイド療法		講義
試 験	30	筆記試験		
評価方法	筆記試験（消化器 35 点・血液、造血器 20 点・内分泌、代謝 25 点・アレルギー、膠原病 20 点）			
テキスト	系統別看護学講座専門 系統別看護学講座専門 系統別看護学講座専門 系統別看護学講座専門	専門分野 専門分野 専門分野 専門分野	成人看護学【4】血液・造血器 成人看護学【5】消化器 成人看護学【6】内分泌・代謝 成人看護学【11】アレルギー・膠原病・感染症	／ 医学書院 ／ 医学書院 ／ 医学書院 ／ 医学書院

北見医師会看護専門学校

分 野	専門分野			
科目名	61.疾患別看護Ⅲ			
時期・単位	学年（開講時期）	2 年（期）	単位（時間数）	1（30）
講師名	金津 奈央・宮田 理香・安藤 ひとみ・安藤 恵美			
授業概要	循環機能障害・呼吸機能障害・腎機能障害、性・生殖器の疾患看護を学習する。			
到達目標	1．循環器障害、呼吸機能障害、腎機能障害をもつ患者の特徴と生活への影響を理解する。 2．循環器障害、呼吸機能障害、腎機能障害をもつ患者の看護を理解する。			
授業計画	時間	学習内容		形態
	1・2	循環機能障害のある患者の看護① ～医療の動向・患者の特徴と看護の役割、疾患をもつ患者の経過と看護～		講義
	3・4	循環機能障害のある患者の看護② ～検査を受ける患者の看護、治療を受ける患者の看護～		講義
	5・6	循環機能障害のある患者の看護③ ～虚血性心疾患患者の看護、～		講義
	7・8	循環機能障害のある患者の看護④ ～心不全患者の看護～		講義
	9・10	循環機能障害のある患者の看護⑤ ～不整脈、弁膜症、心筋症、動脈系疾患静脈系疾患～		講義
	11・12	呼吸機能障害のある患者の看護① ～呼吸器疾患をもつ患者の特徴と生活への影響～		講義
	13・14	呼吸機能障害のある患者の看護② ～呼吸器感染症（肺炎、気管支炎、胸膜炎、肺結核、膿胸）～		講義
	15・16	呼吸機能障害のある患者の看護③ ～慢性閉塞性疾患（COPD）、肺気腫の症状と検査・治療時の看護～		講義
	17・18	呼吸機能障害のある患者の看護④ ～肺がん患者の経過・症状と検査・治療時の看護～		講義
	1 9	呼吸機能障害のある患者の看護⑤ ～気管支喘息、気胸～		講義
	20・21	内部環境調整機能障害のある患者への看護① ～慢性腎不全～		講義
	22・23	内部環境調整機能障害のある患者への看護② ～透析療法を受ける患者への看護～		講義
	2 4	内部環境調整機能障害のある患者への看護③ ～腎移植前後の看護～		講義
	25・26	排尿機能障害のある患者への看護① ～前立腺肥大、前立腺癌～		講義
	27・28	排尿機能障害のある患者への看護② ～膀胱癌～		講義
	2 9	排尿機能障害のある患者への看護③～尿路感染、腎結石～ 性・生殖機能（男性）障害のある患者への看護		講義
試 験	3 0	筆記試験		講義
評価方法	筆記試験（循環器 35 点・呼吸器 35 点・腎機能 15 点・排泄、生殖機能 15 点）			
テキスト	系統別看護学講座専門 系統別看護学講座専門 系統別看護学講座専門	専門分野 専門分野 専門分野	成人看護学【3】 成人看護学【2】 成人看護学【8】	循環器／医学書院 呼吸器／医学書院 腎・泌尿器／医学書院

北見医師会看護専門学校

分 野	専門分野			
科目名	62.老年看護学概論			
時期・単位	学年（開講時期）	1 年（期）	単位（時間数）	1（30）
講師名	狩野 智子			
授業概要	高齢者の身体的、精神的、社会的特徴や健康問題について理解する。高齢者をとりまく文化・社会背景を学び、保健医療福祉の現状と課題について理解する。			
到達目標	1.高齢者の加齢に伴う変化と健康について理解する。 2.高齢者をとりまく環境と保健医療福祉の現状を理解する。 3.老年看護の位置づけと役割を理解する。			
授業計画	時間	学習内容		形態
	1・2	老年期の発達と変化（ライフサイクルからみた高齢者の特徴・加齢と老化・老年期の発達課題）		講義 GW
	3・4	加齢への適応（高齢者にとっての健康と自立・サクセスフルエイジング・ノーマライゼーション・スピリチュアリティ）		講義
	5・6	高齢者のいる家族の理解（家族構成とニーズの変化・高齢者のいる家族の発達課題・家族の機能の変化）		講義
	7・8	高齢者の機能と評価 その人らしい生活の継続（高齢者の多様性・高齢者のくらし）		講義
	9・10	高齢者の健康と疾病（健康の特徴・疾病の特徴）		講義
	11・12	老年期における身体機能の変化と生活への影響（高齢者モデルスーツを使用しての、高齢者体験）		演習 GW
	13・14	老年期における身体機能の変化と生活への影響		講義
	15・16	老年期における身体機能の変化と生活への影響		講義
	17・18	老年期における認知機能・心理・社会的変化と健康への影響 老年看護に用いられる概念・モデル・理論		講義
	19・20	老年看護の倫理（高齢者差別・高齢者虐待・高齢者の権利擁護・安全確保と身体拘束）		講義
	21・22	高齢者の生活を支える制度と施策（介護保険制度・成年後見制度）		講義
	23・24	高齢者の生活を支える制度と施策（日常生活自立支援事業・地域包括ケアシステム）		講義
	25・26	老年看護の特徴（死のプロセスを整える・多職種連携）		講義
	27・28	老年看護の特徴（退院支援）・高齢者の特徴を踏まえたパンフレット作成		講義 演習
	29	高齢者の特徴を踏まえたパンフレット作成		演習
試 験	30	筆記試験		
評価方法	筆記試験 100 点			
テキスト	系統看護学講座 専門分野 老年看護学 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 公衆衛生がみえる 2022-2023 ／ 医学書院 ／ 医学書院 ／ メディックメディア			

※実務経験のある教員等による授業科目

北見医師会看護専門学校

分 野	専門分野			
科目名	63.老年看護学援助論Ⅰ			
時期・単位	学年（開講時期）	1 年（後期）	単位（時間数）	1（30）
講師名	澁谷 順子・脇本 奈緒子・狩野 智子			
授業概要	高齢者の基本的活動、食生活、排泄、清潔、生活リズム、コミュニケーション等の特徴を学び、QOLを高めるために必要な看護について理解する			
到達目標	1. 高齢者の加齢に伴う生活機能の変化が理解できる 2. 高齢者の生活機能を整える看護が理解できる			
授業計画	時間	学習内容		形態
	1・2	（１）コミュニケーション ・高齢者とのコミュニケーションの方法		講義
	3・4	（２）歩行・移動・転倒 ・歩行・移動動作のアセスメントと援助、・高齢者への安全な体位変換・移動・移乗の援助		講義
	5・6	・車椅子、杖歩行、歩行器使用時の援助方法 ・安全な療養環境の整備（転倒・転落・外傷予防）		講義
	7・8	実技試験（１）体位変換・ポジショニング （２）移乗・移送・ベッド⇄車いす （３）車いす移動		演習
	9・10			実技試験
	11・12	（３）食生活・低栄養 ・高齢者の食べることの意義・食生活の状況と特徴を踏まえた援助（嚥下能力、嗜好性、環境）（摂食・嚥下障害）		講義
	13・14	（４）排泄 ・高齢者の排泄行動自立の意義、・排泄のアセスメントと排泄能力に応じた援助		講義
	15	・便秘、下痢、尿失禁の看護		講義
	16・17	（５）清潔・衣生活 ・高齢者が身嗜みを整える意義・清潔、更衣動作のアセスメント・入浴行動に伴う危険性、負担を踏まえた清潔・衣生活への援助・入浴時の転倒リスクを踏まえた援助（GW）		講義 GW
	18・19	（６）活動と睡眠・生活リズムの調整・電法の種類、電法が体へ及ぼす影響高齢者への温電法、冷電法への援助		講義演習
	20・21	（７）性・社会参加・セクシャリティへの援助・生きがいもてる身近な場所への参加		講義 GW
	22・23	（１）健康の維持・増進の状況（２）高齢者の保健行動の特徴 （３）介護予防		講義
	24・25	（１）褥瘡のある患者の看護技術 ・褥瘡管理の基礎知識		講義
	26・27	脳梗塞患者の事例による演習 ・褥瘡管理の基礎知識 ・褥瘡の観察、計画 ・処置		講義演習
28・29	演習			
試 験	30	筆記試験		
評価方法	狩野：50点 脇本：20点 澁谷：30点			
テキスト	系統看護学講座 専門分野 老年看護学 ／ 医学書院 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 ／ 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学【3】基礎看護学技術Ⅱ ／ 医学書院			

北見医師会看護専門学校

分 野	専門分野			
科目名	64.老年看護学援助論Ⅱ			
時期・単位	学年（開講時期）	2 年（期）	単位（時間数）	1（30）
講師名	秋元 知世・井上 幸美・小野寺 和江・狩野 智子			
授業概要	高齢者に特徴的な症状と看護、特徴的な疾患と看護について理解する			
到達目標	1. 高齢者の健康障害の特徴が理解できる 2. 高齢者の健康障害が高齢者や家族の日常生活やＱＯＬに及ぼす影響を理解できる 3. 高齢者の健康障害の特徴をふまえた日常生活援助の方法が理解できる			
授業計画	時間	学習内容		形態
	1・2	（１）廃用症候群 ・高齢者の廃用症候群の背景と症状 ・廃用症候群の早期発見と予防の看護（２）脱水症・加齢による症状の成り立ちと臨床的特徴・アセスメントと看護の要点		講義
	3・4	（３）掻痒症・症状の成り立ちと臨床的特徴・老人性皮膚掻痒症がある高齢者の看護・疥癬に罹患した高齢者の看護（４）視覚・聴覚障害 ・特徴・アセスメントと看護の要点		講義
	5・6	（５）骨粗鬆症・高齢者の特徴と看護の要点（６）うつ・せん妄 ・加齢による特徴と看護の要点		講義
	7・8	（１）認知症 ・病態と治療・認知症へのＱＯＬをふまえた看護		講義
	9・10	（２）パーキンソン症候群・病態と治療 ・病態と治療・パーキンソン症候群のＱＯＬを踏まえた看護		講義
	11	（３）感染症 ・感染症の罹患予防と感染拡大防止		講義
	12・13	（４）大腿骨近位部（頸部・転子部）骨折 ・加齢による骨折の特徴と要因・治療を受ける患者の看護 （５）変形性関節症 ・加齢による影響・治療と症状への看護		講義
	14・15	（６）人工関節置換術を受ける患者の看護 ・関節可動域障害・筋力低下の原因と程度・症状と看護		講義
	16・17	（７）椎間板ヘルニア・症状とその看護：腰痛・検査・治療への看護（８）椎体骨折・症状、検査、治療への看護		講義
	18・19	（９）腰部脊柱管狭窄症患者の看護（10）ギランバレー症候群・症状・検査・治療を受ける患者の看護		講義
	20・21	（11）検査・治療を受ける患者の看護 （膝関節液検査、ギプス固定、牽引）		講義
	22・23	（12）脊髄損傷患者の看護 症状とその看護（病期別）		講義
	24・25	（13）皮膚疾患をもつ患者の看護 ・症状とその看護：皮膚粘膜障害（発赤・びらん・潰瘍）・検査・治療を受ける患者の看護 生検・ステロイド療法		講義
	26	（１）薬物療法を受ける高齢者の看護 （２）リハビリテーションを受ける高齢者の看護 （３）受療形態に応じた高齢者の看護		講義
	27・28 ・29	（４）右半身麻痺の１日体験レポート （５）車いす移送における患者、看護師役割の体験 （６）視覚障害者の歩行介助における患者、看護師役割の体験		演習
試 験	30	筆記試験		
評価方法	筆記試験 90 点（狩野：55 点、小野寺：5 点、井上：10 点青野 20 点） 課題レポート（狩野）10 点			
テキスト	系統看護学講座 専門分野 系統看護学講座 専門分野 系統別看護学講座 専門分野 系統別看護学講座 専門分野 系統別看護学講座 専門分野 系統別看護学講座 専門分野	老年看護学 老年看護 病態・疾患論 成人看護学【10】運動器 成人看護学【7】脳・神経 成人看護学【12】皮膚 成人看護学【13】眼科	／ ／ ／ ／ ／ ／	医学書院 医学書院 医学書院 医学書院 医学書院 医学書院

北見医師会看護専門学校

分 野	専門分野			
科目名	65.老年看護学援助論Ⅲ			
時期・単位	学年（開講時期）	2 年（後期）	単位（時間数）	1（15）
講師名	狩野 智子			
授業概要	事例を通して、高齢者の特徴をふまえた看護過程を展開する能力を養う。			
到達目標	1.健康障害のある高齢者を、生活機能の視点でアセスメントし看護過程を展開する方法を理解する。 2.退院を視野に入れ、家族への介入の必要性も考えられる。			
授業計画	時間	学習内容		形態
	1・2	紙上事例を用いての看護過程の展開 ・オリエンテーション（老年看護過程の考え方・アセスメントの視点） ・事例紹介 ・病理的状態の理解のアセスメント（個人ワーク）		講義 演習
	3・4	病理的状態の理解の振り返り		講義
	5・6	基本的欲求のアセスメント（個人ワーク） ・根拠に基づく充足・未充足の判断 ・未充足の原因・誘因の分析 ・アセスメントに基づく看護の方向性		演習
	7・8	看護問題の明確化（GW） ・対象を統合的に捉える。（関連図） ・優先されるべき問題を、根拠に基づき 2 つ挙げる。		演習
	9・10・ 11	看護計画立案（GW） ・長期目標、短期目標の設定 ・目標達成に向けた、具体的な援助の計画		演習
	12・13	看護過程の発表		演習
	14・15	看護過程の振り返り		講義
	試 験			
評価方法	課題レポート 100 点			
テキスト	系統看護学講座 専門分野 老年看護学 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 第4版 ヘンダーソンの基本的看護に関する看護問題リスト ／ 医学書院 ／ 医学書院 ／ ヌーヴェルヒロカワ ／ ヌーヴェルヒロカワ			

※実務経験のある教員等による授業科目

北見医師会看護専門学校

分 野	専門分野			
科目名	66.小児看護学概論			
時期・単位	学年（開講時	2 年（前期）	単位（時間数）	1（30）
講師名	松野 絢			
授業概要	新生児期から思春期までの身体的、精神的、社会的発達を段階的に学習し、小児期の成長・発達の特徴を理解する。また、小児が影響をうける環境を理解し、小児看護の課題や問題について学ぶ。			
到達目標	1. 小児看護の概念と対象である小児と家族について理解できる。 2. 小児とその家族を取り巻く環境を理解できる。			
授業計画	時 間	学習内容		形態
	1.2	1. 小児看護の特徴と理念		講義
	3.4	2. 子どもの成長・発達		講義
	5.6	3. 小児各期の特徴 （1）新生児期の特徴と看護		講義
	7.8	（2）乳児期の特徴と看護		講義
	9.10	（2）乳児期の特徴と看護		講義
	11.12	（3）幼児期の特徴と看護		講義
	13.14	（3）幼児期の特徴と看護		講義
	15.16	（4）学童期の特徴と看護		講義
	17.18	（4）学童期の特徴と看護		講義
	19.20	（5）思春期の特徴と看護		講義
	21.22	（5）思春期の特徴と看護		講義
	23.24	4. 子どもと家族を取り巻く社会 （1）家族の特徴とアセスメント		講義 GW
	25.26	（2）児童福祉、母子保健、医療費の支援～		講義 GW
	27.28	（2）予防接種、学校保健、食育、特別支援教育、臓器移植		講義 GW
29	（3）子どもの虐待と看護		講義	
試 験	30	筆記試験		
評価方法	筆記試験 100 点（松野 70 点・田中 30 点）			
テキスト	系統看護学講座 専門分野 小児看護学【1】小児看護学概論 小児臨床看護総論 / 医学書院 系統看護学講座 専門分野 小児看護学【2】小児臨床看護各論 / 医学書院 公衆衛生がみえる 2023 - 2024 / メディックメディア			

※実務経験のある教員等による授業科目

北見医師会看護専門学校

分 野	専門分野			
科目名	67.小児看護学援助論Ⅰ			
時期・単位	学年（開講時期）	2 年（前期）	単位（時間数）	1（15）
講師名	伊藤 善也・加藤 晶・安藤 明子・菅沼 隆			
授業概要	小児特有の疾患の病態生理、疾患や症状に対する診断・検査・治療について学ぶ。			
到達目標	1. 小児に特徴的な健康障害・疾患の特徴が理解できる。 2. 疾患が小児の成長・発達へ及ぼす影響についてわかる。			
授業計画	時間	学習内容		形態
	1.2	1. 小児の疾病・障害 (1) 成長・発達		講義
	3.4	(2) 染色体異常・胎内環境により発症する先天異常、新生児の疾患		講義
	5.6	(3) 呼吸器疾患 (4) 感染症 (5) 循環器疾患		講義
	7.8	(6) 消化器疾患 (7) 腎・泌尿器および生殖器疾患		講義
	9.10	(8) 内分泌代謝性疾患		講義
	11.12	(9) 免疫・アレルギー・リウマチ性疾患 (10)血液造血器疾患 (11) 悪性新生物疾患		講義
	13.14	(12) 神経疾患 (13) 運動器疾患 (14) 精神疾患 (15) 疾患理解のまとめ演習		講義
試 験	15	筆記試験		
評価方法	筆記試験 100 点（伊藤 30 点・加藤 30 点・安藤 10 点・菅沼 30 点）			
テキスト	系統看護学講座 専門分野 小児看護学【1】小児看護学概論 小児臨床看護総論 / 医学書院 系統看護学講座 専門分野 小児看護学【2】小児臨床看護各論 / 医学書院			

北見医師会看護専門学校

分 野	専門分野			
科目名	68.小児看護学援助論Ⅱ			
時期・単位	学年（開講時期）	2 年（期）	単位（時間数）	1（30）
講師名	佐々木 秀代・鹿又 亜由紀・小林 さつき・寺下 尚子・米田 朗子			
授業概要	小児の健康が小児及び家族に及ぼす影響をとらえ、様々な状況にある小児と家族の看護を症状・疾患別に分けて学習する。			
到達目標	1. 小児に特徴的な健康障害・疾患の特徴に応じた看護が理解できる。 2. 疾患が小児と家族に及ぼす影響をとらえた小児と家族への看護が理解できる。			
授業計画	時間	学習内容		形態
	1.2	1. 病気・障害、疾病の経過、状況(環境)に特徴づけられる看護 (1) (2) 入院中		講義 GW
	3.4	(3) 外来 (4) 在宅療養中		講義 GW
	5.6	(5) 慢性期 (6) 急性期		講義 GW
	7.8	(7) 周手術期 (8) 終末期		講義 GW
	9 . 1 0	(9) 活動制限・隔離が必要な子どもと家族の看護 (10) 障害のある子どもと家族の看護		講義 GW
	1 1 . 1 2	(11) 災害時 (12) 症状を示す子どもの看護		講義 GW
	13～15	(13) 演習 外来受診した発熱児の身体状況の推論、必要な看護を討議		演習
	1 6 . 1 7	2. 疾患看護 (1) 内分泌代謝性疾患、(2) 腎・泌尿器および生殖器疾患		講義
	1 8 . 1 9	(3) 免疫・アレルギー・リウマチ性疾患 (4) 感染症		講義
	2 0 . 2 1	(5) 呼吸器疾患 (6) 神経疾患		講義
	2 2 . 2 3	(7) 循環器疾患 (8) 皮膚・眼・耳鼻咽喉疾患		講義
	2 4 . 2 5	(9) 消化器疾患 (10) 血液造血器		講義
	2 6 . 2 7	(11) 悪性新生物 (12) 運動器疾患		講義
	2 8 . 2 9	(13) 精神疾患 (14) 事故・外傷、救急救命処置が必要な小児と家族への看護		講義
試 験	30	筆記試験		
評価方法	筆記試験 100 点（田中 50 点・竹内 20 点・小林 15 点・米野 15 点）			
テキスト	系統看護学講座 専門分野 小児看護学 【1】小児看護学概論 小児臨床看護総論 ／ 医学書院 系統看護学講座 専門分野 小児看護学 【2】小児臨床看護各論 ／ 医学書院			

北見医師会看護専門学校

分 野	専門分野			
科目名	69.小児看護学援助論Ⅲ			
時期・単位	学年（開講時期）	2 年（後期）	単位（時間数）	1（30）
講師名	松野 絢			
授業概要	小児看護において必要な基本的看護技術を習得する。また、事例を通して、小児の特徴をふまえ、看護過程を展開する能力を養う。			
到達目標	1. 小児看護における基本的技術がわかる 2. 安全・安楽をふまえ、対象を尊重した援助について理解できる 3. 疾患をもつ小児のアセスメントをし、必要な看護がわかる			
授業計画	時間	学習内容		形態
	1.2	看護過程の展開/ 1. 授業概要説明：小児看護過程の特徴と留意点、事例紹介		講義
	3.4	2.アセスメント ↓		GW
	5.6			GW
	7.8			GW
	9.10	↓		GW
	11.12	3.看護問題の明確化 ↓		個人ワーク
	13.14			個人ワーク
	15.16	4.看護計画立案 ↓		個人ワーク
	17.18			個人ワーク
	19.20	小児看護技術/検査・処置を受ける子どもの看護		講義
	21	小児看護技術/ジグソー学習 GW：①コミュニケーションと遊び、②検査処置とプレパレーション③バイタル・身体計測、④療養生活指導		講義
	22.23	↓		GW
	24.25	↓		GW
	2 6	事例を用いた技術演習：バイタルサイン測定、身体計測、オムツ交換、抱っこ		演習
27~30			演習	
試 験				
評価方法	松野：課題レポート 70 点、秋山：レポート 30 点			
テキスト	系統看護学講座 系統看護学講座	専門分野 専門分野	小児看護学【1】小児看護学概論 小児看護学【2】小児臨床看護各論	小児臨床看護総論 ／ 医学書院 ／ 医学書院

※実務経験のある教員等による授業科目

北見医師会看護専門学校

分 野	専門分野			
科目名	70.母性看護学概論			
時期・単位	学年（開講時期）	2 年（前期）	単位（時間数）	1（30）
講師名	八重樫 明子・廣田 のぞみ・安藤 恵美・田邑 泰子			
授業概要	母性看護学の対象は妊産褥婦を中心に胎児期から老年期までの幅広い年代の女性とその家族である。ここでは対象の理解と母性看護学の基盤になる概念を理解し、母性看護の課題や問題について学ぶ。また、女性生殖器の疾患をもつ患者の看護についても学習する。			
到達目標	1. 母性看護の概念および動向、対象の特徴について理解する。 2. 女性のライフスタイル各期の特徴と看護について理解する。 3. 女性生殖器の疾患をもつ患者の看護を理解する。			
授業計画	時間	学習内容		形態
	1.2	1.母性看護の基盤となる概念 1) 母性とは 2) 母子関係と家族発達 3) セクシュアリティ 4) リプロダクティブヘルス/ライツ		講義
	3.4	1-5) ヘルスプロモーション 6) 母性看護のあり方 7) 母性看護における倫理 8) 母性看護における安全・事故予防		講義
	5.6	2.母性看護を取り巻く社会の変遷と現状 1) 母性看護の歴史的変遷と現状		講義
	7.8	2-2) 母性看護の提供システム 3.母性看護の対象理解 1) 女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化		講義
	9.10	3-2) 女性のライフサイクルと家族 3) 母性の発達・成熟・継承		講義
	11.12	4.母性看護に必要な看護技術 1) 母性看護における看護過程 2) 情報収集・アセスメント技術 3) 母性看護に使われる看護技術		講義
	13.14	5.女性のライフステージ各期における看護 1) ライフサイクルにおける女性の健康と看護 2) 思春期の健康と看護		講義
	15.16	5-3) 性成熟期の健康と看護 4) 更年期・老年期の健康と看護		講義
	17.18	6.リプロダクティブヘルスケア 1) 家族計画 2) 性感染症とその予防		講義
	19.20	6-3) HIV に感染した女性に対する看護 4) 人工妊娠中絶と看護 5) 喫煙と女性の健康		講義
	21.22	6-6) 性暴力を受けた女性に対する看護 7) 児童虐待と看護 8) 国際化社会と看護		講義
	23.24	7.女性生殖器系の看護 1) 外来・病棟における看護 2) 診療介助における看護 3) 症状とその病態に対する看護		講義
	25.26	7-4) 臓器別疾患・機能的疾患患者の看護 ・子宮癌のある患者の看護 ・性感染症のある患者の看護		講義
	27.28. 29	8.乳腺系疾患患者の看護 1) 乳房腫瘍疾患患者の看護 2) 手術を受ける患者の看護 3) 化学療法を受ける患者の看護 4) 放射線療法を受ける患者の看護 5) ホルモン療法を受ける患者の看護		講義
試 験	30	筆記試験		
評価方法	筆記試験（八重樫 30 点・廣田 40 点・安藤 15 点・田村 15 点）			
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学〔1〕母性看護学概論 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔9〕女性生殖器	医学書院 医学書院	¥2,400 ¥2,484	

北見医師会看護専門学校

分 野	専門分野			
科目名	71.母性看護学援助論Ⅰ			
時期・単位	学年（開講時期）	2 年（前期・後期）	単位（時間数）	1（30）
講師名	齊藤 貴木 ・ 山崎 菜摘 ・ 八重樫 ともえ ・ 鈴木 優美			
授業概要	母性看護学概論の学習内容を基盤に、最も母性を発揮し援助を多く必要とする妊娠・分娩期の看護援助について学習する。正常な経過と異常の徴候を並列して学び理解を深める。周産期にある対象が日常生活における基本的なセルフケアを維持・促進するための看護について学び、技術も実際に行う。また、近年増加している遺伝相談・不妊治療に関する看護を学ぶ。			
到達目標	1. 妊娠期・分娩期の対象の心身の変化と異常の徴候、セルフケアを促す看護について理解できる。 2. 遺伝・不妊に関連する看護に必要な知識を理解することができる。			
授業計画	時間	学習内容		形態
	1.2	1.妊娠期における看護 1) 妊娠期の身体的特性 2) 妊娠期の心理・社会的特性		講義
	3.4	1-3) 妊婦と胎児のアセスメント (1) 妊娠と診断 (2) 妊娠期に行う検査 (3) 胎児の発育と健康状態の診断		講義 演習
	5.6	1-3) (4) 妊婦と胎児の経過の診断とアセスメント		講義
	7.8	1-4) 妊婦と家族の看護 (1) 妊婦が受ける母子保健サービス (2) 妊婦の健康相談・教育の実際		講義
	9.10	1-4) (3) 親になるための準備教育		講義
	11.12	2.妊娠の異常と看護 1) ハイリスク妊娠 2) 妊娠期の感染症 3) 妊娠疾患		講義
	13.14	2-4) 多胎妊娠 5) 妊娠持続期間の異常 6) 異所性妊娠 7) ハイリスク妊婦の看護		講義
	15.16	3.分娩期における看護 1) 分娩の要素 2) 分娩の経過		講義
	17.18	3-3) 産婦・胎児、家族のアセスメント 4) 産婦と家族の看護		講義
	19.20	3-5) 分娩期の看護の実際		講義
	21.22 ・ 23	4.分娩の異常と看護 1) 産道の異常 2) 娩出力の異常 3) 胎児の異常による分娩障害 4) 胎児の付属物の異常 5) 胎児機能不全 6) 分娩時の損傷 7) 分娩第3期および分娩直後の異常 8) 分娩時異常出血 9) 産科処置と産科手術 10) 異常のある産婦の看護 11) 異常分娩時の産婦の看護 12) 分娩時異常出血のある産婦の看護		講義
	24.25	5.出生前からのリプロダクティブヘルスケア 1) リプロダクティブヘルスケアの必要性 2) 遺伝相談		講義
	26.27	5-3) 不妊治療と看護 (1) 不妊とその原因 (2) 不妊検査 (3) 不妊治療		講義
	28.29	5-3) (4) 不妊治療を受けている女性の心理・社会的特徴 (5) 不妊夫婦の看護 (6) 不妊治療によって妊娠した女性・家族の看護 (7) 不妊治療の終結にかかわる看護		講義
試 験	30	筆記試験		
評価方法	筆記試験（山本 50 点・吉本 35 点・鈴木 15 点）			
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学〔1〕母性看護学概論 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学〔2〕母性看護学各論	医学書院 医学書院	¥ 2,400 ¥2,900	

北見医師会看護専門学校

分 野	専門分野			
科目名	72.母性看護学援助論Ⅱ			
時期・単位	学年（開講時期）	2 年（後期）	単位（時間数）	1（30）
講師名	田村 有希・堀 ゆかり・鹿又 亜由紀・西村 さつき			
授業概要	母性看護学概論・母性看護学援助論Ⅰの学習内容を基盤に、最も母性を発揮し援助を多く必要とする産褥期・新生児期の看護援助について学習する。正常な経過と異常の徴候を並列して学び理解を深める。周産期にある対象が日常生活における基本的なセルフケアを維持・促進するための看護について学び、技術も実際に行う。			
到達目標	1. 産褥期における対象の心身の変化と異常の徴候、母性の発達を促す看護について理解できる。 2. 新生児の生理的变化、異常の徴候、新生児の安全と成長発達を促す看護について理解できる。 3. 新生児に必要な看護援助技術が習得できる。			
授業計画	時間	学習内容		形態
	1.2	1.産褥期における看護 1) 産褥経過		講義
	3.4	1-2) 褥婦のアセスメント		講義
	5.6	1-3) 褥婦と家族の看護①		講義
	7.8	1-3) 褥婦と家族の看護②		講義
	9.10	2.産褥の異常と看護 1) 子宮復古不全 2) 産褥期の発熱 3) 産褥血栓症 4) 精神障害 5) 異常のある褥婦の看護 6) 育児に困難さをかかえる母親への看護 7) 児を亡くした褥婦・家族の看護 3.メンタルヘルスの問題をかかえる母親の支援 1) 妊娠・出産・育児への影響 2) 治療および看護		講義
	11.12	4.育児にかかわる看護 5.施設退院後の看護 《沐浴演習》		講義 演習
	13.14	《沐浴演習》		講義 演習
	15.16	6.新生児期における看護 1) 新生児の生理		講義
	17.18	2) 新生児のアセスメント (1) 新生児の診断		講義
	19.20	3) 染色体異常・胎内環境により発症する先天異常と看護		講義
	21.22	6-5) 新生児の健康状態のアセスメント 6) 新生児の看護 (1) 出生直後の看護		講義
	23.24	(2) 出生後から退院時までの看護 (3) 生後1カ月健診に向けた退院時の看護 《新生児のバイタルサイン演習》		演習
	25.26	7.新生児の異常と看護		講義
	27.28. 29	1) 新生児仮死 2) 分娩外傷 3) 低出生体重児 4) 高ビリルビン血症 5) 新生児・乳児ビタミン K 欠乏性出血症		講義
試 験	30	筆記試験		
評価方法	筆記試験（佐藤 25 点、水嶋 30 点、鹿又・西村 45 点）			
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学〔1〕母性看護学概論／医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学〔2〕母性看護学各論／医学書院 系統看護学講座 専門分野 小児看護学〔2〕小児看護学各論／医学書院			

北見医師会看護専門学校

分 野	専門分野				
科目名	73.母性看護学援助論Ⅲ				
時期・単位	学年（開講時	2 年（後期）	単位（時間数）	1（15）	
講師名	八重樫 明子				
授業概要	紙上事例により、1 人の女性の妊娠期・分娩期・産褥期の情報を段階的に提供し、各時期の状態を分析・解釈し、看護過程を学習する。また、その事例の新生児の情報から状態を分析・解釈し、必要な看護を考える。身体的側面だけでなく、新生児の誕生と母子相互作用、家族の発達について考える。				
到達目標	1. 紙上事例を通して周産期におこりやすい看護上の問題を理解し、必要な看護を展開できる基礎的能力を養う。				
授業計画	時間	学習内容		形態	
	1.2	1.妊娠期の看護 1) 妊婦についての情報 2) 看護過程の展開 (1) アセスメント (2) 看護問題 (3) 看護目標 (4) 看護計画		講義	
	3.4.5	1-3) 紙上事例妊婦の情報の分析・解釈 2.分娩期の看護 1) 産婦についての情報 2) 看護過程の展開 (1) アセスメント (2) 看護問題 (3) 看護目標 (4) 看護計画		講義 演習	
	6.7	3.産褥期の看護 1) 褥婦についての情報 2) 看護過程の展開 (1) アセスメント (2) 看護問題 (3) 看護目標 (4) 看護計画		講義	
	8.9	4.新生児期の看護 1) 新生児についての情報 2) 看護過程の展開 (1) アセスメント (2) 看護問題 (3) 看護目標 (4) 看護計画		講義	
	10.11. 12	3-3) 紙上事例褥婦の情報の分析・解釈		講義 演習	
	13.14. 15	4-3) 紙上事例新生児の情報の分析・解釈		講義 演習	
	評価方法	提出物 100 点			
テキスト	系統看護学講座 系統看護学講座	専門分野Ⅱ 専門分野Ⅱ	母性看護学〔1〕母性看護学概論 母性看護学〔2〕母性看護学各論	医学書院 医学書院	¥ 2,400 ¥2,900

※実務経験のある教員等による授業科目

北見医師会看護専門学校

分 野	専門分野			
科目名	74.精神看護学概論			
時期・単位	学年（開講時	2 年（前期）	単位（時間数）	1（30）
講師名	南 里江子・佐々木 諭			
授業概要	ライフサイクルにおけるこころの発達と健康について学び、精神障害の基本的な考え方と理解を深め、精神看護や保健活動についての基礎的知識の基盤をつくる。			
到達目標	1. こころの発達と健康について基礎的知識を学び、自己のこころの発達・健康について考える機会とする。 2. 精神障害者の社会的立場を理解し看護者としてノーマライゼーションの視点をもつことができる。			
授業計画	時間	学習内容		形態
	1.2	1.精神の健康と障害 （1）精神の健康 （2）精神看護の役割 課題レポート「心の健康とは」（5 点）		講義
	3.4	（3）精神障害とは （4）精神の健康とは 2．人間の心のはたらき（1）人のこころの諸活動 ①意識と認知機能 ②知能 ③感情 ④人格と気質		講義
	5.6	（2）心の仕組みと人格の発達 ①フロイト精神力動・精神分析		講義
	7.8	②エリクソンの漸成的発達理論 ③対象関係論		講義
	9.10	（3）心の危機とストレス ①危機理論 ②防衛機制とストレスコーピング 課題レポート「自分のストレス対処行動を振り返る」（5 点）		講義
	11	3．関係のなかの人間 （1）家族の役割関係と感情 （2）人間と集団		講義
	12.13	（3）社会の変化と心の不調 ①いじめ ②不登校 ③ひきこもり ④自傷行為 ⑤SNS 依存 ⑥DV ⑦薬物依存 ⑧ハラスメント ⑨過労死 ⑩自殺		演習
	14.15	上記テーマ 原因・分類・発現しやすい年代・現状・対策・現状 グループワーク		演習
	16.17	グループワーク発表 課題：担当テーマについて資料作成・提出（5 点）		演習
	18.19	4．精神看護学の対象 （1）日本の精神科医療の現状と課題 （2）ICF の考え方、精神障害の一次二次三次予防		講義
	20.21	（3）精神障害者の体験世界 （4）精神障害者の回復		講義
	22.23	5．社会のなかの精神障害 （1）精神障害と治療の歴史 （2）日本の精神医療のながれ （3）精神障害と文化 （4）スティグマ（社会的烙印）		講義
	24.25	6．精神障害と法律・制度 （1）法律と位置づけ 知的障害・精神障害、入院の種類 （2）国連決議・憲法・関連法 障害者福祉の理念		講義
	26.27	7．社会資源の活用とケアマネジメント （1）地域における生活支援の基本的考え （2）地域生活を支えるシステムと社会資源 ①相談支援 ②障害福祉サービス 日中活動支援・居住支援・医療支援・就労支援		講義
	28.29	③精神障害者福祉手帳 ④権利擁護 ⑤当事者組織・支援組織 （3）包括型地域生活プログラム（4）ノーマライゼーションと課題		講義
試 験	30	筆記試験 佐々木講師レポート提出（10 点）		試験
評価方法	南 70 点（筆記試験 55 点+課題 15 点） 佐々木 30 点（筆記試験 30 点+課題レポート 10 点）			
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学 1 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学 2	精神看護の基礎 精神看護の展開	医学書院 医学書院	¥ 2530 ¥2530

北見医師会看護専門学校

分 野	専門分野			
科目名	75.精神看護学援助論Ⅰ			
時期・単位	学年（開講時期）	2 年（前期）	単位（時間数）	1（15）
講師名	嶋田 進一郎 ・ 姜 徹求 ・ 加藤 紘幹 ・ 石川 友香			
授業概要	精神障害の病態生理、疾患や症状に対する診断・検査・治療について学ぶ			
到達目標	1. 精神障害の症状、診断と分類、検査と治療について学習し、精神障害のある患者の対象理解を深める。			
授業計画	時間	学習内容		形態
	1.2	1.精神疾患の理解と治療 （1）脳の仕組みと精神機能 ①脳の部位とニューロン・シナプス ②神経伝達物質 （2）臨床検査 ①脳波 ②画像診断 ③脳脊髄液 （3）心理検査 ①知能 ②記憶力 ③人格 （4）薬物療法 抗精神病薬の分類と効果・適応・副作用 （5）電気痙攣療法 （6）精神療法 （7）リハビリテーション療法		講義
	3.4	2. 精神疾患・精神障害の定義・症状・診断・治療 （1）精神疾患の基礎知識 ①精神疾患の概念 ②ICD-10 と DSM-V （2）主な疾患 ②精神作用物質使用による精神・行動の異常 「アルコール依存症」		講義
	5.6	①器質性精神疾患 「認知症」「てんかん」		講義
	7.8	④気分障害 「双極性障害」「抑うつ障害」		講義
	9.10	⑥摂食障害、非器質性睡眠障害 ⑧神経発達症候群		講義
	11.12	⑦パーソナリティ障害 ⑤神経性障害、ストレス関連障害、身体表現性障害		講義
	13.14	③統合失調症		講義
試 験	15	筆記試験		試験
評価方法	筆記試験 100 点（嶋田 25 点、早坂 30 点、大江 25 点、古俣 20 点）			
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学Ⅰ 精神看護の基礎 医学書院 ￥2530			

北見医師会看護専門学校

分 野	専門分野			
科目名	76.精神看護学援助論Ⅱ			
時期・単位	学年（開講時期）	2 年（後期）	単位（時間数）	1（30）
講師名	武田美恵子・朝岡真奈美・新村はるか・金山幾代・保科幸弘・吉田小百合・武藤健太			
授業概要	精神障害をもつ対象に主要症状、疾患、治療処置別の看護の方法および地域における看護について学ぶ。			
到達目標	1. 精神障害をもつ対象を理解し、症状に応じた看護の方法を理解する。 2. 精神障害をもつ対象が地域で生活するための支援の方法を理解する。			
授業計画	時間	学習内容		形態
	1.2	1.安全な治療環境への看護 (1) 治療的関り (2) 入院の目的と意味 (3) 精神科病棟の特徴		講義
	3.4	(4) 入院時のアセスメント (5) 患者の権利擁護		講義
	5.6	(6) リスクマネジメント 行動の制限と処遇 ①自殺 ②暴力 ③無断離院		講義
	7.8	2. 普遍的セルフケア支援 (1) 空気・水・食物 (2) 排泄とそのプロセス (3) 清潔と身嗜み、身の回りの環境整備		講義
	9.10	(4) 活動と休息 (5) 孤独と社会との関りのバランス (6) 安全を保つ能力 私物と金銭		講義
	11.12	3. 症状の看護 (1) 興奮 (2) 抑うつ (3) 躁 (4) 幻覚・妄想		講義
	13	(5) せん妄 (6) 不安 (7) 暴力		講義
	14.15	(8) 強迫 (9) 無為・自閉 (10) 拒絶 (11) 水中毒		講義
	16.17	(12) 不眠 (13) 希死念慮・自殺企図 (14) アディクション アルコール依存		講義
	18.19	4. 治療における看護とリエゾン (1) 薬物療法における看護 (2) 心理社会的療法 (3) ECT時の看護		講義
	20.21	(4) 心身相関と健康、心身症、性の健康、児童期逆境体験、 トラウマインフォームドケア (5) リエゾン精神看護		講義
	22.23	5. 精神障害者の回復と地域におけるケア (1) 精神科におけるリハビリテーション ①リカバリー ②ストレングス ③エンパワメント (2) 家族の看護 (3) 精神科外来看護 (4) 精神科デイケアの看護		講義
	24.25	(5) 長期入院患者の地域移行支援、地域定着支援 (6) 地域における精神障害者支援、アウトリーチ		講義
	26.27	(7) 精神科訪問看護 (8) 社会資源活用とケアマネジメント、行政との連携		講義
	28.29	(9) 精神科リハビリテーション、心理・社会的療法 (10) 他職種との連携		講義
試 験	30	筆記試験		試験
評価方法	筆記試験 100 点（武田 20 点、澤野 15 点、新村 20 点、保科 15 点、金山 15 点、吉田 10 点、武藤 5 点）			
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学 1 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学 2 看護実践のための根拠がわかる精神看護技術		精神看護の基礎 精神看護の展開	医学書院 ￥2530 医学書院 ￥2530 メヂカルフレンド社 ￥3740

北見医師会看護専門学校

分 野	専門分野			
科目名	77.精神看護学援助論Ⅲ			
時期・単位	学年（開講時期）	2 年（後期）	単位（時間数）	1（30）
講師名	南 里江子			
授業概要	人間関係形成技術を基盤とし、精神的支援が必要な対象者に必要な看護援助技術を学ぶ。看護師のメンタルヘルスの維持について学ぶ。事例を通して看護過程を展開する能力を養う。			
到達目標	1. 患者-看護師関係構築・発展のための基礎的知識・技術を身につける。 2. 紙上事例展開により精神障害をもつ対象を理解し、対象に適した看護を考える。			
授業計画	時間	学習内容		形態
	1.2	1.援助技術の構築 （1）ケアの原則 ①尊厳の尊重 ②接近と境界 ③秘密と金品の授受		講義
	3.4	（2）ケアの方法 ①そばにすること ②遊びとユーモア ③話を聞くこと ④受けとめること 課題レポート 5 点「傾聴演習を通して気づいたこと」		講義
	5.6	⑤話をすること ⑥自分を出す ⑦相手を知る質問 ⑧自己決定を支える ⑨気持ちに焦点をあてる ⑩率直さ 課題レポート 5 点「相手を受けとめつつ自分の考えを伝える」シナリオ		講義
	7.8.9	⑪承認の意義と方法 「ほめ言葉のシャワー」演習 課題レポート 5 点「承認について」		講義・演習
	10.11	2. 患者-看護師関係 （1）看護理論 ①ペプロウ ②トラベルビー		講義
	12.13	（2）プロセスレコード ①目的（復習）と意義 ②場面の再構成と考察—自己理解を深める プロセスレコード課題 ①5 点分 ②5 点分		講義
	14.15	（3）患者-看護師関係における感情体験 ①転移感情 ②共感と同情、共感的理解 ③感情の容器 ④拒否と甘え ⑤コンフロンテーション		講義
	16.17	（4）対象理解のための対話 （5）人間の欲求と気質の分類		講義・演習
	18.19	3. 看護師のメンタルヘルス （1）感情労働 （2）共感ストレス・共感疲労（3）バーンアウト		講義
	20.21	（4）感情労働を生き延びるために ①感情の表現 ②レジリエンス ③アンガーマネジメント ④リフレクション		講義
	22.23	4. 紙上事例展開（30 点分） （1）精神看護における経過と看護 （2）アセスメントの視点 （3）事例展開の進め方の説明 （4）事例の提示（被害妄想のある成人期の統合失調症の事例）		講義
	24.25	（1）病理的状態の説明 （2）グループワーク		講義
	26	グループワーク（アセスメント）		講義・演習
	27	グループワーク（アセスメント）		演習
	28.29	（3）グループ発表 事例展開のまとめ		演習・講義
試 験	30	筆記試験 佐々木講師レポート提出（10 点）		試験
評価方法	筆記試験 45 点 ＋ 提出課題 25 点 ＋ 紙上事例展開 30 点			
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 系統看護学講座 専門分野Ⅱ	精神看護学 1 精神看護学 2	精神看護の基礎 精神看護の展開	医学書院 医学書院 ¥ 2530 ¥2530

北見医師会看護専門学校

分 野	専門分野			
科目名	78.看護研究			
時期・単位	学年（開講時期）	2 年	単位（時間数）	1（30）
講師名	八重樫 明子			
授業概要	看護研究の基礎的知識と看護専門職者として研究的視点を学び、看護研究の意義を理解し、生涯にわたり学習する姿勢を身につける。2 年次の臨地実習体験をケースレポートとしてまとめる。			
到達目標	1. 看護における研究の意義と基礎的知識を理解し、生涯にわたる看護研究実践の基盤をつくる。 2. 看護研究活動を体験し、研究的視点を持ち学びを深める。 3. ケースレポート発表を通し、自己の看護観を深める機会とする。			
授業計画	時間	学習内容		形態
	1.2	看護研究とは 看護研究の進め方 文献検索		講義
	3.4	文献レビュー・クリティーク 研究デザイン データ収集方法と分析方法		講義 演習
	5.6	倫理的配慮 研究発表の意義と方法 文献クリティーク		講義 演習
	7	文献整理マトリックス 文献レビュー		演習
	8.9	ケースレポートとは ケースレポートの進め方		講義
	10.11	ケースレポートのテーマとは テーマ設定 ケースレポートの事前準備		講義
	12.13	ケースレポートのテーマを決める 計画書を作成する		講義 演習
	14.15.16	ケースレポート テーマ発表会		演習
	17.18	ケースレポートの書き方（復習） ケースレポート作成開始 担当教員と相談・指導のもと進める		講義 演習
	19.20	ケースレポートの考察について（復習） ケースレポート作成 進行状況の確認		講義 演習
	21.22	ケースレポート作成 進行状況の確認		演習
	23.24	ケースレポートの結論について（復習） ケースレポート作成 進行状況の確認		講義 演習
	25.26	ケースレポートの発表準備・発表原稿について ケースレポート作成		講義 演習
	27.28.	ケースレポート作成・仕上げ		演習
29	ケースレポート仕上げ・発表原稿作成		演習	
試 験	30	筆記試験 ※ケースレポート発表会は教科外活動時間		
評価方法	演習（文献レビュー）20 点 / 筆記試験 30 点 / ケースレポート 50 点			
テキスト	系統看護学講座 別巻 看護研究 第 2 版 医学書院 ￥2,640			

※実務経験のある教員等による授業科目

北見医師会看護専門学校

分 野	専門分野			
科目名	79.医療安全			
時期・単位	学年（開講時期）	3 年（期）	単位（時間数）	1（15）
講師名	吉田 千亜紀			
授業概要	安全で質の高い看護を実践するため、医療事故防止・回避に必要な知識・技術・態度を習得する。			
到達目標	1.医療事故予防に必要な知識・技術・態度を習得し、実践できる基礎的な能力を習得する。 2.医療安全を学び、専門職としての責任について認識できる。			
授業計画	時間	学習内容		形態
	1.2	1.医療安全を学ぶことの大切さ（序章） ①人はなぜ間違いをおかすのか ②医療安全を学ぶ意義 ③看護師の責任の重さと安全努力の責務 2. 事故防止の考え方（第1章） ①医療事故とは（定義・分類）②医療行為との関連 ③危険要因 3. 看護事故の構造 ①診療の補助業務 ②療養上の世話業務 2種5群の看護事故の事故防止の視点		講義
	3.4	4. 診療の補助の事故防止（第2章） 注射、輸液ポンプ・シリンジポンプ、輸血、 <u>内服与薬</u> 、経管栄養、 <u>チューブ管理</u> 5. 療養上の世話の事故防止（第3章） <u>転倒・転落防止</u> 、窒息・誤嚥防止、異食防止、入浴中の自己防止		講義
	5.6	6. 業務領域を超えて共通する間違いと発生要因（第4章） 患者間違いの要因、間違いを誘発する負荷状況、新人特有の危険な思い込みと行動パターン 7. 医療安全とコミュニケーション（第5章） チーム医療、医療職種間、患者・家族とのコミュニケーション 安全文化の醸成 演習：K Y T		講義 演習
	7.8	8. 地域における在宅療養者の安全（第6章） 訪問看護師の行う診療の補助、在宅酸素、服薬支援と薬剤の管理、家庭内転倒と事故 9. 看護師の労働安全衛生上の事故防止（第7章） 職業感染（ <u>針刺し事故</u> 含む）、抗がん剤の曝露、放射線被ばく、ラテックスアレルギー、腰痛、院内暴力・訪問看護での暴力 10. 組織的な安全管理体制への取り組み（第8章） 組織的な安全管理の考え方、 <u>安全文化の醸成</u> 、組織的な医療安全管理体制（安全管理指針、マニュアル策定、委員会の設置、医療安全管理者）、報告による <u>リスク分析</u> （ <u>ヒヤリハット</u> または <u>インシデントレポート</u> ）		講義
	9.10	11. 事故の原因分析、対策の検討 グループ演習 脳梗塞後遺症右上下肢の麻痺のある患者の事例を用いて演習 インシデント事例の分析、対策検討、チューブ類の予想外抜去防止策の実施		演習
	11.12	同上 グループ演習		演習
	13.14	演習の発表 12.医療安全対策の国内外の潮流（第9章） 厚生労働省の取り組み、医療事故等の報告制度、医療の質の評価、看護師の責務、行政処分と再教育、		演習 講義
	試 験	15	筆記試験	
評価方法	筆記試験 100 点			
テキスト	系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践〔2〕 医療安全 第5版 / 医学書院			

北見医師会看護専門学校

分 野	専門分野			
科目名	80.看護マネジメント			
時期・単位	学年（開講時期）	3 年（期）	単位（時間数）	1（15）
講師名	古田 英子			
授業概要	看護の機能と役割の拡大に伴うチーム医療および他職種との連携・協働を円滑に行えるよう、看護管理の目的と機能について学ぶ。組織の一員としてリーダーシップ・メンバーシップを発揮できる基礎的能力を養う。ここでは組織運営の視点を含めたマネジメント方法及び管理的思考についても学習する。			
到達目標	1.看護業務の概要が理解できる。 2.看護マネジメントの概要が理解でき、看護の機能の全体像がとらえられる。 3.看護マネジメントに必要な組織についての考え方が理解できる。			
授業計画	時間	学習内容		形態
	1.2	1.看護とマネジメント/ ・看護管理学に含まれる要素についての概略		講義
	3.4	2.看護ケアのマネジメント/ ・看護職の提供する看護ケアのマネジメントについて・患者の権利や安全管理など看護業務の実践のために必要なマネジメント		講義
	5.6	3.看護職のキャリアマネジメント/看護職として社会で仕事をしていくためのキャリアマネジメントについて		講義
	7.8	4.看護サービスのマネジメント/ ・組織としての看護サービスのマネジメント・組織としての目的達成・看護サービス提供のしくみづくり		講義
	9.10	・人材のマネジメント/施設・設備環境・物品のマネジメント、 組織にお対象者のサービスの評価、リスクマネジメント		講義
	11.12	5.マネジメントに必要な知識と技術/ ・組織の構造とその原則、マネジメントとの関連		講義
	13.14	6.看護を取り巻く諸制度/ ・看護や看護職の定義・法制度・看護業務と職業倫理		講義
	試 験	15	筆記試験	
評価方法	筆記試験 100 点			
テキスト	系統別看護学講座 専門分野 看護の統合と実践（1） 看護管理 / 医学書院			

北見医師会看護専門学校

分 野	専門分野			
科目名	81.統合演習 I			
時期・単位	学年（開講時期）	3 年（期）	単位（時間数）	1（15）
講師名	加藤 あずさ			
授業概要	基礎分野、専門基礎分野、専門分野で学習した知識・技術・態度を統合させ、複数の疾患事例に対する、対象の状態に応じた看護の必要性を理解し、安全・安楽・自立を考慮した看護援助を計画立案できる。また、臨床実践において看護師が行う複数の受け持ち患者に対する看護の優先度と時間管理について学ぶ。			
到達目標	1.複数の疾患事例に対する、対象の状態に応じた安全・安楽・自立を考慮した看護援助を計画立案できる。 2.複数の受け持ち患者に対する、看護援助の優先度の考え方について理解できる。			
授業計画	時間	学習内容		形態
	1.2	1. 演習オリエンテーション。 1)科目の概要 2)演習スケジュール 3)疾患事例の提示 2.複数の疾患事例について理解し看護の方向性を明確にできる。 1)各学生が1 事例担当し、事例対象の基本情報、病理的状态の理解、全体像を作成する。		講義
	3.4	2)対象事例の基本情報、病理的状态の理解、全体像を完成させる。		講義
	5.6	3)対象事例の看護問題を抽出し、看護の方向性を明確にする。		個人
	7.8	3.各事例グループで、対象事例のプレゼンテーションを行う準備をする。		GW
	9	4.対象事例のプレゼンテーション。 1)事例グループごとにプレゼンテーション。 2)グループ発表。		発表
	10.11	5.演習グループで、各事例の対象理解と看護の方向性を明確にする。		GW
	12.13	6.複数受け持ち患者に対する行動計画を立案する。		個人
	14.15	7.各自立案した行動計画に基づき、グループで複数受け持ちのケア予定を組み立てる。		GW
評価方法	演習課題 100 点			
テキスト	系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践 [1] 看護管理			

※実務経験のある教員等による授業科目

北見医師会看護専門学校

分 野	専門分野			
科目名	82.統合演習Ⅱ			
時期・単位	学年（開講時期）	3 年（期）	単位（時間数）	1（15）
講師名	加藤 あずさ			
授業概要	計画立案した複数患者の看護援助を、安全・安楽に配慮し実施できる。また、複数事例患者の状態に応じた看護援助の変更と割り込み事象を考慮した多重課題状況下での優先度の判断について理解する。さらに、複数事例に対する看護援助を実施する上での看護師の時間管理について学ぶ。			
到達目標	1.計画立案した複数患者の看護援助を、安全・安楽に配慮し実施できる。 2.多重課題状況下における複数患者の優先度の判断を理解できる。 3.複数事例に対する看護援助を実施する上での時間管理について理解できる。			
授業計画	時間	学習内容		形態
	1.2	1.立案した日勤帯のケア計画について、看護援助の組み立てとその根拠、各患者の援助の方法と留意点について発表準備をする。		GW
	3.4	2.グループ発表。		発表
	5.6	3.複数事例の各対象に必要な看護援助について、目的・方法と根拠、留意点を明確にした援助計画を立案する。		個人
	7	4.①技術試験内容・方法について説明。 ②技術試験に向けて援助計画を修正する。		説明 個人
	8.9	5.看護援助技術の実施。 援助計画に基づき実施し、援助計画を修正する。		演習
	10	↓		演習
	11.12			演習
	13.14	6.看護援助技術試験		技術試験
試 験	15	筆記試験		
評価方法	演習課題 35 点 実技試験 25 点 筆記試験 40 点			
テキスト	系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践 [1] 看護管理			

※実務経験のある教員等による授業科目

北見医師会看護専門学校

分 野	専門分野			
科目名	83.災害・国際看護			
時期・単位	学年（開講時期）	3 年（前期）	単位（時間数）	1（15）
講師名	尾山 とし子			
授業概要	現在、災害が日本だけでなく世界各国で頻発しており、災害看護の需要が高まっている。災害に対する備えや発災後の対応、心のケアなどの基礎的知識を学ぶ。また、人種や国籍をこえた普遍性のもつ看護の役割について国際看護の視点を学ぶ。			
到達目標	1.災害直後から支援できる看護の基礎的知識について理解できる。 2.国際社会において、広い視野に基づき、看護師として諸外国との協力を考えられる。			
授業計画	時間	学習内容		形態
	1.2	1. 災害看護学・国際看護学を学ぶにあたって 2. 災害看護学/変遷、災害医療の基礎知識		講義
	3.4	・災害看護の基礎知識、災害サイクルに応じた活動現場		講義
	5.6	・被災者特性に応じた災害看護の展開 ・災害とこころのケア		講義
	7.8	3. 地震災害看護の展開 ・発災直後から出勤まで、急性期、亜急性期、慢性期・復興期		講義
	9.10	4 国際看護学/国際看護学とは・グローバルヘルス・国際協力のしくみ ・文化を考慮した看護、		講義
	11.12	・国際看護展開の展開過程・開発協力と看護 ・国際救援と看護		講義
	13.14	5.災害看護学・国際看護学における倫理・教育・研究		講義
	試 験	15	筆記試験	
評価方法	筆記試験 100 点			
テキスト	系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践（3）災害看護・国際看護学 / 医学書院			

臨地実習

北見医師会看護専門学校

分 野		専門分野			
科目名		84.基礎看護学実習 I			
時期・単位		学年（開講時期）	1 年（前期）	単位（時間数）	1 単位（45 時
講師名		八重樫 明子			
実習の考え方		<p>基礎看護学実習 I は、学生が初めて病院施設に行き、患者と出会う実習である。学生は看護学校に入学してから人間や看護についての学習を行い、3 か月が経過している。この実習では、病院施設とそこで働く様々な職種、患者の療養の場である入院環境、看護師の業務に触れ、自己の看護師像を育む第一歩となる実習となる。看護への関心を高め今後の学習の動機付けとなるようにする。</p> <p>実習方法としては病院施設全体のオリエンテーションを通し病院施設を知り、療養の場である入院環境を知る。患者をひとり受持ち、生活者としての対象の環境を考える。さらに受持ち患者との関りを通し人間関係構築に必要なコミュニケーション技術について学ぶ。</p> <p>実習前に事前学習として実習目的を理解・整理し、実習に臨む。また、この実習では「看護学生として必要な態度」を考え、自己の傾向を理解する第一段階とする。実習最終日にグループ発表を行い、様々な疾患・年齢の患者を受け持った他学生の体験を聞くことで学びを共有する。</p>			
実習目的		病院の概要を知り看護の対象となる患者の療養環境やコミュニケーションの実際を学ぶ。			
実習目標		<p>1.病院施設とそこで働く職種や療養環境が理解できる。</p> <p>2.人間関係構築に必要なコミュニケーション技術について学ぶことができる。</p> <p>3. 看護師の役割について考えることができる。</p> <p>4.看護学生として必要な態度を考え、自己の傾向や課題に気づくことができる。</p>			
日（時間数）		実習方法		実習形態	備 考
		午前	午後		
1 日目	8	<ul style="list-style-type: none"> ・GW「グループ目標を決める」「自分たちが学びたいこと ・全体発表 	<ul style="list-style-type: none"> ・病棟実習映像を観る(看護学生の初めての実習ガイド)・行動計画発表について説明・記載 ・患者への同意説明について・受け持ち同意シミュレーション・報告・反省方法について 	学 内	
2 日目	8	<ul style="list-style-type: none"> ・施設オリエンテーション ・受持ち患者へ同意説明 ・コミュニケーション ・看護ケア見学 ・カルテからの情報収集 ・食事見学 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション ・看護ケア見学 ・受持ち患者の療養環境情報収集 ・本日の反省・報告 ・学生カンファレンス「受持ち患者の環境整備」 	病 棟	
3 日目	8	<ul style="list-style-type: none"> ・行動計画発表(援助計画の確認をしてもらう) ・看護ケア見学・環境整備の実施 ・コミュニケーション・カルテからの情報収集 ・受持ち患者の療養環境について情報収集 	<ul style="list-style-type: none"> ・看護ケア見学 ・コミュニケーション ・カルテからの情報収集 ・本日の反省・報告 学生カンファレンス「環境整備を実際におこなって考えたこと、明日のために」 	病 棟	
4 日目	8	<ul style="list-style-type: none"> ・行動計画発表(修正した援助計画の確認をしてもらう) ・看護ケア見学 ・環境整備の実施 ・コミュニケーション ・カルテからの情報収集 	<ul style="list-style-type: none"> ・看護ケア見学 ・コミュニケーション ・カルテからの情報収集 ・受持ち患者の療養環境について情報収集 ・実習での学びと反省カンファレンス ・本日の反省・報告 	病 棟	
5 日目	8	<ul style="list-style-type: none"> ・行動計画発表(修正した援助計画の確認をしてもらう) ・看護ケア見学 ・環境整備の実施 ・コミュニケーション ・カルテからの情報収集 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション ・カルテからの情報収集 ・グループカンファレンス（「実習での学びと反省」 ・本日の反省・報告 	病 棟	
6 日目	5	<ul style="list-style-type: none"> ・GW「グループ目標の評価」「自分たちの学び」について発表準備 ・全体発表 		学 内	
実習計		6 日間／45 時間			
評価方法		実習評価表に基づき評価（/100 点）			
備 考					

北見医師会看護専門学校

分 野		専門分野				
科目名		85.基礎看護学実習Ⅱ				
時期・単位		学年（開講時期）	1 年（後期）	単位（時間数）	2 単位（90）	
講師名		合佐毘 綾子				
実習の考え方		基礎看護学実習Ⅰでは環境調整の必要性や、受け持ち患者とコミュニケーションを図りながら日常生活における基本的ニーズに対し行われている看護援助や看護師の役割について学んだ。基礎看護学実習Ⅱでは、観察技術を活用してアセスメントに必要な情報を意図的に収集し、得られた情報の整理を行う。そこから対象に必要な日常生活援助について考え、援助計画を立案し、実施するという看護の一連のプロセスを学ぶ。看護援助は、患者の安全・安楽に留意しながら、バイタルサイン測定や日常生活援助を行う。また、実施する看護援助の説明を受け持ち患者に行い看護実践者としての自覚を育む機会とする。この実習ではペア実習を行うことによって、自分ひとりで考え悩むだけでなく、視点を変えることの大切さや、違う意見を聞くことで深く対象を理解することにつながることを、協力して様々な問題を解決する課程等学ぶ。そして1年生最後の実習ということで、改めて看護師に必要な知識・技術・態度を考え、自己の傾向や課題を認識する。				
実習目的		病院の概要を知り看護の対象となる患者の療養生活や看護の実際を学ぶ。				
実習目標		1.対象理解に必要な意図的な観察と情報収集が行える。 2.得られた事実（情報）から必要な日常生活援助を考えることができる。 3.人間関係構築に必要なコミュニケーション技術を活用できる。 4.日常生活援助を安全安楽に実施することができる。 5.看護学生に必要な態度を改めて考え、自己の傾向や課題を認識し評価できる。				
日（時間数）		実習方法			実習形態	備考
		午前	午後			
1日目	8	病棟オリエンテーション ・受持ち患者へ説明・同意 ・情報収集	・看護ケア見学・情報収集(カルテや観察、コミュニケーションから)・報告反省		病棟	
2日目	8	・行動計画発表・看護ケア見学又は一部実施 ・情報収集	・看護ケア見学又は一部実施 ・情報収集 ・報告反省		病棟	
3日目	8	・記録整理 ・技術練習	・記録整理 ・技術練習		学内	
4日目	8	・行動計画発表・看護ケア見学又は一部実施 ・情報収集	・看護ケア見学又は一部実施 ・情報収集 ・報告反省		病棟	
5日目	8	・行動計画発表・看護ケア見学又は一部実施 ・情報収集	・看護ケア見学又は一部実施 ・情報収集 ・カンファレンス ・報告反省		病棟	
6日目	8	・行動計画発表 ・看護計画に沿った援助実施	・看護計画に沿った援助実施 ・報告反省		病棟	
7日目	8	・行動計画発表 ・看護計画に沿った援助実施	・看護計画に沿った援助実施 ・報告反省		病棟	
8日目	8	・記録整理 ・技術練習	・記録整理 ・技術練習		学内	
9日目	8	・行動計画発表 ・看護計画に沿った援助実施	・看護計画に沿った援助実施 ・報告反省		病棟	
10日目	8	・行動計画発表・看護ケア指導のもと実施 ・情報収集	・実習の学びカンファレンス		病棟	
11日目	8	・記録整理	・記録整理		学内	
12日目	2	・全体会			学内	
実習計		12 日間／90 時間				
評価方法		実習評価表に基づき評価（/100 点）				
備 考						

※実務経験のある教員等による授業科目

北見医師会看護専門学校

分 野		専門分野			
科目名		86.基礎看護学実習Ⅲ			
時期・単位		学年（開講時期）	2 年（後期）	単位（時間数）	2 単位（90）
講師名		合佐毘 綾子			
実習の考え方		基礎看護学実習Ⅱでは、受持ち患者の意図的な情報収集の必要性について理解した。基礎看護学実習Ⅲでは、受持ち患者の病理的状态や常在条件を意識して意図的な情報収集を行い、健康障害により変化した生活を、根拠をもって理解し、生活上の問題を明確化し、看護計画の立案により、看護過程の一連を学ぶ。また、対象を中心とした看護を提供するため、人間関係形成のためのコミュニケーション能力や、看護師の責務を自覚し、対象の立場に立った倫理に基づく看護実践の基礎的能力を養う。			
実習目的		健康障害により変化した受持ち患者を理解するための情報収集ができ、根拠をもって生活上の問題を明確にし、看護援助を考えることができる。			
実習目標		1.対象の状態を、根拠をもってアセスメントし、看護問題を明確にできる。 2.対象の安全・安楽・自立に配慮し、望ましい生活をふまえた援助が実施できる。 3.実施した援助を振り返り、患者の反応を客観的に捉えることができる。 4.看護学生としての自覚と責任を持った行動について考えることができる。			
日（時間数）		実習方法		実習形態	備考
		午前	午後		
1 日目	8	・病棟オリエンテーション 受持ち患者同意説明 情報収集	情報収集 援助の見学 報告・反省	臨 地	
2 日目	8	行動計画発表 情報収集 援助見学・一部実施	援助見学・一部実施 報告・反省	臨 地	
3 日目	7	技術練習 記録整理	技術練習 記録整理	学 内	
4 日目	8	行動計画発表 情報収集 援助見学・一部実施	援助見学・一部実施 報告・反省	臨 地	
5 日目	8	行動計画発表 看護援助の実施	看護援助の実施 看護の方向性確認 テーマカンファレンス 報告・反省	臨 地	
6 日目	8	中間評価 行動計画発表 看護計画による援助の実施	看護計画による援助の実施 報告・反省	臨 地	
7 日目	8	行動計画発表 看護計画による援助の実施	看護計画による援助の実施 報告・反省	臨 地	
8 日目	7	技術練習 記録整理	技術練習 記録整理	学 内	
9 日目	8	行動計画発表 修正した看護計画による援助の実施	修正した看護計画による援助の実施 テーマカンファレンス 報告・反省	臨 地	
10 日目	8	行動計画発表 修正した看護計画による援助の実施	修正した看護計画による援助の実施 報告・反省	臨 地	
11 日目	8	行動計画発表 修正した看護計画による援助の実施	修正した看護計画による援助の実施 実習での学びカンファレンス 報告・反省	臨 地	
12 日目	4	記録整理		学 内	
実習計		12 日間／90 時間			
評価方法		実習評価表に基づき評価（/100 点）			
備 考					

※実務経験のある教員等による授業科目

北見医師会看護専門学校

分 野		専門分野			
科目名		87.地域・在宅看護論実習 I			
時期・単位		学年（開講時期）	1 年（前期）	単位（時間数）	1 単位（45）
講師名		小山田 理恵			
実習の考え方		<p>地域・在宅看護論実習 I は、1 年次の地域・在宅看護論 I が終了した後に位置付けた。地域・在宅看護論 I では地域で暮らす人々とその環境を理解し、暮らしが健康に与える影響、フィールドワークを通し人々の生活の基盤となる身近な環境について学んでいる。地域・在宅看護論 I で学んだ知識をもとに小児期・青年期・成人期・老年期の各ライフステージにある人々の暮らしの場に出向き、コミュニケーションや活動への参加を通し、地域の暮らしの実態を理解する。家族のつながりや健康と生活との関連（誰がどうやって健康を管理しているか、セルフケアの状態等含む）、働く意味や生きがい、余暇活動の意味を学び、人々が支え合って生きることの重要性を学ぶ機会とする。</p>			
実習目的		地域の暮らしを理解し、人々が支え合って生きることの重要性を学ぶ。			
実習目標		1. ライフステージ各期にある人々の暮らしを理解する。 2. 環境と生活と健康の関連を理解することができる。 3. 看護学生として適切な行動がとれる。			
日（時間数）		実習方法		実習形態	備考
		午前	午後		
1 日目	9	地域・在宅看護論実習 I 方法について再確認・事前学習（各施設の概要について調べまとめる）	各施設に出向き活動に参加・コミュニケーションをとる	学 内 / 施 設	
2 日目	9	各施設に出向き活動に参加・コミュニケーションをとる（施設によって午後の場合あり）	個人ワーク（各施設実習での学びをまとめる）	学 内 / 施 設	
3 日目	9	各施設に出向き活動に参加・コミュニケーションをとる（施設によって午後の場合あり）	個人ワーク（各施設実習での学びをまとめる）	学 内 / 施 設	
4 日目	9	個人ワーク（各施設実習での学びをまとめる）	グループカンファレンス（学んだことをまとめる・発表資料作成）	学 内	
5 日目	9	全体会（グループ毎に発表・意見交換）	個人ワーク（まとめのレポート作成）	学 内	
実習計		5 日間／45 時間			
評価方法		実習評価表に基づき評価（/100 点） 5 日目 17:00 記録提出			
備 考					

※実務経験のある教員等による授業科目

北見医師会看護専門学校

分 野		専門分野				
科目名		88.地域・在宅看護論実習Ⅱ				
時期・単位		学年（開講時期）	2 年（後期）	単位（時間数）	1 単位（45 時間）	
講師名		小山田 理恵				
実習の考え方		地域在宅看護論Ⅰでは、各ライフステージにある人々の暮らしの場に出向き、地域の暮らしの実際、家族のつながりや健康と生活との関連、人々が支え合って生きることの重要性を学んだ。地域在宅看護論Ⅱでは、現在在院日数の短縮化により、家庭での治療・処置を継続するケースも多く、対象者のみならず家族を支援していくこと、外来・病棟、多職種との連携が重要になっていることを受け、外来の機能と役割、外来看護の役割を学ぶ。そして、地域で暮らしながら病気を発症し、必要な治療を受け、病気とともに暮らす人々や病気に罹患することなく地域で暮らす人々への看護の実際を学ぶ機会とする。				
実習目的		外来の機能と役割、外来看護を学び、地域で暮らす人々の健康レベルに応じた支援の実際を学ぶ。				
実習目標		1. 外来看護の機能と役割、外来看護を理解する。 2. 地域で暮らす人々の健康レベルに応じた看護を理解する。 3. 看護学生として適切な行動がとれる。				
日（時間数）		実習方法			実習形態	備考
		午前		午後		
1 日目	9	外来実習	地域在宅Ⅱ実習方法について再確認 事前学習（各施設の概要、診療科での違いについて確認）	施設オリエンテーション、受診時の必要物品、施設内の特徴、受診の動線、流れについて説明を受け	学 内 / 外 来	
2 日目	9		診察の介助の見学 指導の実際の見学（施設によっては午後）	個人ワーク 記録整理	外 来 / 学 内	
3 日目	9		診察の介助の見学 指導の実際の見学（施設によっては午後）	個人ワーク 記録整理	外 来 / 学 内	
4 日目	9		個人ワーク 記録整理	グループカンファレンス 学んだことのまとめ、発表資料作成	学 内	
5 日目	9		全体会 グループごとに発表・意見交換	個人ワーク まとめのレポート作成	学 内	
実習計		5 日間／45 時間				
評価方法		実習評価表に基づき評価（/100 点）翌日 8：50 記録提出				
備 考						

※実務経験のある教員等による授業科目

北見医師会看護専門学校

分 野		専門分野			
科目名		89.地域・在宅看護論実習Ⅲ			
時期・単位		学年（開講時期）	3 年（期）	単位（時間数）	2 単位（90）
講師名		小山田 理恵			
実習の考え方		<p>地域・在宅看護論実習Ⅲでは年齢、健康レベル、疾病を問わず、地域で暮らす人々を対象とする。そのため、「療養者とその家族の思いや望みを達成する」事を看護の目標としてとらえた上で、地域で療養しながら生活する、あらゆるライフサイクルにある人々の健康段階や家族単位の日常生活状況を踏まえた看護実践活動について学ぶ機会とする。また、対象とその家族の望む生活を支援するのが、医療機関のみならず保健福祉の連携・協働から成り立っていることを理解し、地域包括ケアシステムにおける看護の機能と看護職の役割、医療従事者主体ではなく地域で暮らす人々が主体となり、「ともに暮らす」「ともに考える」「ともに成長する」といったパートナーシップに基づく関係性の重要性を学ぶ機会とする。</p>			
実習目的		地域包括ケアシステムにおける看護の役割と機能、暮らしの場で行われる看護実践活動を学ぶ。			
実習目標		<p>1.在宅看護の対象である在宅療養者と家族の特徴、必要な支援を考えることが出来る 2.在宅看護に必要な看護支援の特徴と方法が。わかる 3.在宅療養者の生活を支援するための社会資源活用の必要性和多くの職種との連携・協働の重要性がわかる 4.地域で暮らす人の場に他人が訪問することの意味を考え、対象に配慮した行動がとれる</p>			
日（時間数）		実習方法		実習形態	備考
		午前	午後		
1 日目	9	実習施設でのオリエンテーション、受持ち利用者の情報収集。自己課題提出	受け持ち療養者宅への訪問、もしくはほかの療養者宅への訪問。情報収集、訪問後の記録整理。	施設	
2 日目	9	受け持ち療養者宅への訪問、受持ち以外の療養者宅への訪問。情報収集、訪問後の記録整理。	受け持ち療養者宅への訪問、受持ち以外の療養者宅への訪問。情報収集、訪問後の記録整理。	施設	
3 日目	9	↓	↓	施設	
4 日目	9	↓	↓	施設	
5 日目	9	学内にて受持ち利用者の情報、病理的状态の整理。	学内にて受持ち利用者の情報、病理的状态の整理。	学内	
6 日目	9	受け持ち療養者宅への訪問、受持ち以外の療養者宅への訪問。情報収集、訪問後の記録整理。リストアップ、看護計画（	受け持ち療養者宅への訪問、受持ち以外の療養者宅への訪問。情報収集、訪問後の記録整理。リストアップ、看護計画。	施設	
7 日目	9		↓	施設	
8 日目	9	↓	↓	施設	
9 日目	9	↓	施設カンファレンス（施設状況に合わせて日程変更あり）	施設	
10 日目	9	受け持ち利用者のアセスメントまとめ、記録整理。記録提出のための整理。	受け持ち利用者のアセスメントまとめ、記録整理。実習終了後実習記録提出。	学内	
実習計		10 日間／90 時間			
評価方法		実習評価表に基づき評価（100 点）			
備 考		実習時間 8:30～16:15			

※実務経験のある教員等による授業科目

北見医師会看護専門学校

分 野		専門分野			
科目名		90.成人・老年看護学実習 I			
時期・単位		学年（開講時期）	2 年（後期）	単位（時間数）	2 単位（90）
講師名		狩野 智子			
実習の考え方		成人・老年看護学実習 I は、基礎看護学実習Ⅲ終了後の実習となる。基礎看護学実習Ⅲでは対象の情報収集から看護計画立案までの看護過程の一連の流れについて学習してきた。そのため、対象の身体的・心理的・社会的特徴について捉え、病気をもつ対象を統合的に理解して、その人らしい生活が送れるような、病期にあった看護を考え根拠に基づく援助が行えるようにする。また、家族内で中心的役割を果たす成人期や、人生の最終段階にある老年期の対象の発達課題と役割を理解し、入院によってどのように役割が変化しているのかということも考えられるようにする。さらに、看護師になる上での自己の課題を具体的に考える機会とする。			
実習目的		健康障害を持つ成人・老年期の対象の特徴を理解し、病期にあった看護援助を根拠に基づき行える。			
実習目標		1. 成人期・老年期にある対象の身体的・心理的・社会的特徴が理解できる。 2. 成人期・老年期にある対象の、病期を踏まえた看護を考えることができる。 3. 成人期・老年期にある対象の、病期に応じた看護を根拠に基づき行うことができる。 4. 看護学生としての自己の課題とその対策がわかる。			
日（時間数）		実習方法		実習形態	備考
		午前	午後		
1 日目	5	・技術練習 ・受持ち患者の同意書記載 ・翌日の行動計画立案		学 内	
2 日目	8	・行動計画発表 ・病棟オリエンテーション ・受持ち患者への同意説明	・情報収集 ・看護援助の見学及び一部実施 ・報告・反省	臨 地	
3 日目	8	・行動計画発表 ・不足情報の収集 ・看護援助の見学及び実施	・看護援助の見学及び一部実施 ・報告・反省	臨 地	
4 日目	8	・行動計画発表 ・援助実施	・不足情報収集 援助実施 ・報告・反省 ・基本情報完成	臨 地	
5 日目	8	・行動計画発表 ・病期を踏まえた看護援助実施 ・情報収集	・援助実施 ・報告・反省 ・テーマカンファレンス	臨 地	
6 日目	5	・リストアップ ・中間評価 ・看護の方向性確認 ・技術練習		学 内	
7 日目	8	・行動計画発表 ・記録の追加修正 ・援助実施	・追加の情報収集 ・援助実施 ・報告・反省	臨 地	
8 日目	8	・行動計画発表 ・記録の追加修正 ・援助実施	・追加の情報収集 ・援助実施 ・報告・反省	臨 地	
9 日目	8	・行動計画発表 ・記録の追加修正 ・援助実施	・追加の情報収集 ・援助実施 ・報告・反省	臨 地	
10 日目	8	・技術練習 ・記録整理（看護計画の追加・修正）	・援助実施 ・看護計画立案 ・テーマカンファレンス ・報告・反省	臨 地	
11 日目	5	・行動計画発表 ・技術練習 ・記録整理		学 内	
12 日目	8	・行動計画発表 ・看護計画に基づく援助実施	・看護計画に基づく援助実施 ・カンファレンス（実習の学び） ・報告・反省	臨 地	
13 日目	3	・記録整理 ・記録最終提出		学 内	
実習計		13 日間／90 時間			
評価方法		実習評価表に基づき評価（/100 点）			
備 考					

北見医師会看護専門学校

分 野		専門分野			
科目名		91.成人・老年看護学実習Ⅱ			
時期・単位		学年（開講時期）	3 年（期）	単位（時間数）	2 単位（90）
講師名		狩野 智子			
実習の考え方		<p>成人・老年看護学実習Ⅰでは、対象の身体的・心理的・社会的特徴を理解し、病気を持つ対象を統合的に捉え、病期にあった看護を考え根拠に基づく援助が行える実習を行った。</p> <p>成人・老年看護学実習Ⅱでは、対象を統合的に捉え明確になった問題の優先度を考え、看護計画を立案し看護援助を行う。また、看護援助の結果から対象の変化を通して目標の達成度を評価し、計画修正の必要性を判断し看護過程の展開ができるようにしたい。さらに、看護師になる上での自己の課題を具体的に示して、解決策を考える機会とする。</p>			
実習目的		対象を統合的に捉え、看護過程を展開する方法がわかる。			
実習目標		<p>1. 成人期・老年期にある対象の身体的・心理的・社会的特徴を理解することができる。</p> <p>2. 根拠を持った援助を計画に基づき実施できる。</p> <p>3. 援助の結果を評価し、計画の修正につなげることができる。</p> <p>4. 看護学生としての自覚と責任を持った行動を身につけることができる。</p>			
日（時間数）		実習方法		実習形態	備考
		午前	午後		
1 日目	4	技術練習 翌日の行動計画立案		学 内	
2 日目	8	施設オリエンテーション・行動計画発表・受持ち同意説明・患者情報収集	援助見学 情報収集 報告反省・学生カンファレンス	病 棟	
3 日目	8	行動計画発表・受持ち対象の前日の情報収集・援助実施	カルテ・対象からの情報収集・援助実施・報告反省・学生カンファレンス	病 棟	
4 日目	8	行動計画発表・受持ち対象の前日の情報収集・援助実施	カルテ・対象からの情報収集・援助実施・報告反省・学生カンファレンス（テーマカンファレンスの内容検討）	病 棟	
5 日目	8	行動計画発表・受持ち対象の前日の情報収集・援助実施	援助実施・情報収集・報告反省 テーマカンファレンス	病 棟	
6 日目	5	記録整理・看護問題の明確化・技術練習 中間評価		学 内	
7 日目	8	行動計画発表・受持ち対象の前日の情報収集・援助実施・看護計画立案	カルテ・対象からの情報収集・援助実施・報告反省・学生カンファレンス	病 棟	
8 日目	8	行動計画発表 看護計画に基づく援助実施	援助実施・報告反省 学生カンファレンス	病 棟	
9 日目	8	行動計画発表 看護計画に基づく援助実施	援助実施・報告反省 学生カンファレンス	病 棟	
10 日目	8	行動計画発表 看護計画に基づく援助実施	援助実施・カンファレンス（実習の振り返り）・報告反省・学生カンファレンス	病 棟	
11 日目	5	・記録の修正・看護計画の評価・修正・追加		学 内	
12 日目	8	看護計画の評価・修正・追加 サマリー作成		学 内	
13 日目	4	記録整理		学 内	
実習計		13 日間／90 時間			
評価方法		実習評価表に基づき評価（/100 点）			
備 考					

北見医師会看護専門学校

分 野		専門分野			
科目名		92.成人・老年看護学実習Ⅲ			
時期・単位		学年（開講時期）	3 年（通年）	単位（時間数）	2（90）
講師名		加藤 あずさ			
実習の考え方		<p>成人・老年看護学実習Ⅲでは、急性期にある患者の特徴を理解し、身体の危機的状況から生活機能の回復に至るまでの、状況に応じた看護を学ぶ。成人・老年看護学実習Ⅱまでに学んだ、慢性期、回復期、終末期看護をふまえ、急性期にある対象に起きている変化・反応をもとに、根拠をもって安全・安楽に配慮した看護援助を考えることができる実習とする。また対象が受けている援助の必要性や、自分自身の行った看護援助の妥当性についても考えられることを目指す。</p> <p>さらに急性期にある対象と看護の特徴をふまえ、チームの一員としての看護師の役割を学ぶ実習とする。</p>			
実習目的		急性期にある対象の、身体の危機的状況から生活機能の回復に至るまでの、状況に応じた看護を理解できる。			
実習目標		<ol style="list-style-type: none"> 1. 急性期にある対象の特徴を理解できる。 2. 急性期にある対象への看護援助の必要性を理解できる。 3. 急性期にある対象の生活行動拡大のための援助を実施できる。 4. 看護師になるうえでの自己の傾向と課題を明確にできる。 			
日（時間数）		実習方法		実習形態	備考
		午前	午後		
1日目	5	事前学習の確認 技術練習	個人ワーク	学 内	
2日目	8	病棟オリエンテーション、受け持ち患者同意説明、情報収集、ケアの見学	情報収集	病 棟	
3日目	8	情報収集、行動計画の調整、受け持ち患者に対する看護ケアの実施、記録の修正	情報収集、受け持ち患者に対する看護ケアの実施、記録の修正、反省会	病 棟	
4日目	8			病 棟	
5日目	8	↓	↓ カンファレンス	病 棟	
6日目	5	行動計画、実習記録修正、中間評価、技術練習	個人ワーク	学 内	
7日目	8	情報収集、行動計画の調整、受け持ち患者に対する看護ケアの実施、記録の修正	情報収集、受け持ち患者に対する看護ケアの実施、記録の修正、反省会	病 棟	
8日目	8			病 棟	
9日目	8			病 棟	
10日目	8	↓	↓ カンファレンス	病 棟	
11日目	5	GW：急性期の対象・看護の特徴	記録の修正、明日の行動計画立案、技術練習	学 内	
12日目	8	情報収集、行動計画の調整、受け持ち患者に対する看護ケアの実施、記録の修正	情報収集、受け持ち患者に対する看護ケアの実施、記録の修正、カンファレンス、反省会	病 棟	
13日目	3	記録修正		学 内	
実習計		13 日間／90 時間			
評価方法		実習評価表に基づき評価（/100 点）			
備考					

北見医師会看護専門学校

分 野		専門分野			
科目名		93.小児看護学実習 I			
時期・単位		学年（開講時期）	2 年（期）	単位（時間数）	単位（45）
講師名		松野 絢			
実習の考え方		2 年次の小児看護学概論が終了した後に位置付けた。小児看護学概論では成長発達の基本的知識や小児各期の成長発達、健康、家族、看護、小児と家族を取り巻く環境について学んでいる。本実習では、小児看護学概論で学んだ知識をもとに、幼稚園において健康な小児との交流を通し、小児の成長発達や基本的生活習慣の獲得を促す関わりを学ぶ。また、出生率の低下や核家族化により、小児と接する機会が少なくなっている背景があることから、小児との接し方についても学ぶ。			
実習目的		乳幼児期にある対象を理解し、成長発達や基本的生活習慣の獲得を促す関わりを学ぶ。			
実習目標		1. 健康な乳幼児の成長発達を理解することができる。 2. 健康な乳幼児の成長発達にあった支援方法を理解することができる。 3. 看護学生として適切な行動がとれる。			
日（時間数）		実習方法		実習形態	備考
		午前	午後		
1 日目	9	幼稚園	グループワーク及び個人ワーク	施設 学 内	
2 日目	9	↓	↓	施設 学 内	
3 日目	9	↓	↓	施設 学 内	
4 日目	9	グループワーク	個人ワーク	学 内	
5 日目	9	全体会準備、全体会	↓	学 内	
実習計		5 日間／45 時間			
評価方法		実習評価表に基づき評価（100 点）			
備考		幼稚園実習 8：30～12：30			

※実務経験のある教員等による授業科目

北見医師会看護専門学校

分野		専門分野				
科目名		94.小児看護学実習Ⅱ				
時期・単位		学年（開講時期）	3 年（期）	単位（時間数）	1 単位（45）	
講師名		松野 絢				
実習の考え方		小児看護学実習Ⅰで学んだことをもとに、病棟・外来で小児とその家族の状態を理解し、その小児らしい生活や成長発達ができるよう、病気に伴う苦痛の緩和、健康の回復・維持・増進を図るための看護の実際を学ぶ。また、核家族化により、小児への接し方、健康問題が生じた際の対処の仕方などに不安を持つ家族が増えている。その一方で在院日数の短縮化により、家庭での治療・処置を継続するケースも多く、家族を支援していくこと、病棟、外来、多職種との連携が重要となっている。このことから、病棟実習では病気や入院が小児・家族に及ぼす影響について考え、苦痛の緩和、健康回復・維持に向けて小児とその家族に必要な支援を学ぶ。外来実習では、乳幼児健診の見学や、受診した小児・家族の映像事例を通した外来受診の流れを知り、看護師の関わりの実際を見て、小児・家族に必要な支援を学ぶ。				
実習目的		小児とその家族を理解し、苦痛の緩和、健康の回復・維持・増進を図るための看護の実際を学ぶ。				
実習目標		1. 健康障害や入院・治療が、子どもと家族に与える影響を理解することができる。 2. 子ども・家族の健康および生活上のニーズを捉え、個別の状況に合った支援を考えることができる。 3. 安全・安楽に配慮して援助を実施もしくは見学できる。 4. 小児科外来看護について理解することができる。 5. 小児看護の役割を考えることができる。 6. 看護学生として適切な行動がとれる。				
日（時間数）		実習方法			実習形態	備考
		午前		午後		
1 日目 ／	9	病棟オリエンテーション 受け持ち患児決定・同意説明、情報収集	情報収集 看護師に同行し、看護の実際を見学		病棟	
2 日目 ／	9	情報収集 援助の実施・見学			病棟	
3 日目 ／	9	↓			病棟	
4 日目 ／	9	援助の実施・見学 実習での学びのカンファレンス	小児科外来にて 1 か月健診を見学		病棟 外来	
5 日目 ／	9	個人ワーク（記録整理など）			学内	
実習計		5 日間／45 時間				
評価方法・配点		実習評価表に基づき評価（100 点）				
備考						

北見医師会看護専門学校

分野		専門分野				
科目名		95.母性看護学実習				
時期・単位		学年（開講時期）	3 年（通年）	単位（時間数）	2（90）	
講師名		八重樫 明子				
実習の考え方		母性看護学では、女性の一生を通じた健康の維持増進と疾病予防、妊産褥婦および新生児への看護活動、次世代の健全育成について学習を深めてきた。近年の学生は少子・核家族化の社会に生まれ育ち、周産期にある看護の対象に接する機会が少ない。そのような中で臨地実習において、妊娠期にある女性とその家族、分娩を経て産褥期にある女性と新生児およびその家族との関わりを通し、統合体としての母性や、親となる家族を理解する機会としたい。また、対象の生命と安全・安楽を守る観察の視点と看護技術およびセルフケアを促す看護支援の実践を体験するものとしたい。実習を通して、次世代が健康に生まれ育つことが人類の普遍的な願いであることを実感し、母性看護の対象への看護支援の重要性を理解するとともに、学生自身の母性・父性を育む機会を期待する。産褥・早期新生児期は対象の変化が著しいため、学生は対象の変化を捉え、指導者とともに安全・安楽な看護実践を体験できる実習としたい。				
実習目的		1. 妊娠期にある対象に必要な看護を実践するための基礎的能力を養う。 2. 産褥婦および新生児の看護援助の実践を通し、看護実践のための基礎的能力を養う。				
実習目標		1. 妊娠各期の妊婦の生理的・心理社会的変化を理解し、必要な看護支援がわかる。 2. 妊婦健診時の看護技術の一部を安全・安楽に実施できる。 3. 分娩・産褥期の正常な身体的・心理社会的変化を理解し、必要な看護援助がわかる。 4. 新生児期の正常な経過を理解し、必要な看護援助を実施できる。 5. 褥婦および新生児への必要な看護援助を計画し、対象を尊重して安全・安楽に実施できる。 6. 看護学生として主体的に取り組み、ふさわしい態度と行動ができる。 7. 人間の営みと生命の尊さを実感し、母性観・父性観を意識することができる。				
日（時間数）		実習方法			実習形態	備考
		午前		午後		
1 日目 ／	9	1 週目	事前学習確認、技術演習（妊婦の計測、NST）、妊婦体験（スーツ装着）	紙上事例の初期情報収集、映像教材視聴、NST 判読	学 内	
2 日目 ／	9		紙上事例（模擬妊婦）の情報収集と保健指導、技術演習	情報整理、紙上事例の後期情報収集、映像教材視聴、NST 判読	学 内	
3 日目 ／	9		紙上事例（模擬妊婦）の情報収集と保健指導、技術演習	情報整理、映像教材視聴、NST 判読	学 内	
4 日目 ／	9		技術テスト（妊婦の計測）、NST 判読テスト、カンファレンス	映像教材視聴、分娩期の看護計画立案（GW）	学 内	
5 日目 ／	9		沐浴演習、演習後デブリーフィング、映像教材視聴	記録整理	学 内	
6 日目 ／	9	2 週目	映像教材視聴、退院指導の看護計画立案（GW）	退院指導の計画立案（GW） 記録整理	学 内	
7 日目 ／	9		病棟オリエンテーション、受け持ち患者同意説明、情報収集、ケア見学	情報収集、ケア見学、翌日の行動調整	病 棟	
8 日目 ／	9		情報収集、行動計画の調整、ケア見学・実施、記録の修正	情報収集、ケア見学・実施、記録の修正、翌日の行動調整	病 棟	
9 日目 ／	9			↓	病 棟	
10 日目 ／	9		↓	情報収集、ケア見学・実施、記録の修正、カンファレンス	病 棟	
実習計		10 日間／90 時間				
評価方法・		実習評価表に基づき評価（/100 点）				
備考						

北見医師会看護専門学校

分野	専門分野									
科目名	96. 精神看護学実習									
時期・単位	学年（開講時期）			3 年（前期～後期）		単位（時間数）			2（90）	
講師名	秋山 聡美									
実習の考え方	<p>現代社会では社会の変化に伴う様々な要因により心身に変調をきたしやすく、誰しもが心の病となり得る。精神障害は五大疾病のなかで患者数が最も多く、現代社会における精神看護のニーズは高まっている。精神看護の対象は精神障害により生きにくさを抱えた当事者だけでなく、その家族、コミュニティーをも含む。臨地で当事者との関りを通して対象を理解し、精神障害による生きにくさ、対人関係への影響、精神障害をもちながらもその人らしく生きるためにどのような看護が必要かを考える。看護の対象および実習に関連する人々とのコミュニケーションを通して、人間関係形成能力を高め、相手も自分も尊重する態度を培いたい。さらに自己の傾向を省察し自分の強みと課題の理解を深める実習としたい。</p> <p>地域実習では地域で福祉施設を利用しながら生活する精神障害者との関りから学びを深める。病棟実習では入院している精神障害のある患者を受持ち、対象理解を深め必要な看護を考え、看護観を養いたい。</p>									
実習目的	支援および入院治療を必要とする精神に障害のある対象を理解し、看護を実践する基礎的能力を養う。									
実習目標	1. 地域社会で生活している精神に障害のある人の特徴と支援を理解する。 2. 人と人とのコミュニケーションを通して相互関係を理解し、対象理解・自己理解を深めることができる。 3. 対象の症状と生活史の関連を考え、生きにくさを理解し、その人らしく生きるために必要な看護援助を理解できる。 4. 看護学生としての役割と自己成長を自覚し、精神看護における看護観を養うことができる。									
日（時間数）	実習方法							実習形態	担当	備考
			午前			午後				
/	3	精神地域実習		DVD視聴「発達障害の理解と支援」「なぜ伝わらないのか、どうしたら伝わるのか」			学内	秋山		
/	3			【臨地実習】川東の里 施設見学 施設オリエンテーション レポート作成			施設	秋山		
1週日月	8		【臨地実習 川東の里】作業支援	【臨地実習 川東の里】作業支援			施設	秋山		
1週目火	8		【臨地実習 川東の里】作業支援	【臨地実習 川東の里】作業支援			施設	秋山		
1週目水	6		事前学習レポート提出：地域・病棟実習分 カンファレンス「実習での学びの共有、ノーマライゼーション」	DVD「認知症を生きる高齢者のコミュニケーション」基礎編・実践編 視聴			学内	秋山		
1週目木	9	精神Ⅱ実習（病棟）	【病棟実習】行動計画発表、病棟オリエンテーション、患者紹介、情報収集	【病棟実習】情報収集、看護援助の実施、本日の反省			病棟	秋山		
1週目金	9		【病棟実習】行動計画発表、情報収集、看護援助の実施	【病棟実習】情報収集、看護援助の実施、本日の反省、テーマカンファレンス			病棟	秋山		
2週日月	8		【学内実習】行動計画・実習記録の整理、DVD「依存症と共依存」	【学内実習】行動計画・実習記録の整理、DVD「SST」			学内	秋山		
2週目火	9		【病棟実習】行動計画発表、情報収集、看護援助の実施	【病棟実習】情報収集、看護援助の実施、本日の反省			病棟	秋山		
2週目水	9		【病棟実習】行動計画発表、情報収集、看護援助の実施	【病棟実習】情報収集、看護援助の実施、本日の反省			病棟	秋山		
2週目木	9		【病棟実習】行動計画発表、情報収集、看護援助の実施	【病棟実習】情報収集、看護援助の実施、本日の反省			病棟	秋山		
2週目金	9		【病棟実習】行動計画発表、情報収集、看護援助の実施	【病棟実習】情報収集、看護援助の実施、本日の反省、カンファレンス			病棟	秋山		
実習計	15 日間／90 時間									
評価方法/配点	実習記録・評価表は、実習終了の翌週月曜日に学校へ提出。詳細は担当教員と調整。 実習評価表・ルーブリックに基づき評価（100 点）									
備考	地域実習は 9:00～16:00 プロムナードバス乗車、病棟実習は 9：00～16：45									

北見医師会看護専門学校

分野		専門分野			
科目名		97.統合実習			
時期・単位		学年（開講時期）	3 年（後期）	単位（時間数）	2（90）
講師名		加藤 あずさ			
実習の考え方		<p>統合実習は既習の知識や技術を統合し、卒業前に直面するリアリティショックを緩和できることをねらいとする。今までの実習では一人の対象と向き合う実習を行ってきたため、実際に病棟での看護業務の詳細を知る機会は少なく、就業して初めて看護業務の複雑さや多様さを実感する。そこで、看護師が行う複数受け持ち患者に発生する事象への対処の実際を通して、看護師の観察、気づき、解釈、判断を理解するとともに、看護の優先度や時間管理を学ぶ。また、医療チームにおける看護の実際から、医療安全や多職種との協働を学び、看護師のリーダーシップおよびメンバーシップ、看護管理について考える機会とする。</p> <p>さらに学生が実習を通してチーム医療や医療安全を意識し、その中で看護の役割と責務を改めて認識し、自分の看護師像を明確にできる実習とする。</p>			
実習目的		実際の看護業務の体験を通して、看護の役割と責務を認識する。			
実習目標		<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床看護師が実践する看護援助を見学し、看護援助の優先度の判断・対処の考え方を理解する。 2. 施設における看護管理の実際を見学し、医療安全・チーム医療について理解を深める。 3. チームの一員として積極的に学習し、自分の目指す看護師像を明確にする。 			
日（時間数）		実習方法		実習形態	備考
		午前	午後		
1 日目	8	事前学習の提出・追加・修正 技術練習	技術練習 個人ワーク	学 内	
2 日目	9	病院・病棟オリエンテーション 申し送り見学、行動調整	師長業務・役割について 医療安全の実際について 本日の振り返り、明日の予定確認	病 棟	
3 日目	9	申し送り見学、行動調整 日勤リーダー看護師の役割について	シャドーイングする看護師が担当する患者の状態と看護問題・予定を確認 本日の振り返り、明日の予定確認	病 棟	
4 日目	9	申し送り見学、行動調整 看護師にシャドーイング	看護師にシャドーイング 本日の振り返り、明日の予定確認 カンファレンス	病 棟	
5 日目	9			病 棟	
6 日目	8	中間評価 ▼	▼	病 棟	
7 日目	8	グループワーク 師長・リーダーの役割について	グループワーク グループ発表	学 内	
8 日目	8	グループワーク 医療安全・チーム医療について	グループワーク グループ発表	学 内	
9 日目	8	グループワーク 看護援助の優先度の判断と対処について	グループワーク グループ発表	学 内	
10 日目	8	グループワーク 患者の安全・安楽・自立について	グループワーク グループ発表	学 内	
11 日目	5	個人発表 自己の課題		学 内	
実習計		10 日間／90 時間			
評価方法・		実習評価表に基づき評価（/100 点）			
備考					

